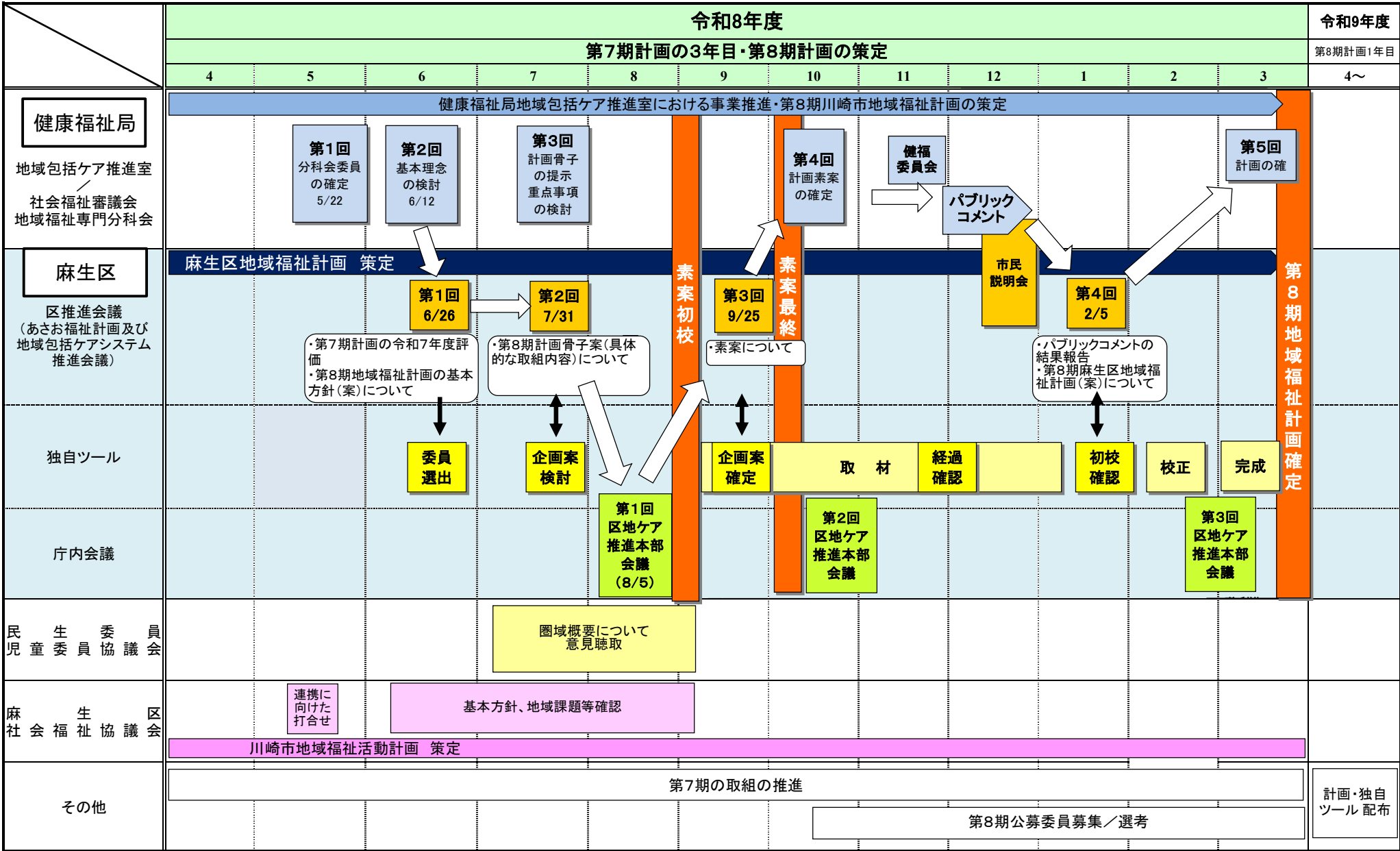


第8期麻生区地域福祉計画 策定スケジュール

【資料3】



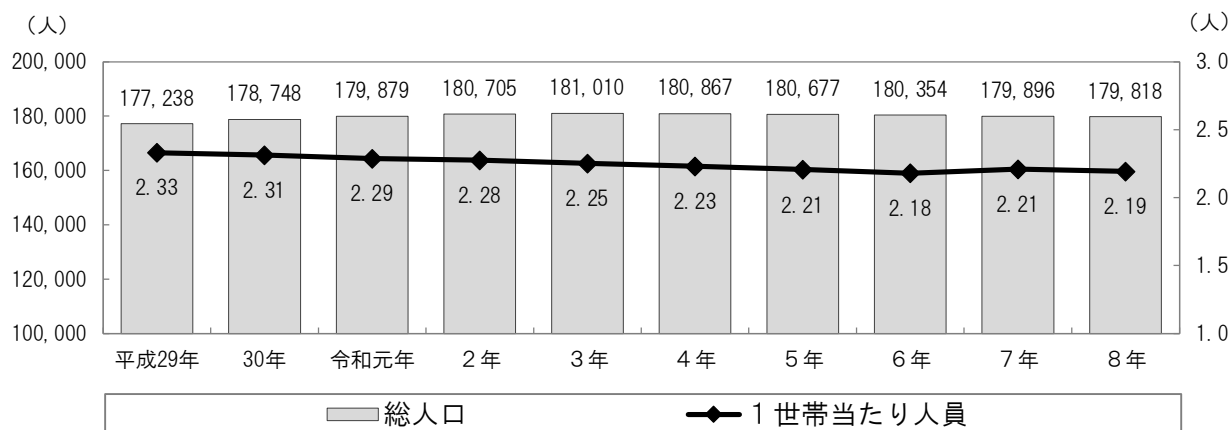
麻生区の現況

(1) 人口・世帯の状況

① 総人口と1世帯当たり人員の推移

本区の人口は、令和2年に18万人を超えましたが、令和3年をピークに減少傾向に転じています。

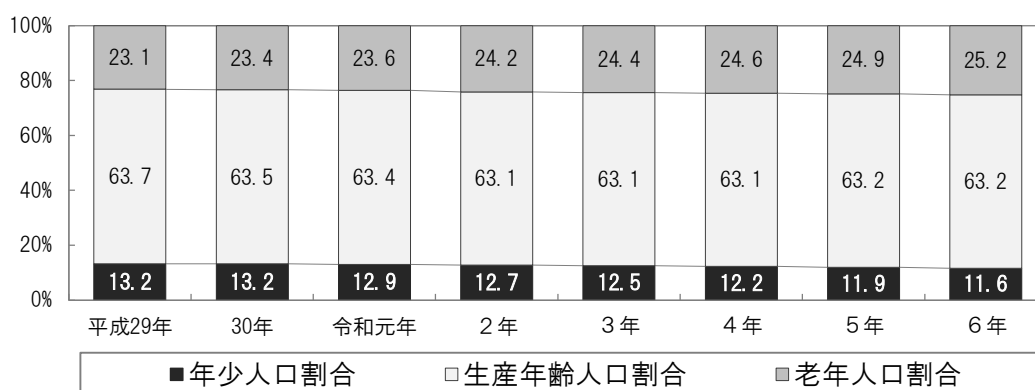
一方、1世帯当たり人員は令和5年から2.20人程度で推移しています。



資料：川崎市統計情報「川崎市の世帯数・人口」（各年10月1日現在、令和7年は国勢調査の速報値、令和8年は4月1日現在）

② 年齢3区分別人口構成の推移

本区の年齢3区分別人口*構成は、老年人口割合（65歳以上）が上昇を続け、令和6年10月1日現在25.2%となり、平成29年から2.1ポイント高くなっています。一方、年少人口割合（0～14歳）は低下しており、令和6年10月1日現在11.6%となり、平成29年から1.6ポイント低くなっています。

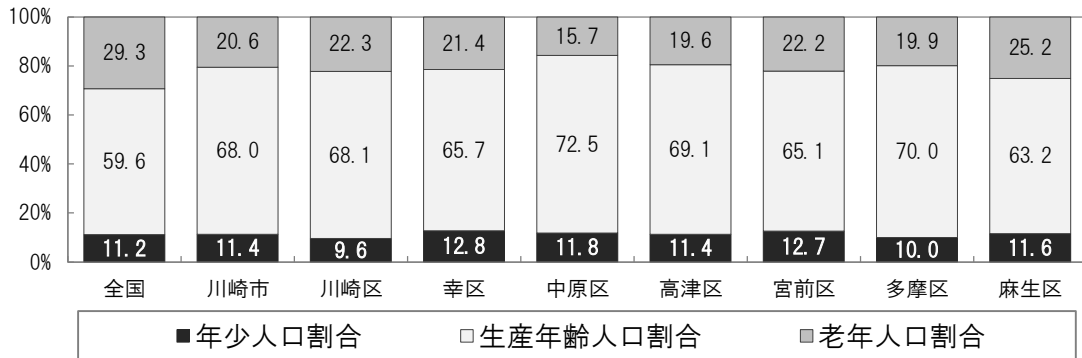


資料：川崎市統計情報「長期時系列データ（年齢別人口）」（各年10月1日現在）

* 年齢3区分別人口：年少人口は0～14歳以下、生産年齢人口は15～64歳、老年人口は65歳以上の人口のことです。

③ 区別年齢3区分別人口構成

年齢3区分別人口構成を区別に見ると、本区は老年人口割合が最も高く、生産年齢人口割合が最も低くなっています。

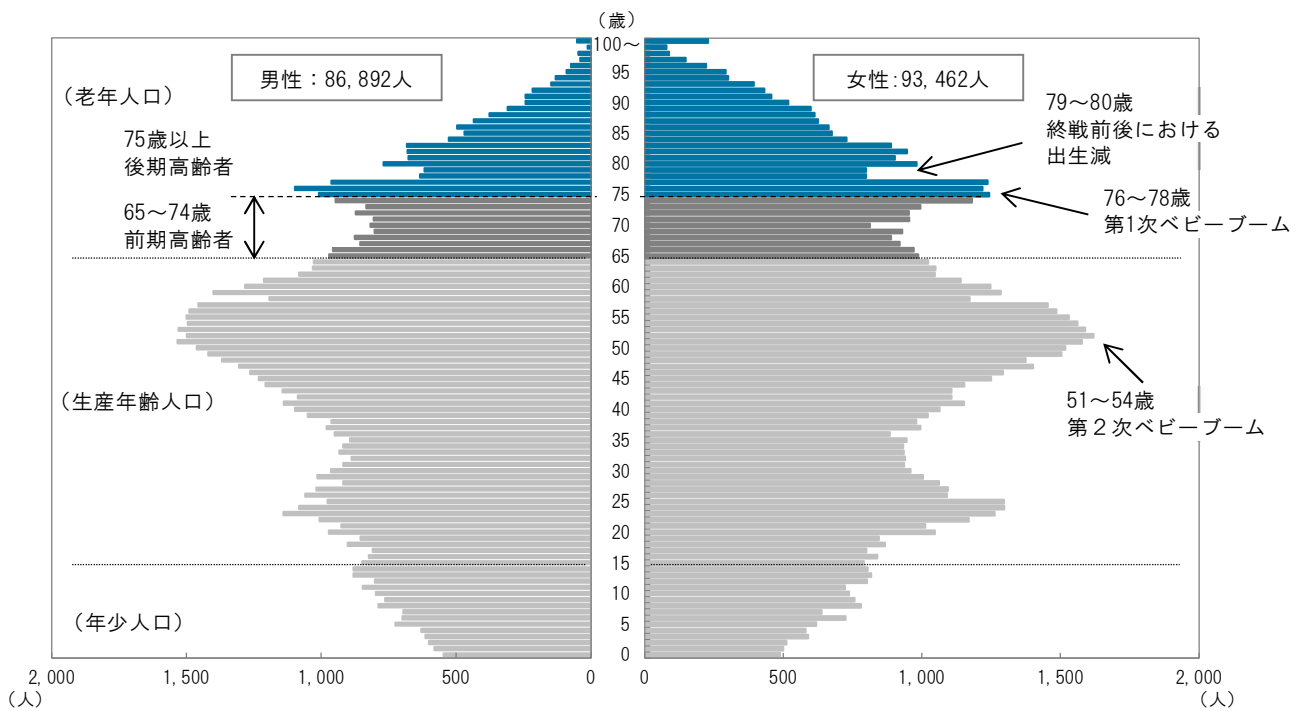


資料：川崎市統計情報「年齢別人口」（令和6年10月1日現在）

④ 人口ピラミッド

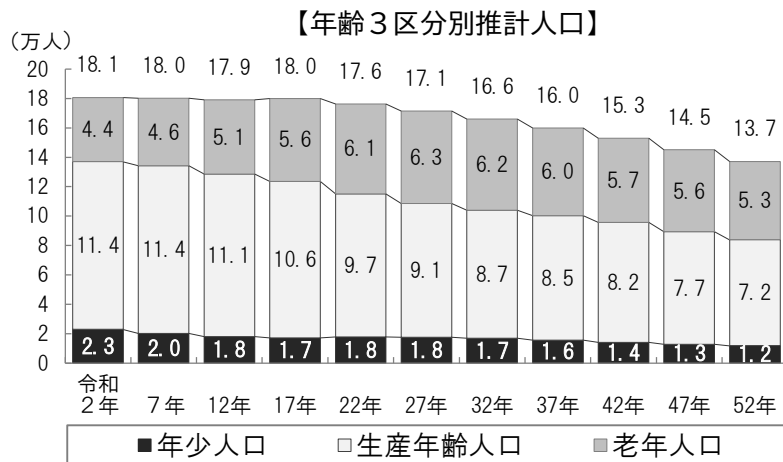
本区の人口を年齢ごとに表した人口ピラミッドは、「51～55歳」を中心とした張り出しが大きくなっています。

また、性別人口をみると女性が男性の人口を上回っています。

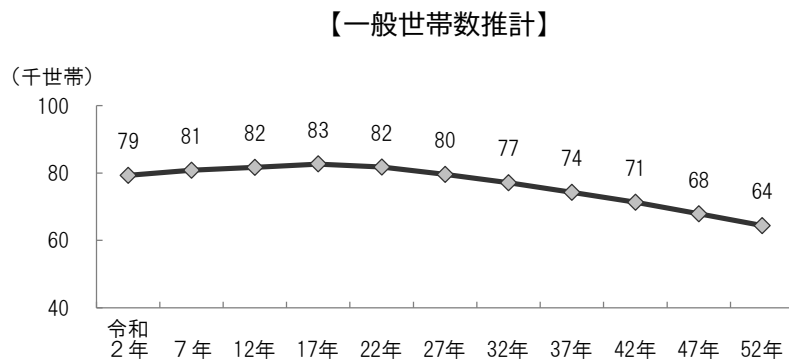


資料：川崎市統計情報「年齢別人口」（令和6年10月1日現在）

⑤ 将来推計人口



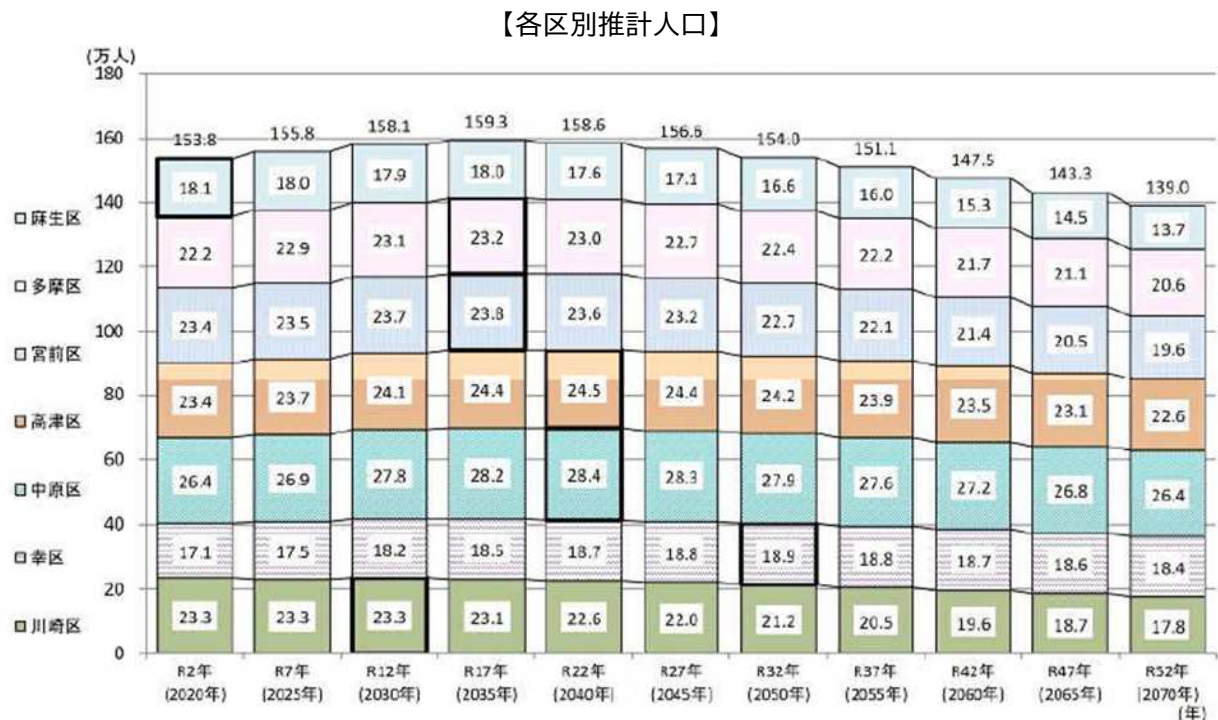
※各年10月1日現在。
端数処理を行っているため、合計が合わない場合があります。



令和7(2025)年5月の「川崎市総合計画改定に向けた将来人口推計」によると、本区の総人口は、令和2(2020)年頃をピークに減少過程に移行すると推計されています。

老年人口は当面増加を続け、令和27(2045)年頃にピークを迎えると推計されています。

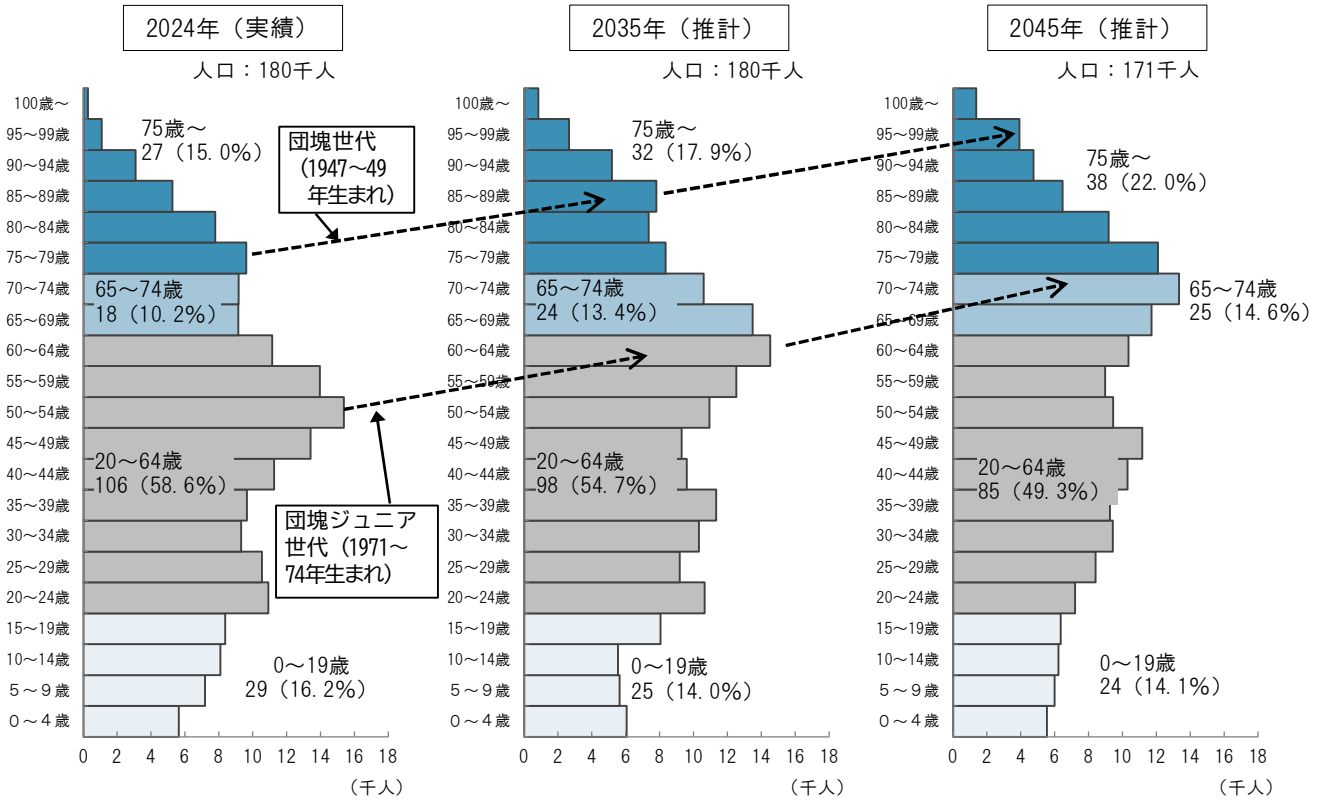
一方、一般世帯数は令和17(2035)年頃まで増加し、それ以降は減少過程に移行すると推計されています。



※各年10月1日現在。端数処理を行っているため、合計が合わない場合があります。

資料：「川崎市総合計画改定に向けた将来人口推計」令和7(2025)年5月 川崎市総務企画局

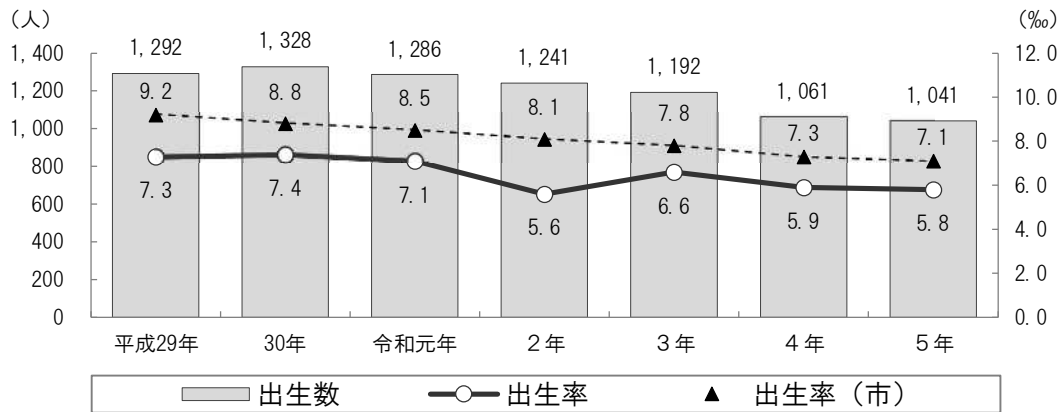
【本区における人口ピラミッドの変化】



資料：川崎市統計情報「年齢別人口」（令和6年10月1日現在）
「川崎市総合計画改定に向けた将来人口推計」令和7年5月 川崎市総務企画局

⑥ 出生数・出生率の推移

出生数は、平成30年以降減少が続き、令和5年は1,041人となっています。出生率（人口千対）についても平成29年の7.3‰から低下し、令和5年には5.8‰となっており、市全体より低く推移しています。

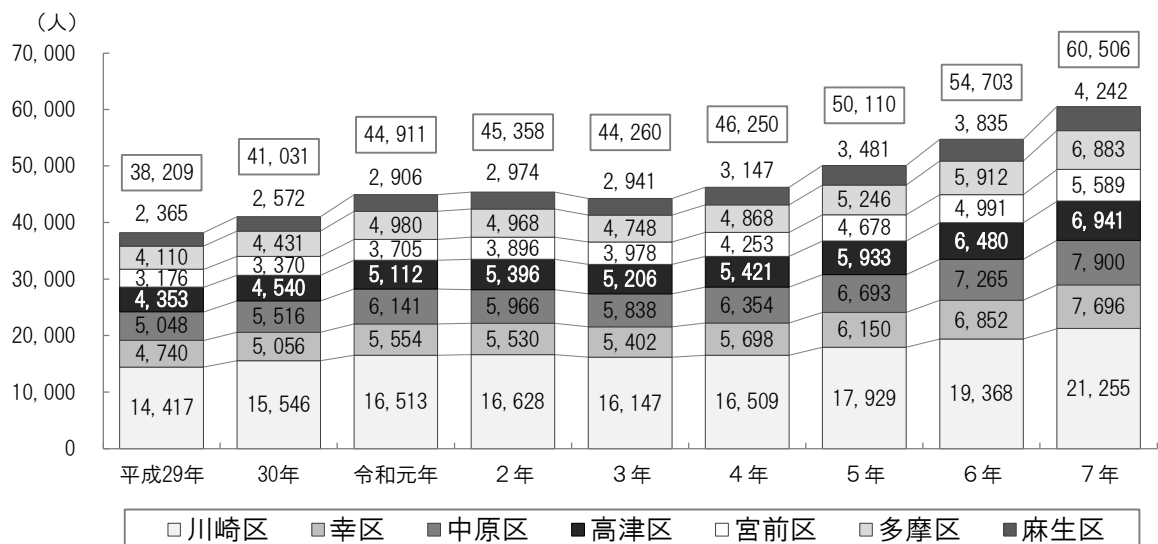


資料：川崎市統計書（Ⅲ-12表 出生・死亡・婚姻・離婚数の推移）

※‰（パーミル）＝千分率（1,000分の1を1とする。）

⑦ 外国人住民人口の推移

本区の外国人住民人口は、市内では最も少ないものの、おおむね増加傾向にあり、令和7年には4,242人となっており、平成29年から1,877人増加しています。



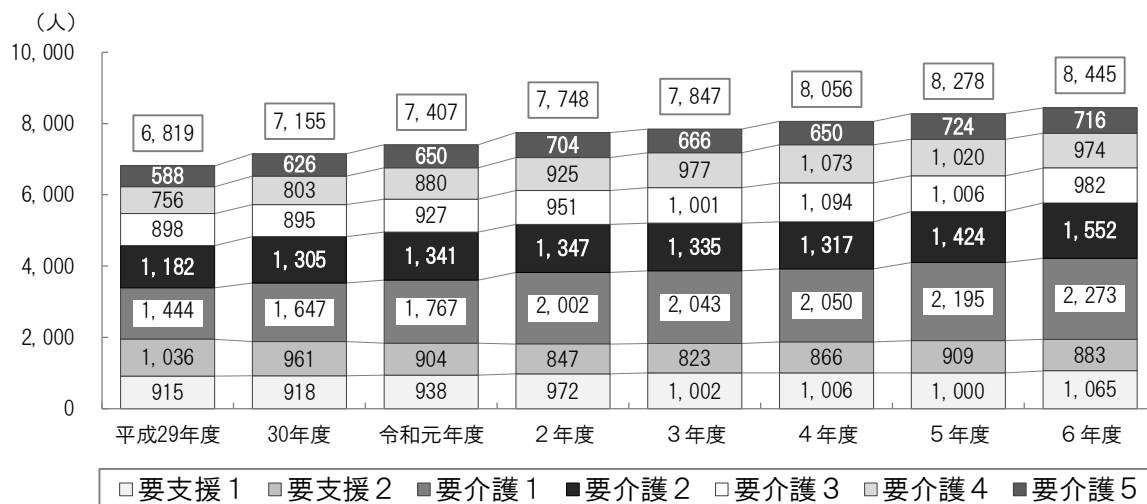
資料：川崎市統計情報「管区別年齢別外国人住民人口」（各年9月30日現在）

(2) 高齢者福祉関係の統計

① 要支援・要介護認定者数（第1号被保険者）の推移

本区の要介護・要支援認定者数は、高齢化の進行とともに増加しており、令和6年度は平成29年度から1,626人増え、8,445人となっています。

また、認定率は平成29年度の17.1%から19.5%に上昇しています。



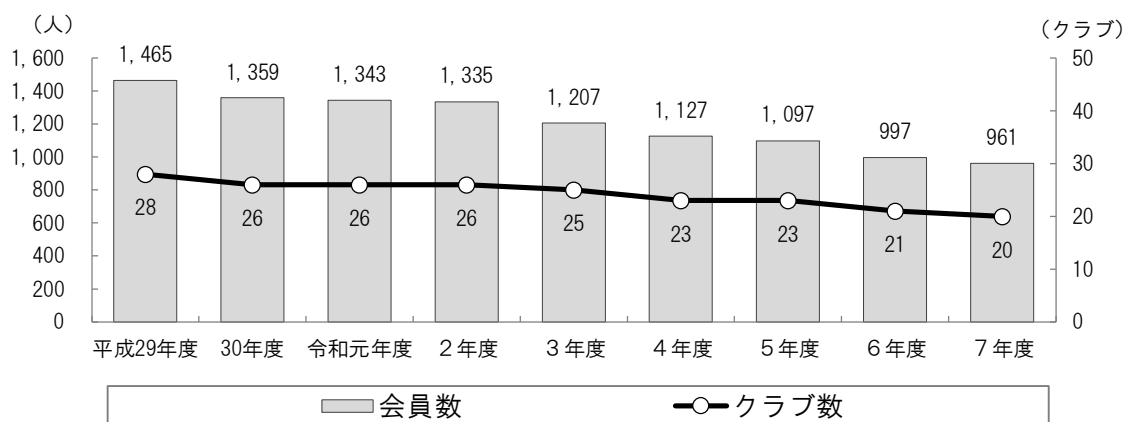
資料：川崎市統計書（XVI-29表 介護保険の概況）（各年度末）

※認定率：第1号要介護・要支援認定者数／第1号被保険者数

② 老人クラブの会員数等の推移

高齢者人口は増加している一方で、老人クラブのクラブ数、会員数ともに減少傾向にあります。

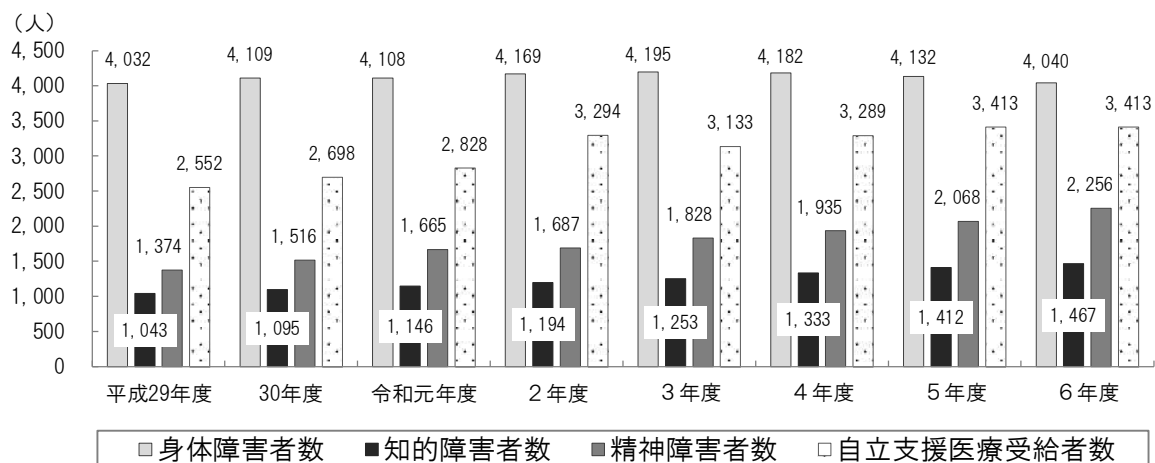
本区の老人クラブ数は、平成29年度から8クラブ減少し、令和7年度は20クラブとなっています。会員数は、令和6年度には1,000人を割り込み、令和7年度は961人となっています。



資料：川崎市統計書（XVI-21表 老人クラブの状況）（各年度4月1日現在）

(3) 障害者福祉関係の統計

本区の知的障害者数、精神障害者数（精神障害者保健福祉手帳所持者）は、いずれも増加傾向となっており、特に精神障害者数は平成29年度から882人増加しています。自立支援医療受給者数は、令和3年度に一旦減少しましたが、その後は増加傾向となっています。一方、身体障害者数（身体障害者手帳所持者）は、令和3年度以降は減少傾向となっています。

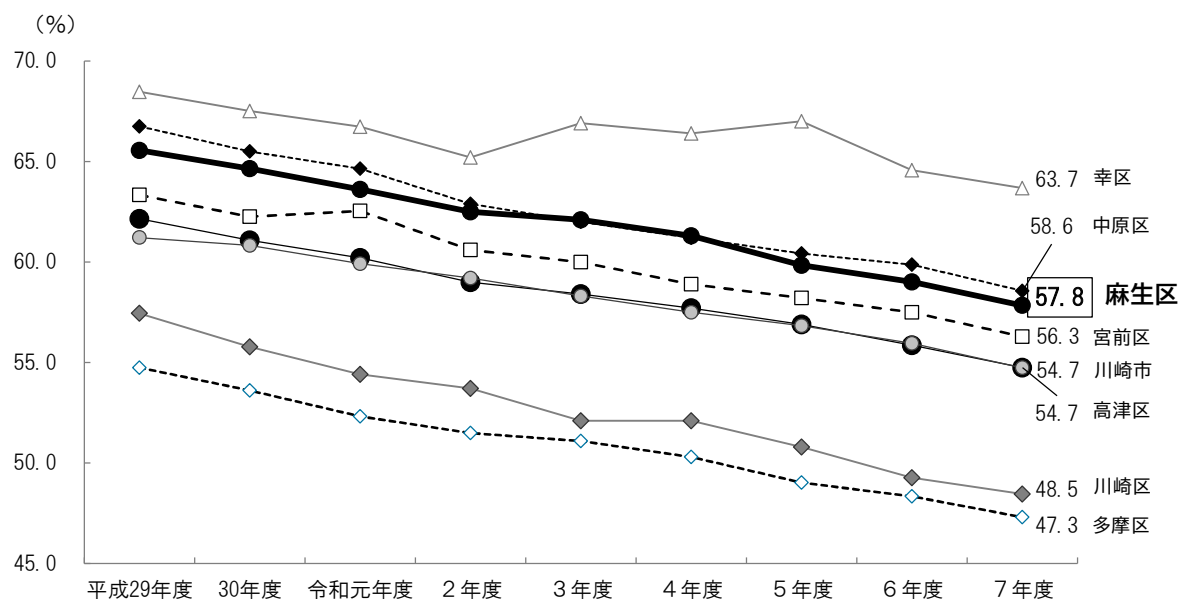


資料：川崎市統計書（XVI-20表 障害者の概況）（各年度末）、
 自立支援医療受給者数は川崎市健康福祉年報（保健統計6-6 精神保健）
 ※知的障害者数は判定のみ受けて手帳を所持していない者も含む。

(4) 各種団体関連・その他統計

① 町内会・自治会等加入率の推移

本区の町内会・自治会等の加入率は低下傾向となっており、令和7年度は57.8%となっています。区別に見ると、本区は幸区、中原区に次いで3番目に高くなっています。



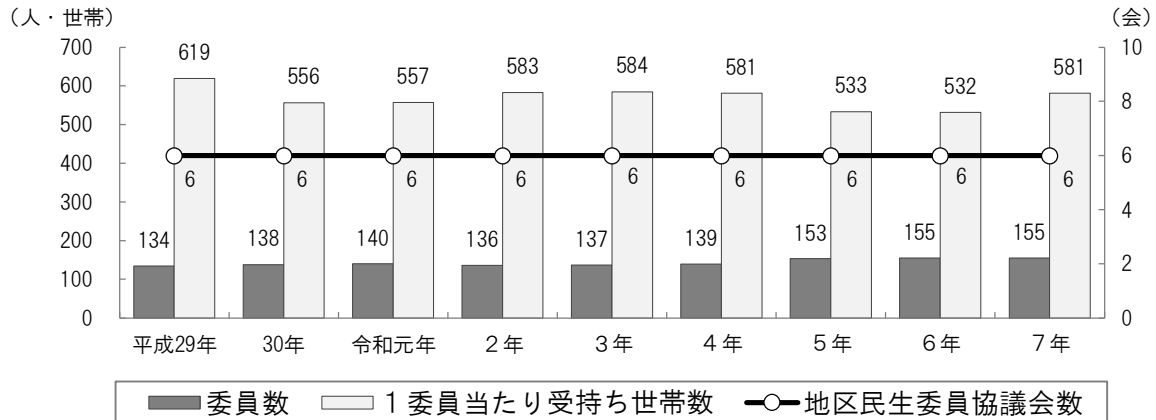
単位：%

	平成 29年度	30年度	令和 元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度
川崎市	62.1	61.1	60.2	59.0	58.4	57.7	56.9	55.9	54.7
川崎区	57.4	55.8	54.4	53.7	52.1	52.1	50.8	49.3	48.5
幸区	68.5	67.5	66.7	65.2	66.9	66.4	67.0	64.6	63.7
中原区	66.8	65.5	64.6	62.9	62.0	61.2	60.4	59.9	58.6
高津区	61.2	60.8	59.9	59.2	58.3	57.5	56.8	56.0	54.7
宮前区	63.3	62.3	62.5	60.6	60.0	58.9	58.2	57.5	56.3
多摩区	54.7	53.6	52.3	51.5	51.1	50.3	49.0	48.3	47.3
麻生区	65.6	64.6	63.6	62.5	62.1	61.3	59.8	59.0	57.8

資料：川崎市統計書（XIV-21表 住民組織加入状況）（各年度4月1日現在）

② 民生委員児童委員数等の推移

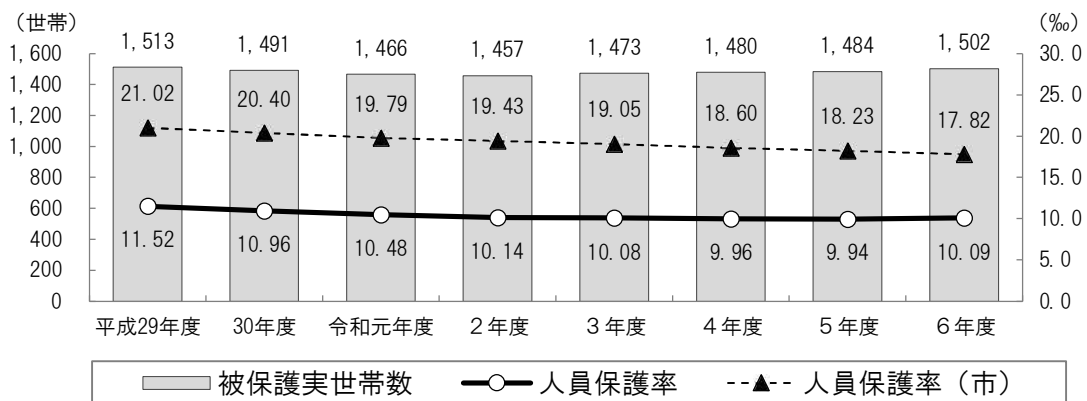
本区の民生委員児童委員の1委員当たり受持ち世帯数は、令和5年、令和6年は減少しましたが、令和7年は再び増加しています。



資料：川崎市統計書（XVI-24表 民生委員・児童委員の概況）（各年4月1日現在）

③ 生活保護*受給世帯数・保護率の推移

本区の被保護実世帯数は、平成30年度から令和5年度まで1,500世帯を下回っていましたが、令和6年度に1,502世帯となっています。人員保護率は市全体より低く推移しており、令和6年度は10.09%となっています。



資料：川崎市統計書（XVI-11表 生活保護の概況）（各年度月平均）

（注）人員保護率は毎月1日現在の推計人口1,000人に対する実人員の率を月平均にしたもの。

* 生活保護：家計を支えていた人が亡くなったり、病気やケガ、高齢や障害など何らかの事情により収入が途絶えたりして生活が困難となった場合、その困窮の程度に応じて必要な保護を行って、最低限度の生活の保障とともに、その自立の手助けをすることを目的とした制度です。健康で文化的な最低限度の生活を行う権利は日本国憲法に定められています。

○麻生区の就業構造について(参考)

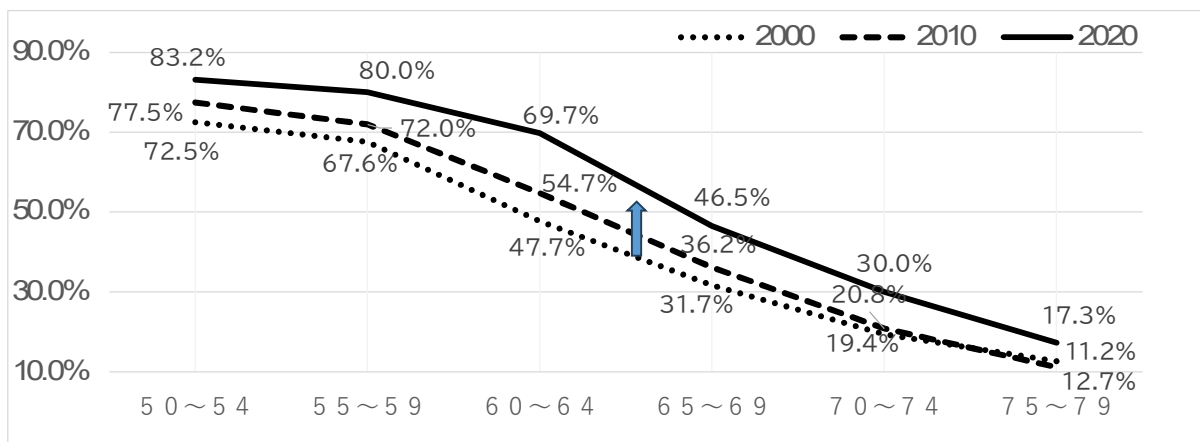
<令和7年度 第2回会議資料より再掲>

- ・高齢者における就業者の割合について、年代別に比較すると、全体的に就業者の割合が増加している。特に60代の増加が著しく、年金の受給年齢に達しても働き続けている方が多いことがうかがえる。

(人、%)

年齢	2000年			2010年			2020年		
	人口	就業者数	割合	人口	就業者数	割合	人口	就業者数	割合
50～54	11,438	8,296	72.5%	8,948	6,932	77.5%	11,586	9,636	83.2%
55～59	9,721	6,573	67.6%	8,786	6,324	72.0%	9,929	7,948	80.0%
60～64	7,952	3,796	47.7%	11,111	6,081	54.7%	8,246	5,751	69.7%
65～69	6,544	2,074	31.7%	9,158	3,315	36.2%	7,759	3,606	46.5%
70～74	4,651	902	19.4%	7,117	1,483	20.8%	9,019	2,704	30.0%
75～79	2,932	371	12.7%	5,797	648	11.2%	6,936	1,197	17.3%

※人口(労働力状態不詳除く)に対する就業者の割合

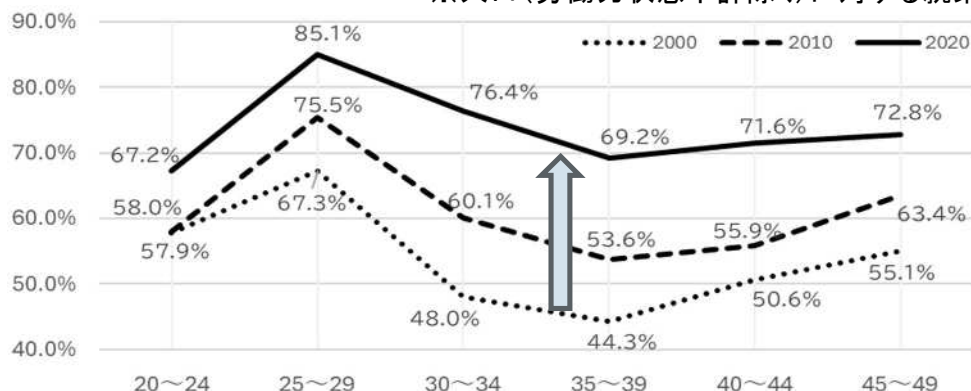


- ・子育て世代の女性の就業者の割合について、年代別に比較すると、ライフステージが変化しても働き続ける女性が多いことがうかがえる。

(人、%)

年齢	2000年			2010年			2020年		
	人口	就業者数	割合	人口	就業者数	割合	人口	就業者数	割合
20～24歳	5,386	3,117	57.9%	4,432	2,572	58.0%	4,347	2,920	67.2%
25～29歳	5,955	4,007	67.3%	4,050	3,056	75.5%	3,513	2,988	85.1%
30～34歳	5,811	2,789	48.0%	5,035	3,027	60.1%	3,448	2,635	76.4%
35～39歳	4,915	2,177	44.3%	6,420	3,444	53.6%	4,043	2,799	69.2%
40～44歳	4,389	2,220	50.6%	6,116	3,417	55.9%	4,993	3,573	71.6%
45～49歳	4,790	2,638	55.1%	5,245	3,327	63.4%	6,242	4,545	72.8%

※人口(労働力状態不詳除く)に対する就業者の割合



「平成12年、平成22年、令和2年 国勢調査(麻生区)」を基に作成

○麻生区における高齢者の一人暮らし世帯(単独世帯)の状況

全世代の単独世帯の割合は16.0%であり、20代と高齢者層について、ひとり暮らしの割合が高い傾向がみられた。特に女性の場合は、70歳から急激な増加がみられ、90歳前半で5割近くに達している。また、人数でも、70代、80代の女性の一人暮らしは5歳当たり約1,000人と、男性の2～3倍にのぼっている。

麻生区におけるひとり暮らし世帯の割合

(人、%)

年齢	男女合計			男性			女性		
	人数	単独世帯	割合	人数	単独世帯	割合	人数	単独世帯	割合
60～64歳	9,543	1,311	13.7%	4,722	707	15.0%	4,821	604	12.5%
65～69歳	8,920	1,310	14.7%	4,217	622	14.7%	4,703	688	14.6%
70～74歳	10,563	1,659	15.7%	4,836	637	13.2%	5,727	1,022	17.8%
75～79歳	8,311	1,435	17.3%	3,792	398	10.5%	4,519	1,037	22.9%
80～84歳	5,958	1,368	23.0%	2,650	292	11.0%	3,308	1,076	32.5%
85～89歳	3,696	1,150	31.1%	1,506	232	15.4%	2,190	918	41.9%
90～94歳	1,410	543	38.5%	510	116	22.7%	900	427	47.4%
95～99歳	277	111	40.1%	87	25	28.7%	190	86	45.3%
100歳以上	34	10	29.4%	7	0	0.0%	27	10	37.0%
全世代	176,702	28,255	16.0%	86,097	14,201	16.5%	90,605	14,054	15.5%

令和2年国勢調査 人口等基本集計(麻生区)を基に作成

第7回川崎市地域福祉実態調査 報告書 麻生区版

令和8年3月

川 崎 市

目 次

I 調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査の設計.....	1
3 回収結果.....	1
4 調査結果の表示方法.....	1
II 調査結果.....	2
(1) 回答者の基本属性について.....	2
(2) 「川崎市地域福祉計画」について.....	9
(3) 居住地域について.....	10
(4) 地域共生社会について.....	24
(5) 認知症について.....	25
(6) 地域活動やボランティア活動について.....	32
(7) 保健・福祉に関することについて.....	38
(8) 防災に対する意識と備えについて.....	41
(9) 今後の地域福祉の推進について.....	44

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査（第7回）は、市民の地域福祉に関する意識を多面的に調査することにより、地域における生活課題を明らかにし、『第8期川崎市地域福祉計画』の策定に必要な基礎資料を得ることを目的とします。

2 調査の設計

調査種別	項目	内 容
地域の生活課題に関する調査	対象者数	18歳以上の男女7,000人（各区1,000人を基本とした）
	抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
	調査方法	郵送配布・WEB回答（礼状形式の督促1回実施）※70歳以上及び希望者には紙のアンケート調査票を送付
	調査時期	令和7年10月27日～令和7年11月30日
		・基本属性について ・「川崎市地域福祉計画」について ・居住地域について ・地域共生社会について ・認知症について ・地域活動やボランティア活動について ・保健・福祉に関することについて ・防災に対する意識と備えについて ・今後の地域福祉の推進について

3 回収結果

区名	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区	不明	全市
配布数（人）	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	-	7,000
有効回収数（人）	406	491	439	454	465	417	445	12	3,129
有効回収率	40.6%	49.1%	43.9%	45.4%	46.5%	41.7%	44.5%	-	44.7%
（参考）第6回収率	30.3%	36.3%	34.6%	34.1%	35.9%	33.2%	37.1%	-	35.0%

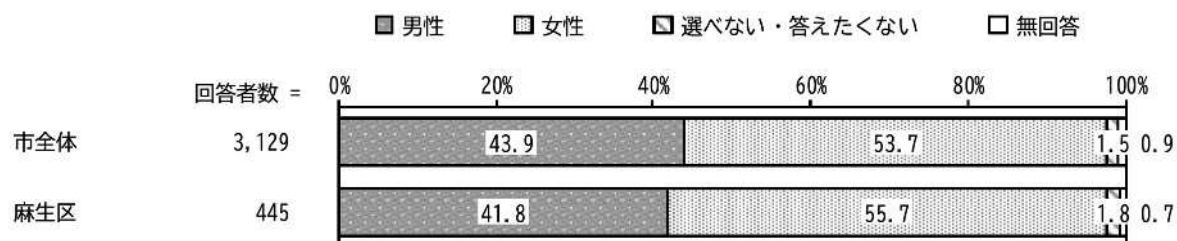
4 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・図・表において、回答の選択肢表記を簡略化している場合があります。

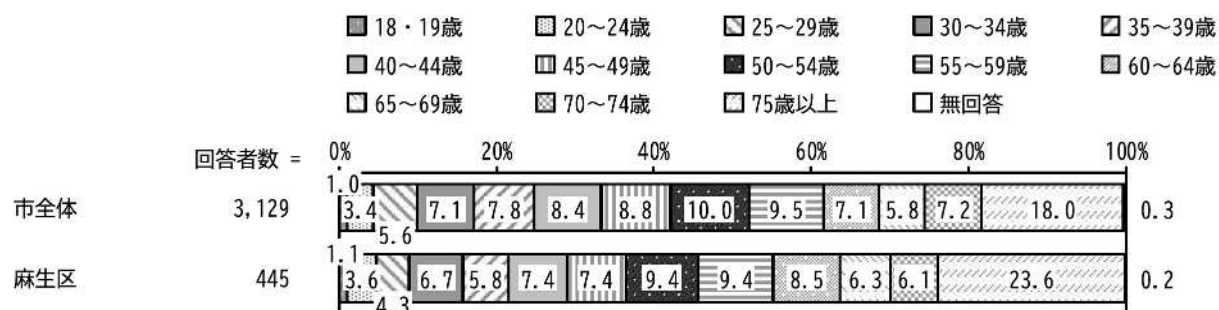
Ⅱ 調査結果

(1) 回答者の基本属性について

問1 性別を教えてください。(○は1つだけ)

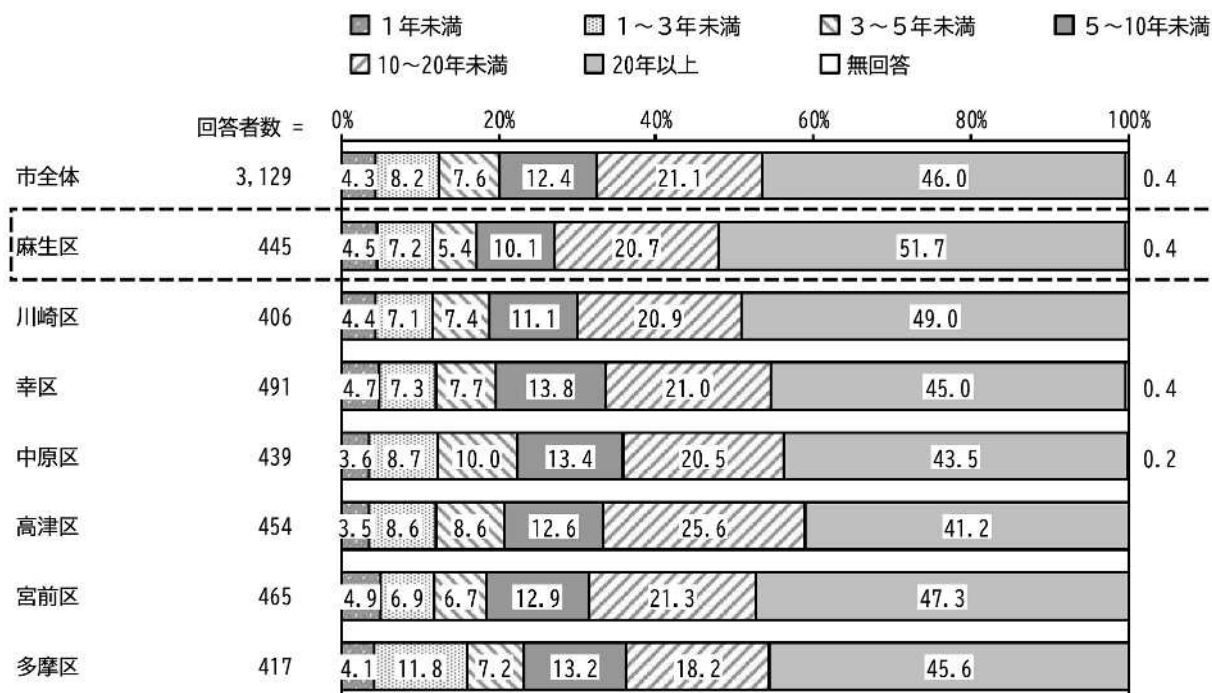


問2 年齢は満何歳ですか。(○は1つだけ)



※問3については、地区を選択する設問のため、地区版では省略します。

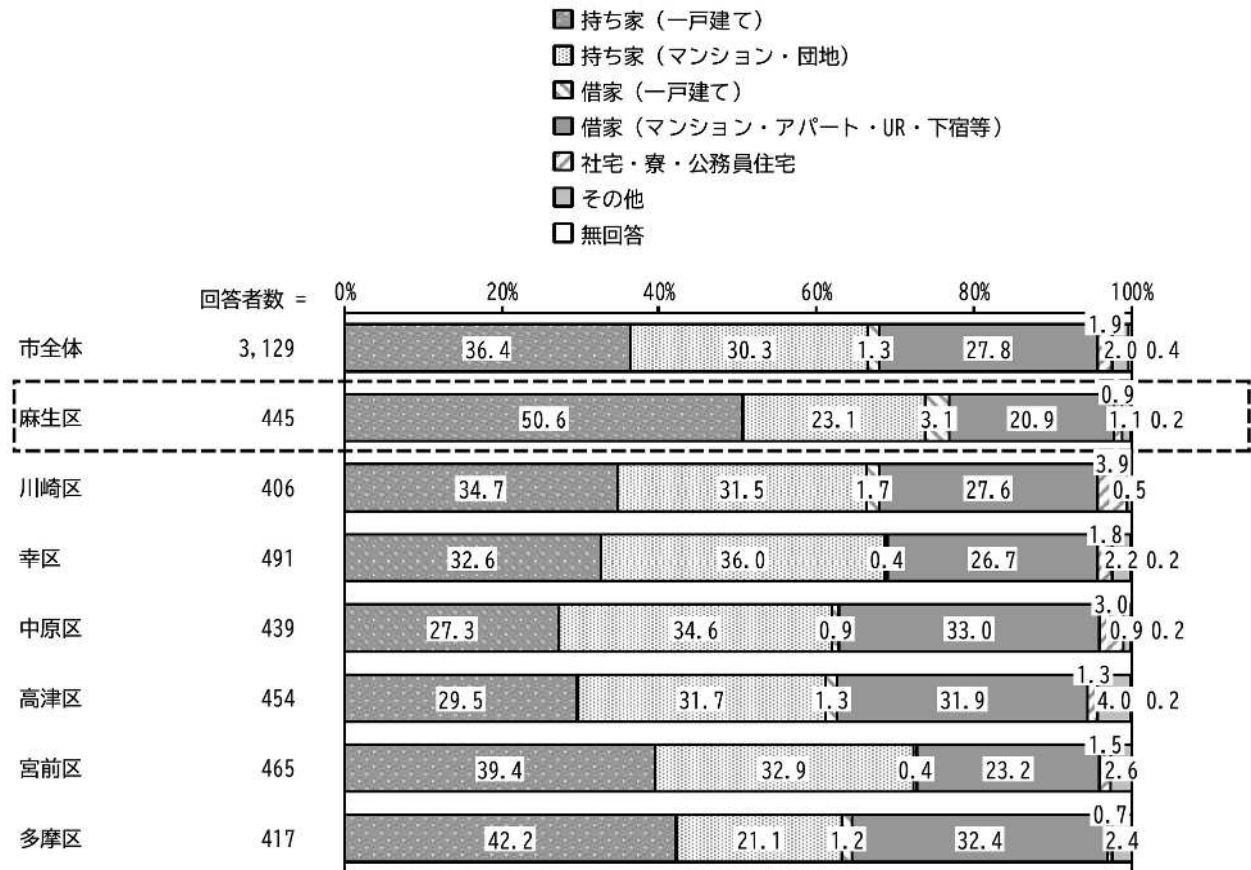
問4 現在お住まいの区には何年住んでいますか。(○は1つだけ)



問5 現在のお住まいの形態を教えてください。(〇は1つだけ)

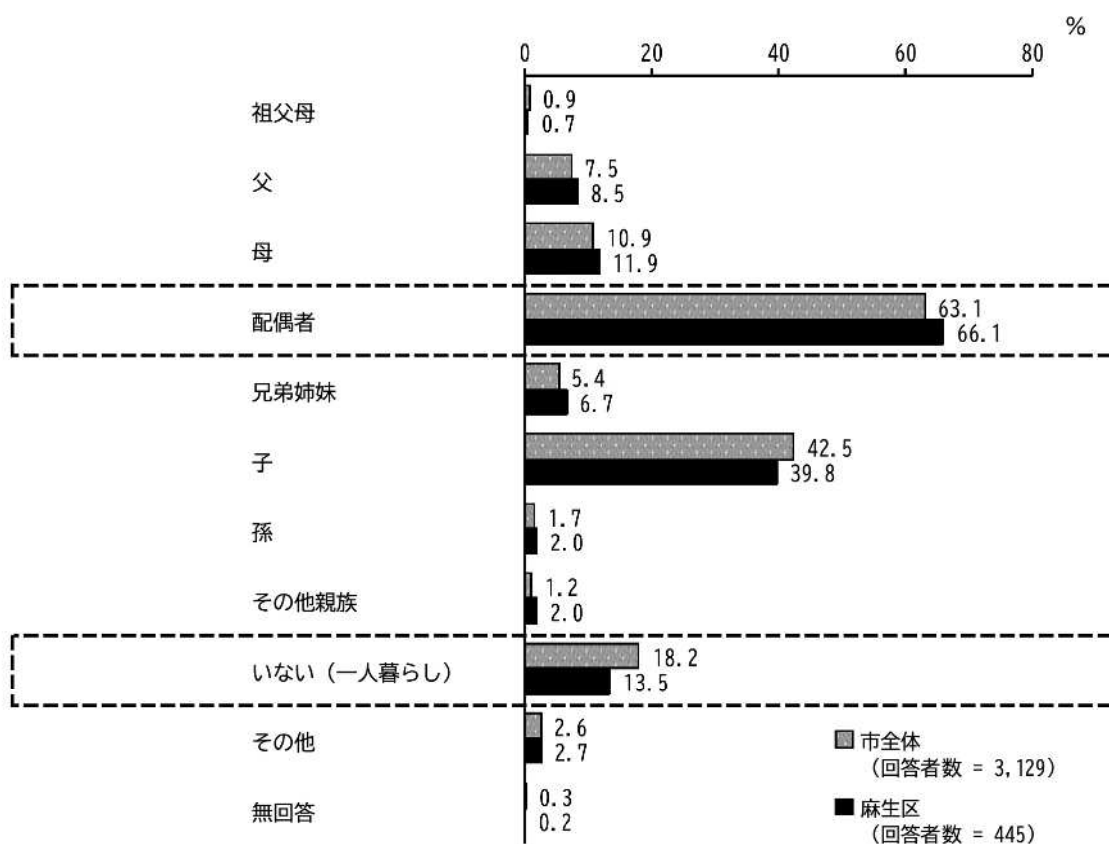
麻生区では「持ち家（一戸建て）」の割合が50.6%と最も高く、次いで「持ち家（マンション・団地）」の割合が23.1%、「借家（マンション・アパート・UR・下宿等）」の割合が20.9%となっています。

他区と比較すると、「持ち家（一戸建て）」「借家（一戸建て）」の割合が最も高く、「借家（マンション・アパート・UR・下宿等）」の割合が最も低くなっています。

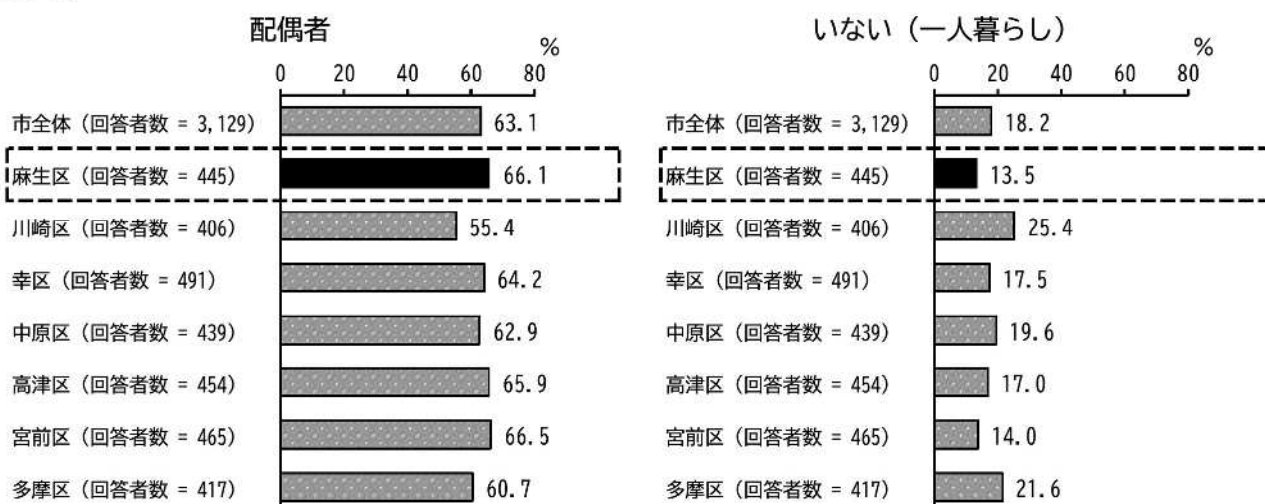


問6 一緒に暮らしているご家族はどなたですか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「配偶者」の割合が 66.1%と最も高くなっており、市全体を 3.0 ポイント上回っています。また、「いない（一人暮らし）」が市全体を 4.7 ポイント下回っています。

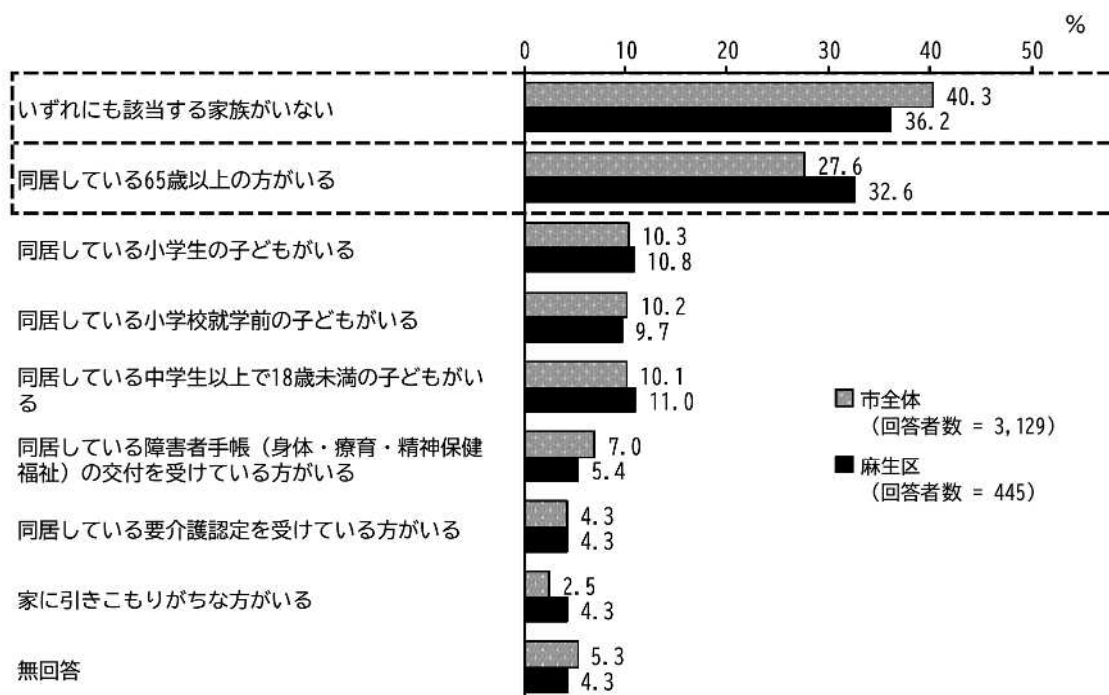


【参考】



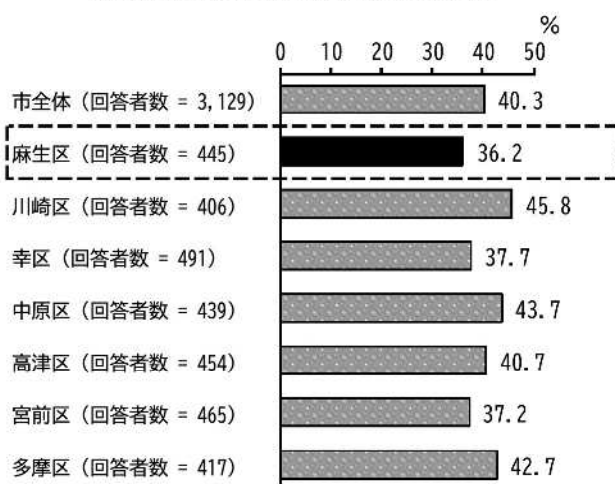
問7 一緒に暮らしているご家族（あなたを含む）のうち、以下の項目に該当する方はいらっしゃいますか。（あてはまるものすべてに○）

麻生区では、「いずれにも該当する家族がいない」の割合が市全体を 4.1 ポイント下回っています。
また、該当する方がいる人のうち、「同居している 65 歳以上の方がいる」の割合が 32.6%と最も高く、市全体を 5.0 ポイント上回っています。

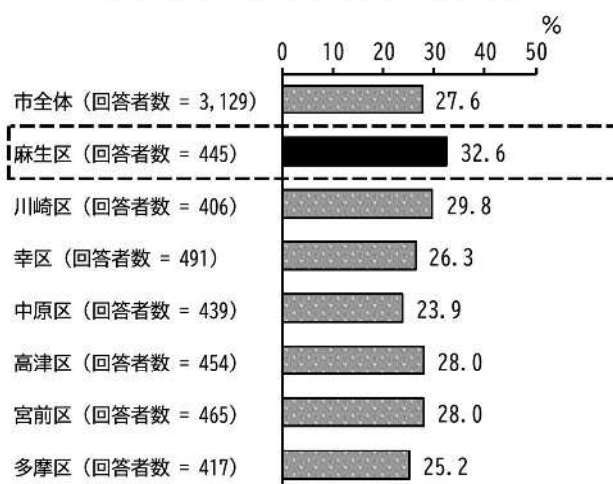


【参考】

いずれにも該当する家族がいない

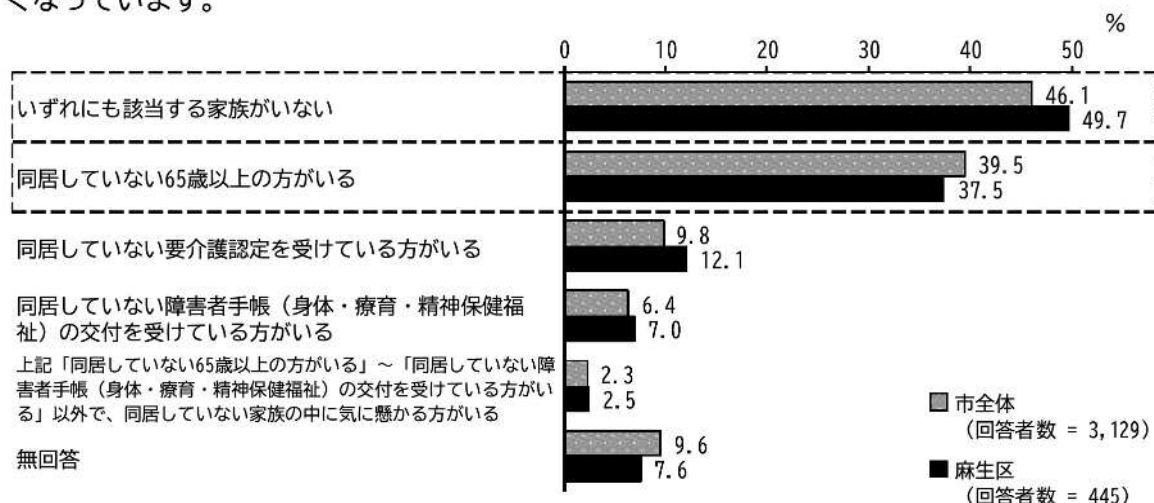


同居している 65 歳以上の方がいる



問7-1 同居していないご家族を含め、ご家族のうち、以下の項目に該当する方は、いらっしゃいますか。(あてはまるものすべてに○)

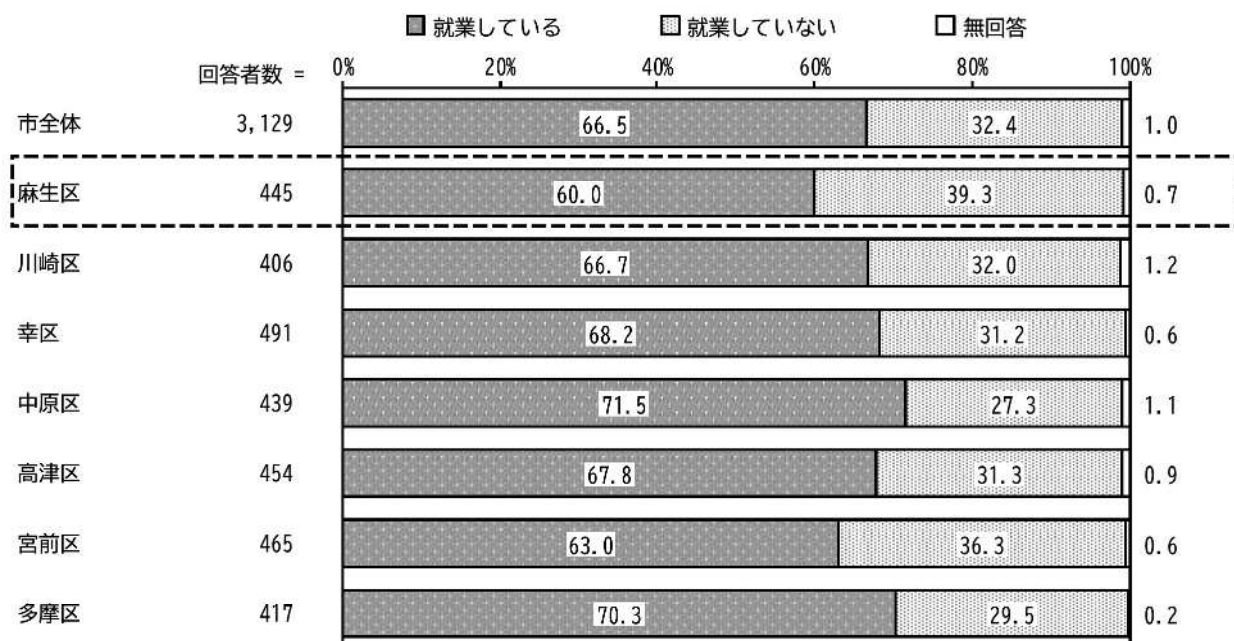
麻生区では、「いずれにも該当する家族がいない」の割合が市全体を 3.6 ポイント上回っています。また、該当する方がいる人のうち、「同居していない 65 歳以上の方がいる」の割合が 37.5%と最も高くなっています。



問8 就業の状況はどれに該当しますか。(○は1つだけ)

ア 就業状況

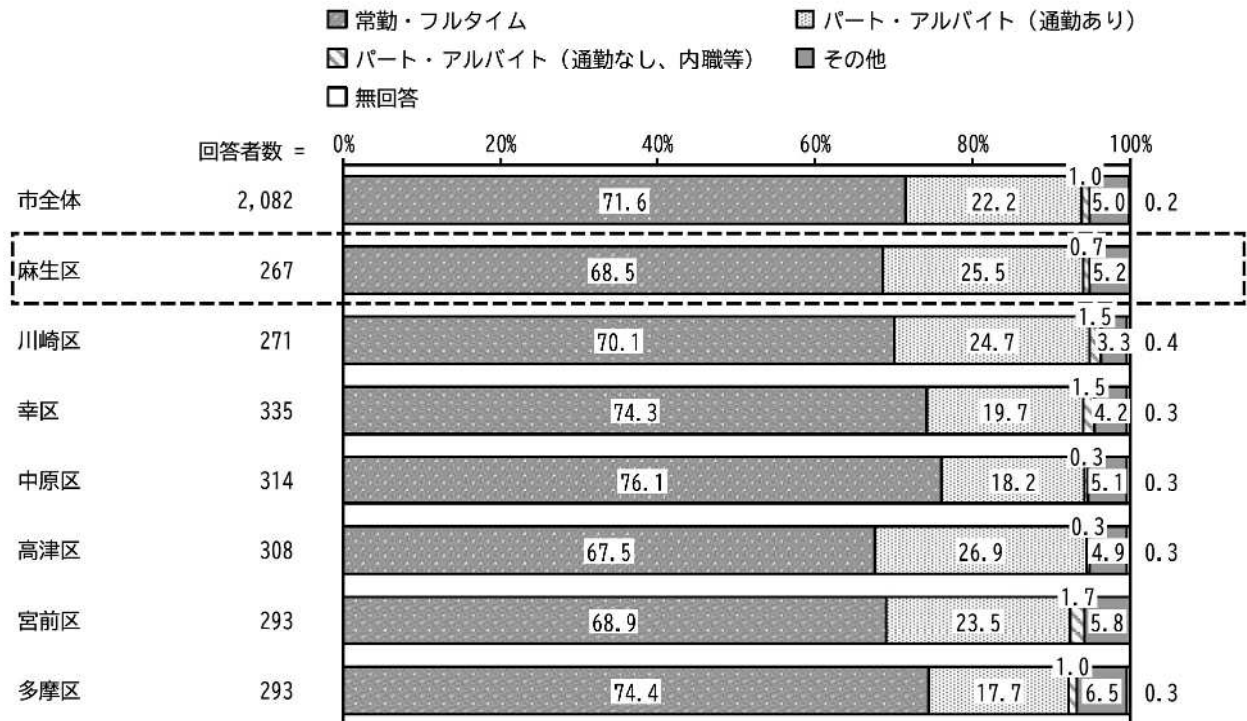
麻生区では「就業している」の割合が 60.0%、「就業していない」の割合が 39.3%となっています。他区と比較すると、「就業していない」の割合が最も高くなっています。



「就業の状況で「就業している」と回答した人が対象」

イ 就業形態

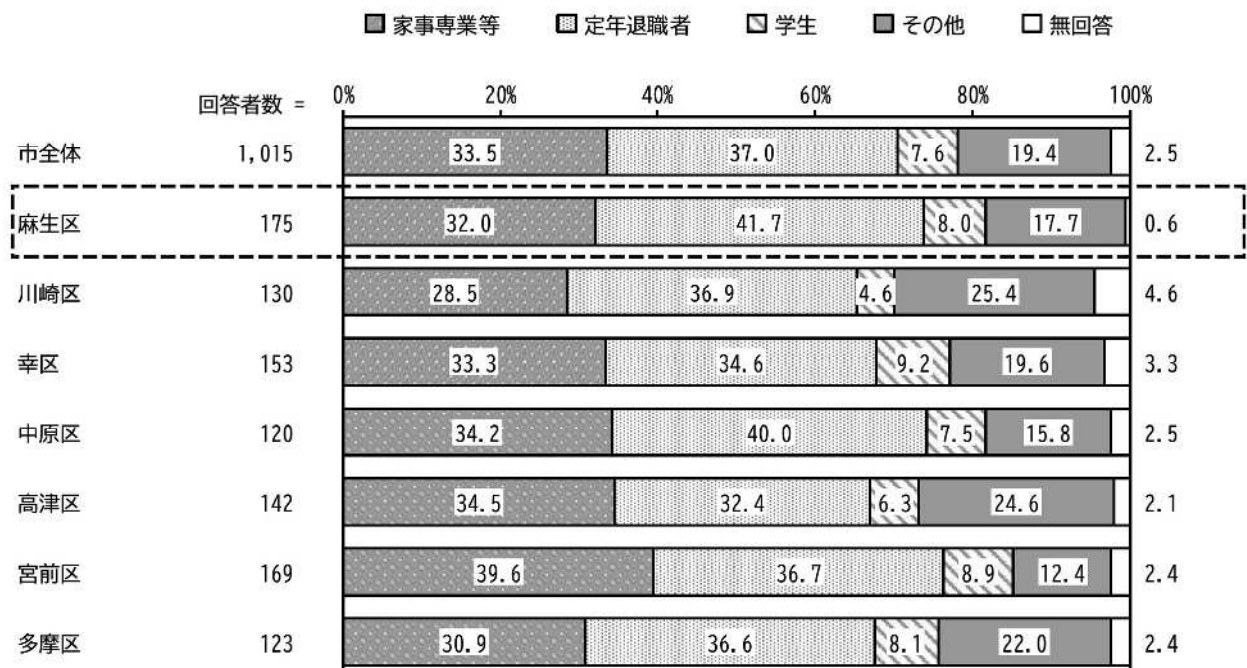
麻生区では「常勤・フルタイム」の割合が 68.5%、「パート・アルバイト（通勤あり）」の割合が 25.5%、「パート・アルバイト（通勤なし、内職等）」の割合が 0.7%となっています。



「就業の状況で「就業していない」と回答した人が対象」

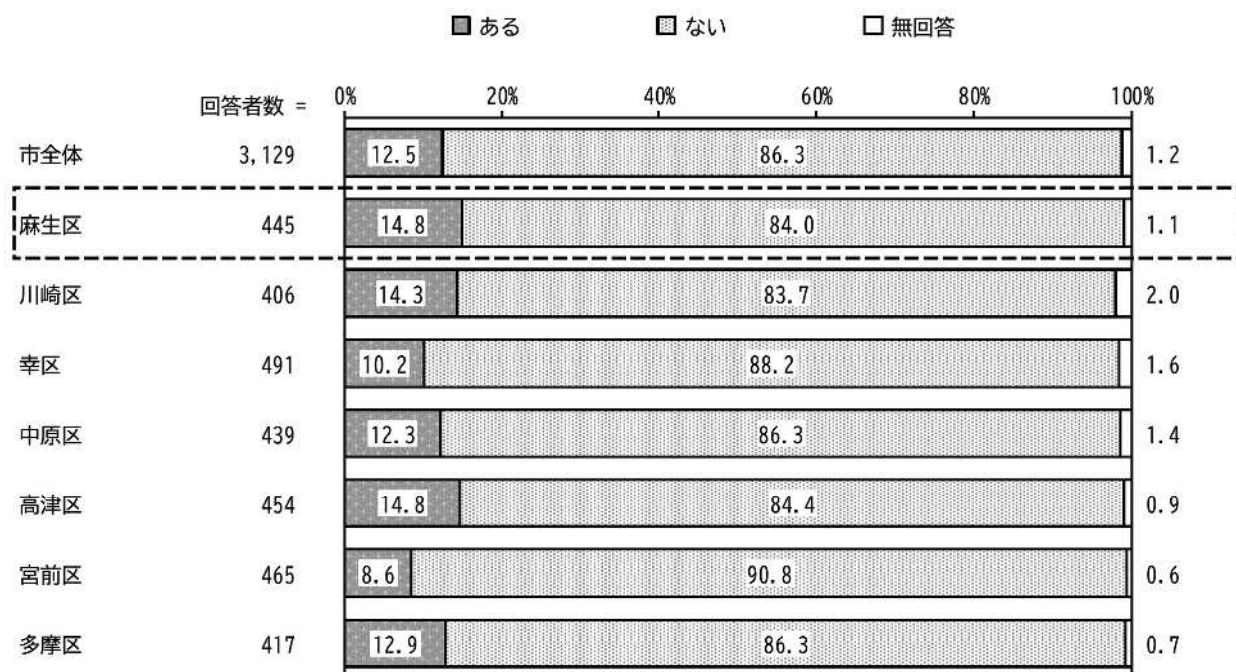
ウ 就業していない理由

麻生区では「家事専業等」の割合が 32.0%、「定年退職者」の割合が 41.7%、「学生」の割合が 8.0%となっています。



問9 あなたは現在、健康上の問題で6か月以上の期間にわたり、日常生活に何か影響がありますか。(○は1つだけ)

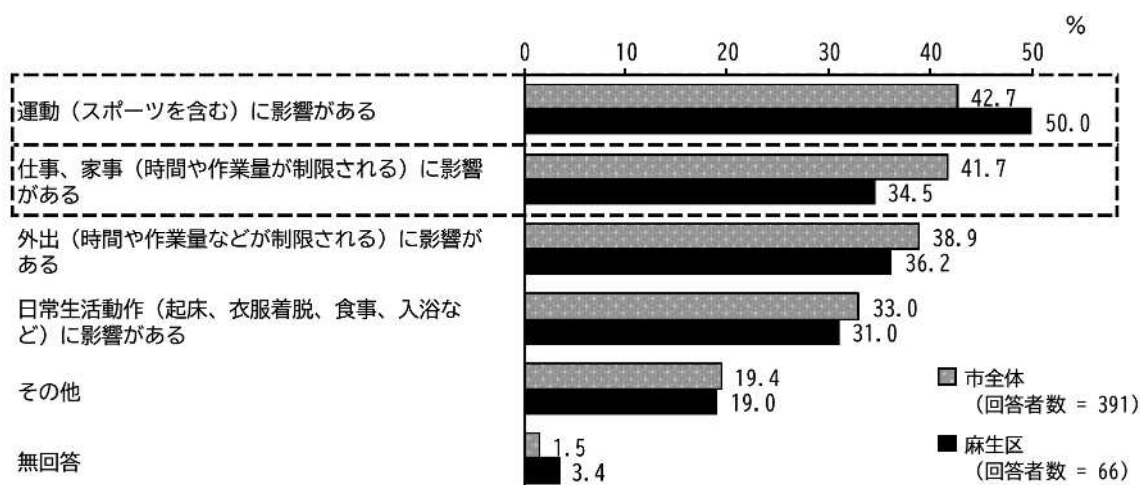
麻生区では「ある」の割合が14.8%、「ない」の割合が84.0%となっています。
他区と比較すると、「ある」の割合が最も高くなっています。



《健康上の問題で6か月以上の期間にわたり、日常生活に何か影響が「ある」と回答した人が対象》

問9-1 それはどのようなことに影響がありますか。(あてはまるものすべてに○)

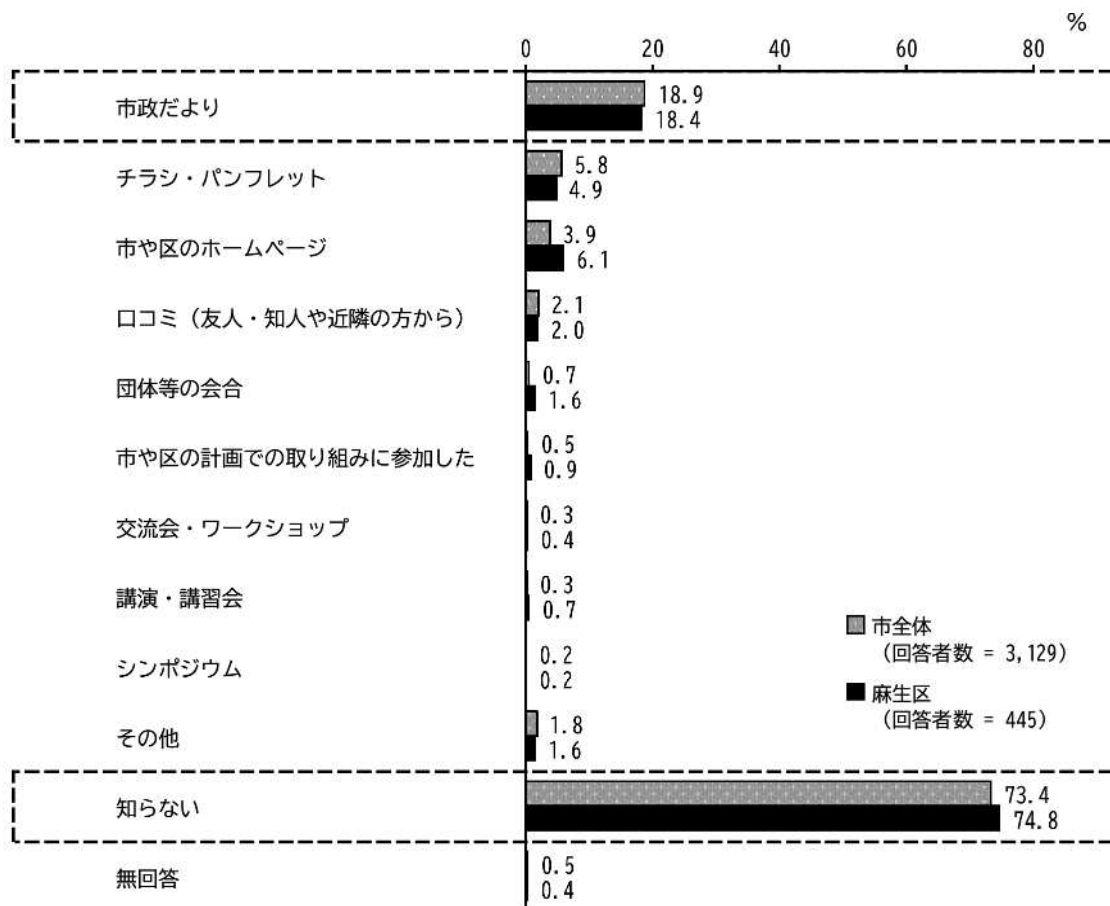
麻生区では「運動（スポーツを含む）に影響がある」の割合が50.0%と最も高くなっており、市全体を7.3ポイント上回っています。また、「仕事、家事（時間や作業量が制限される）に影響がある」の割合が市全体を7.2ポイント下回っています。



(2)「川崎市地域福祉計画」について

問 10 あなたは、川崎市地域福祉計画を何で知りましたか。計画について知らない場合は「知らない」を選択してください。(あてはまるものすべてに○)

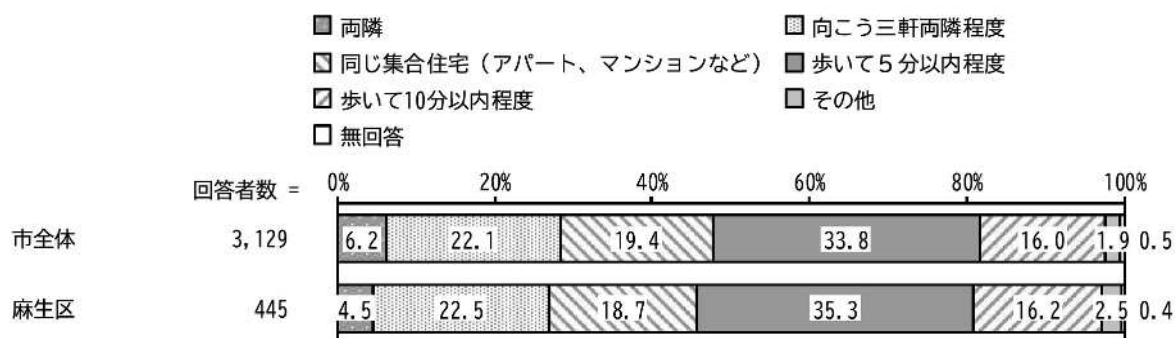
麻生区では「知らない」の割合が74.8%と最も高く、計画を知っている回答者の情報入手経路では、「市政だより」が18.4%となっています。



(3) 居住地域について

問 11 あなたは、「近所」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(○は1つだけ)

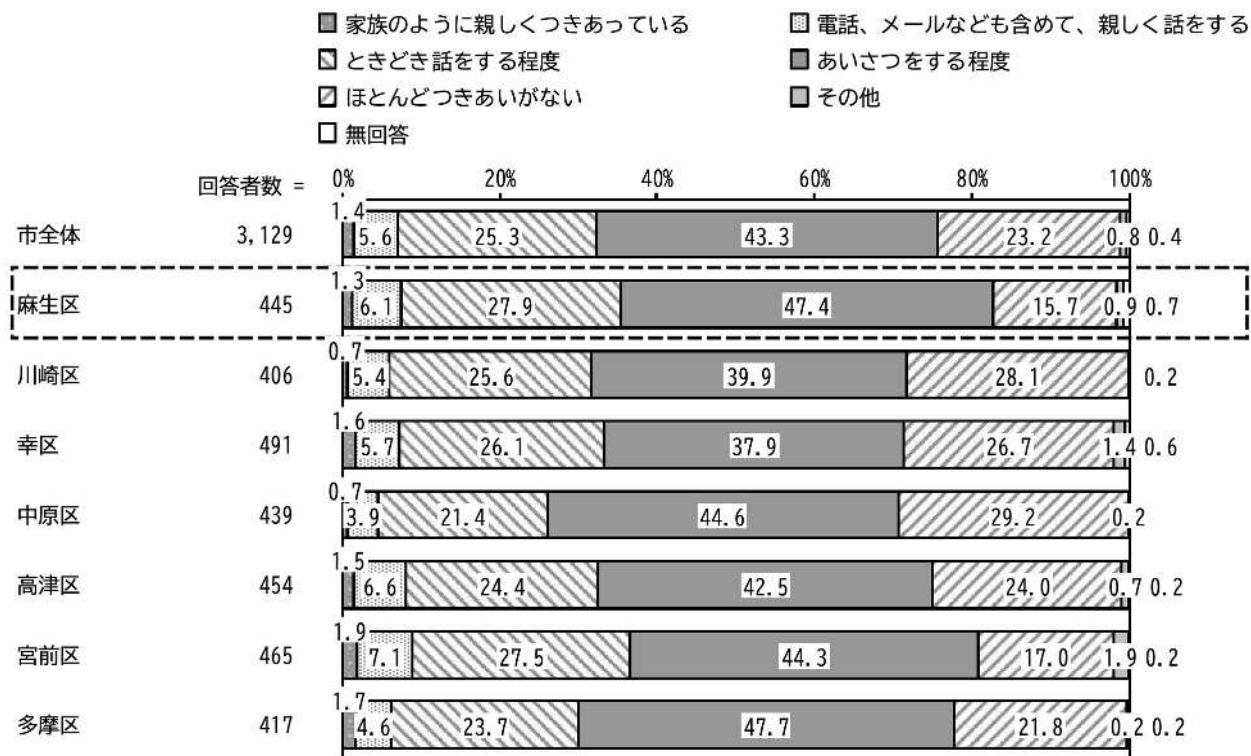
麻生区では「歩いて5分以内程度」の割合が 35.3%と最も高く、次いで「向こう三軒両隣程度」の割合が 22.5%、「同じ集合住宅（アパート、マンションなど）」の割合が 18.7%となっています。



問 12 あなたは、ふだんご近所の方とどの程度のつきあいをしていますか。(○は1つだけ)

麻生区では「あいさつをする程度」の割合が 47.4%と最も高くなっています。

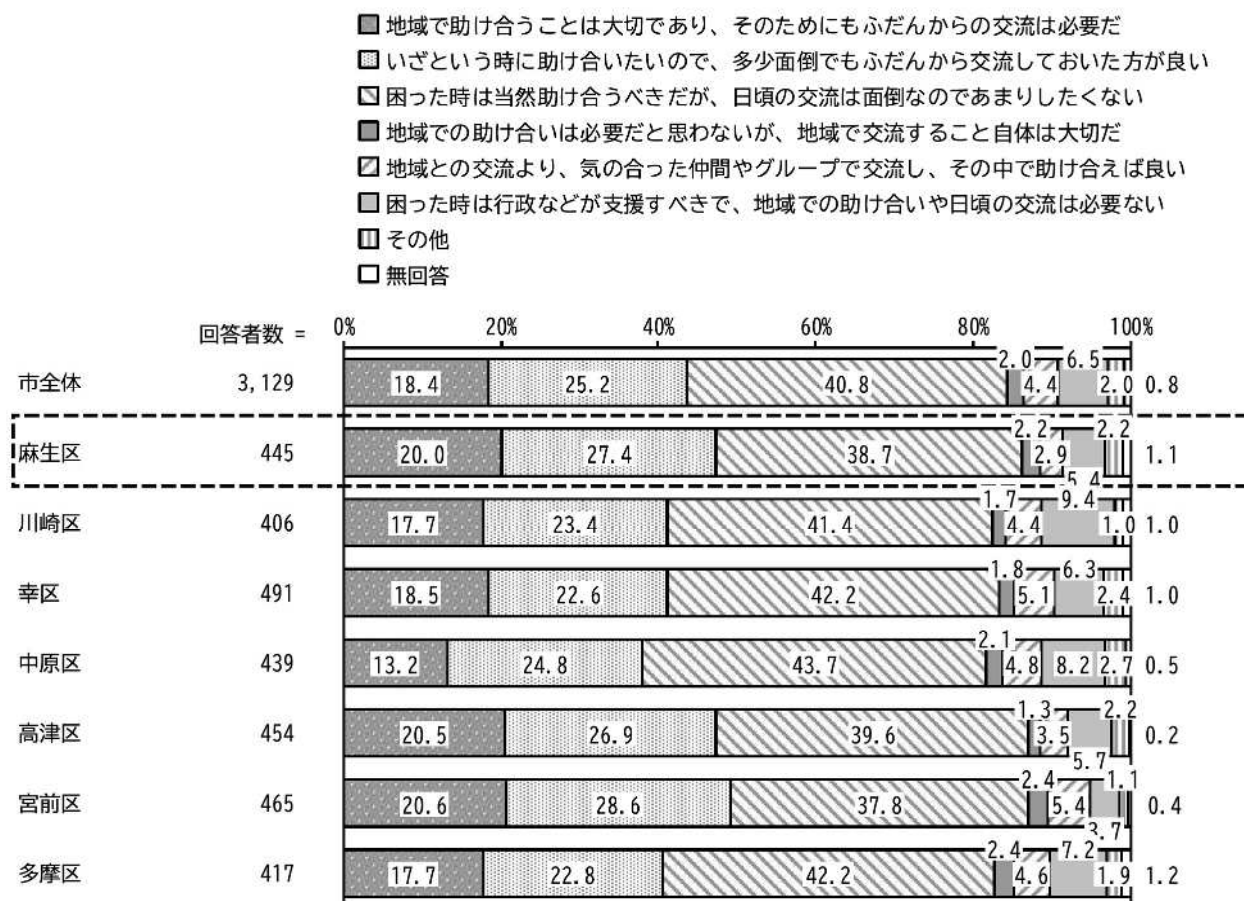
他区と比較すると、「ときどき話をする程度」の割合が最も高く、「ほとんどつきあいがいい」の割合が最も低くなっています。



問 13 あなたは、近所つきあいや地域住民同士の交流について、どの程度必要だとお考えですか。(〇は1つだけ)

麻生区では「困った時は当然助け合うべきだが、日頃の交流は面倒なのであまりしたくない」の割合が38.7%と最も高くなっています。

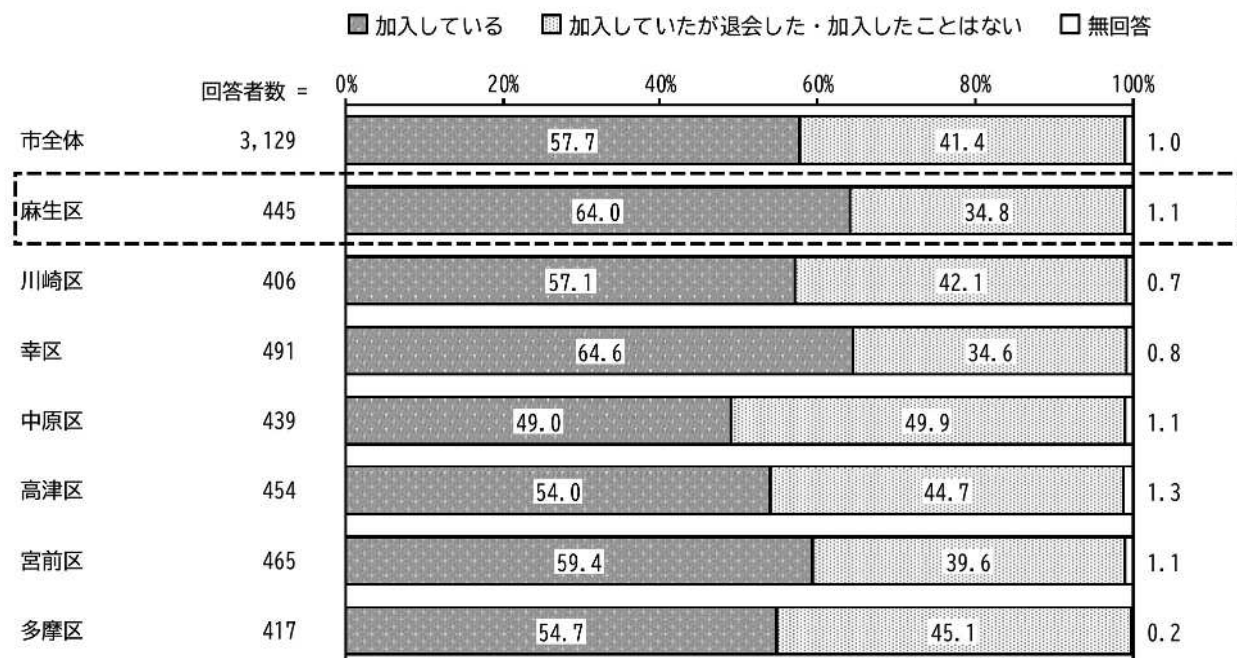
他区と比較すると、「いざという時に助け合いたいので、多少面倒でもふだんから交流しておいた方が良い」の割合が2番目に高くなっています。



問 14 現在、町内会・自治会に加入していますか。(○は1つだけ)

麻生区では「加入している」の割合が 64.0%、「加入していたが退会した・加入したことはない」の割合が 34.8%となっています。

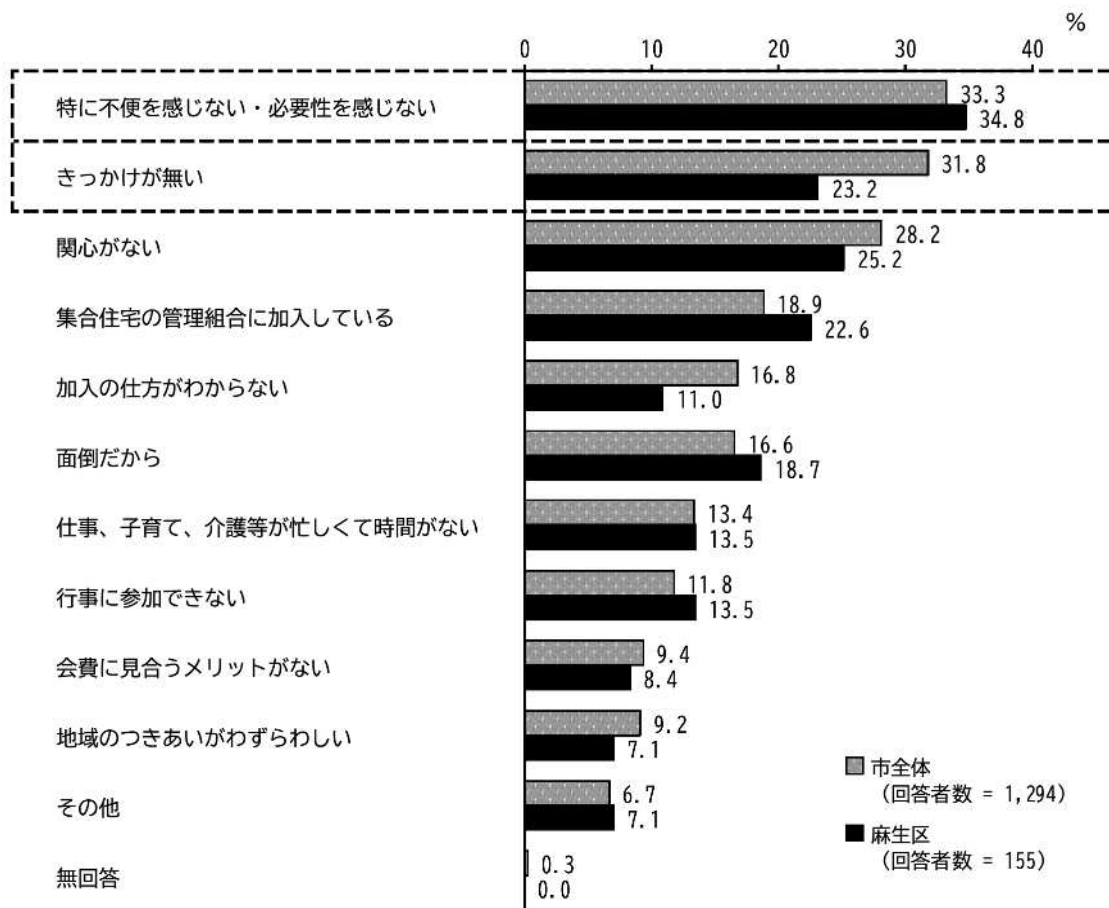
他区と比較すると、「加入している」の割合が2番目に高くなっています。



《町内会・自治会に「加入していたが退会した・加入したことはない」と回答した人が対象》

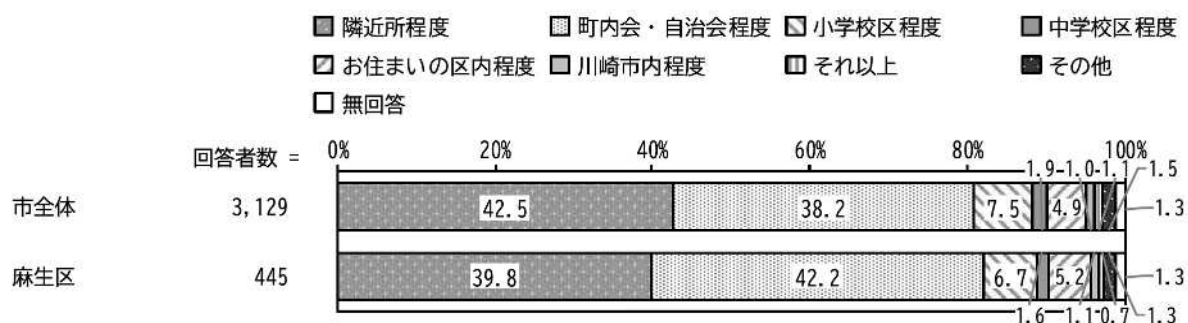
問 14-1 現在加入していない理由は何ですか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「特に不便を感じない・必要性を感じない」の割合が 34.8%と最も高くなっています。また、「きっかけが無い」が市全体を 8.6 ポイント下回っています。



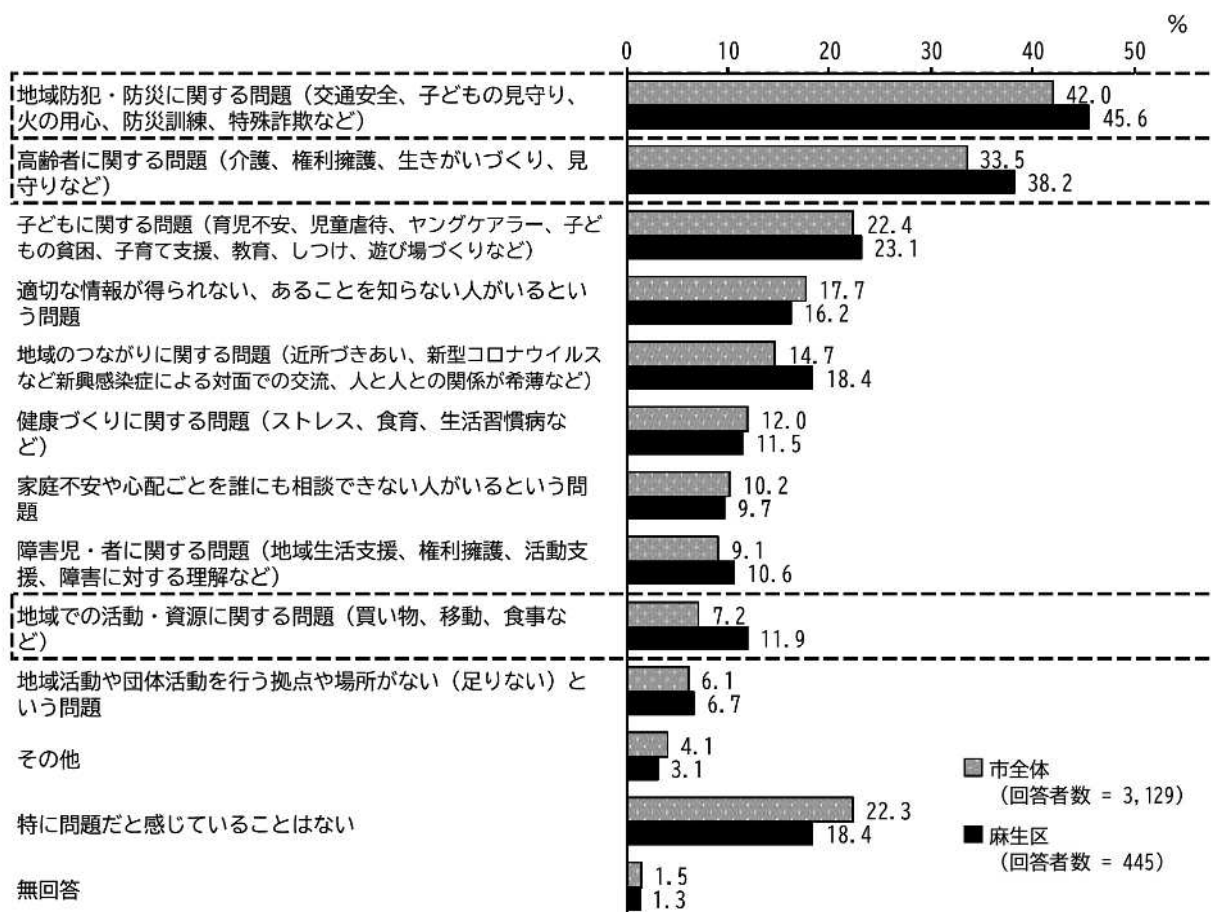
問 15 あなたは、助け合いをすることができる「地域」の範囲を、どの程度だとお考えですか。(○は1つだけ)

麻生区では「町内会・自治会程度」の割合が 42.2%と最も高く、市全体を 4.0 ポイント上回っています。



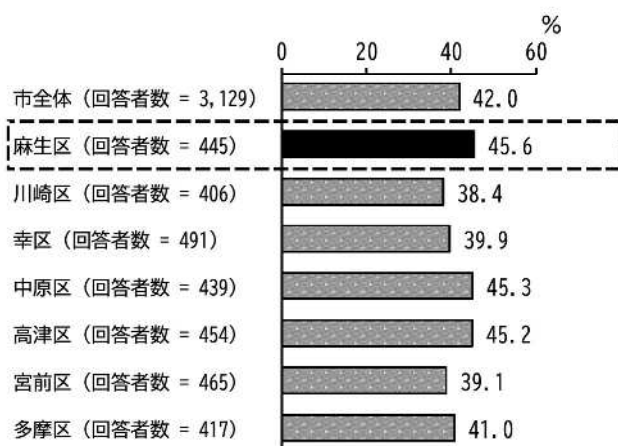
問 16 あなたは、その「地域」での生活において、いま何が問題だと感じていますか。
(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「地域防犯・防災に関する問題」の割合が 45.6%と最も高くなっています。また、「高齢者に関する問題」「地域での活動・資源に関する問題」の割合が市全体を 4.7 ポイント上回っています。

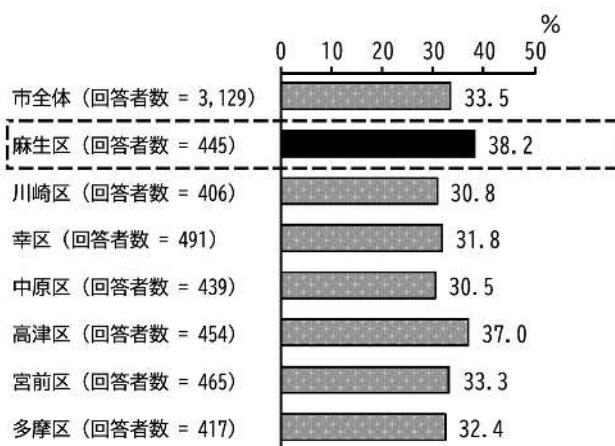


【参考】

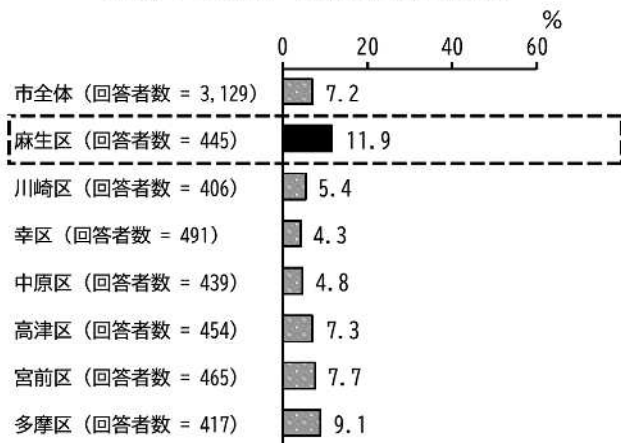
地域防犯・防災に関する問題



高齢者に関する問題

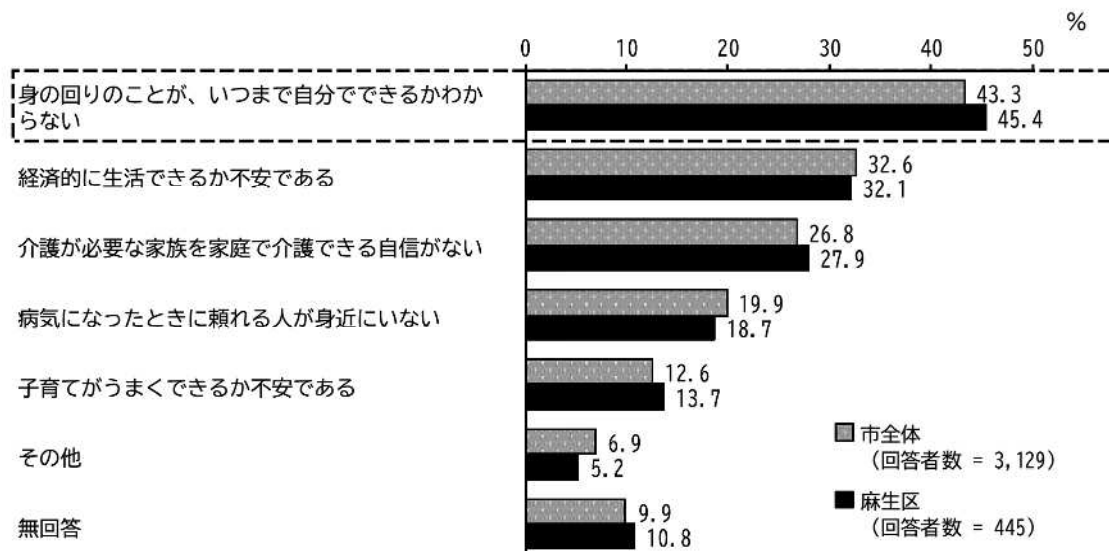


地域での活動・資源に関する問題



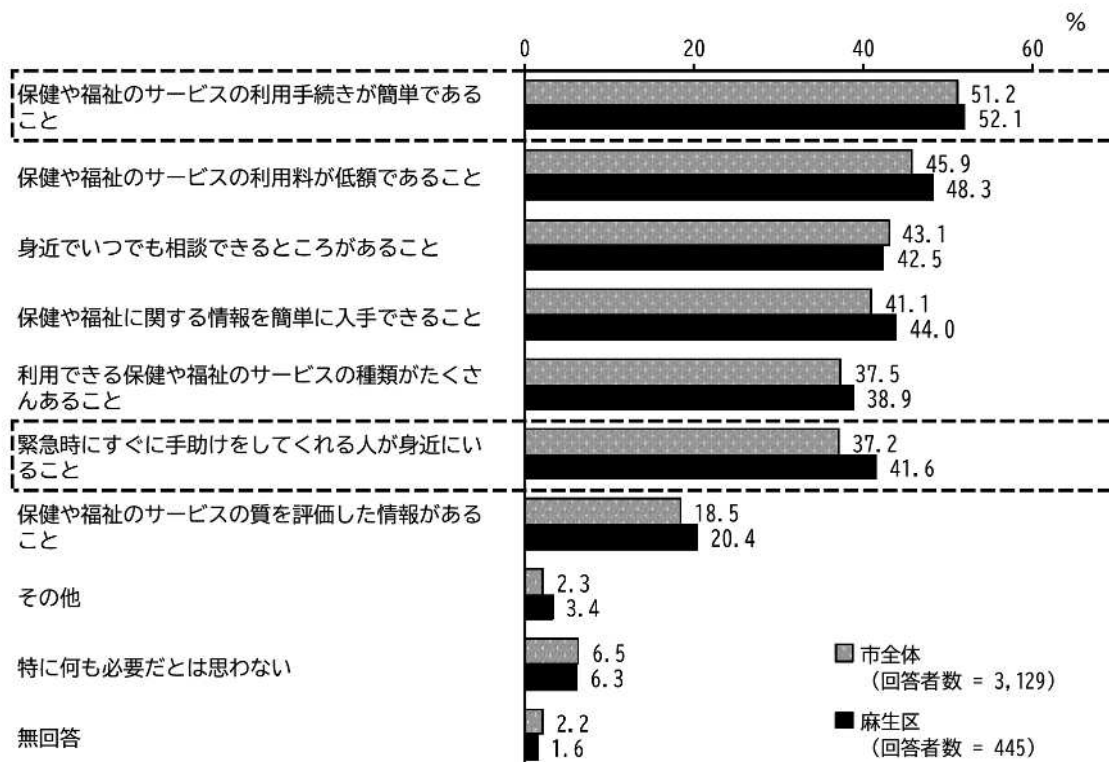
問 17 あなたは、家庭生活の中で次のような不安を感じたことがありますか。
(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「身の回りのことが、いつまで自分でできるかわからない」の割合が 45.4%と最も高くなっています。



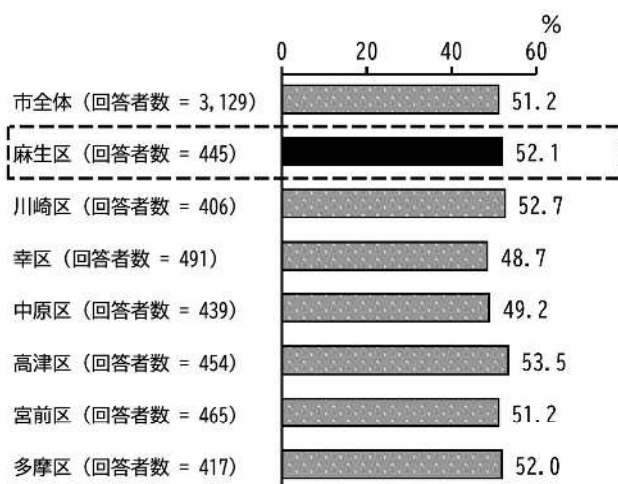
問 18 あなたの心配ごとを解決するために必要だと思われることは何ですか。
(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること」の割合が 52.1%と最も高くなっています。また、「緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること」の割合が市全体を 4.4 ポイント上回っています。

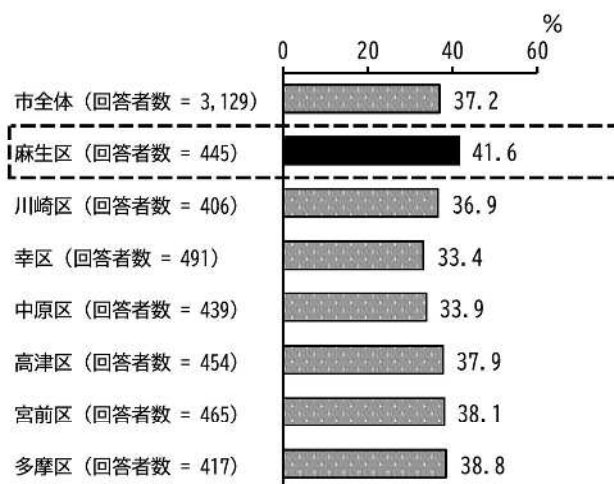


【参考】

保健や福祉のサービスの利用手続きが簡単であること

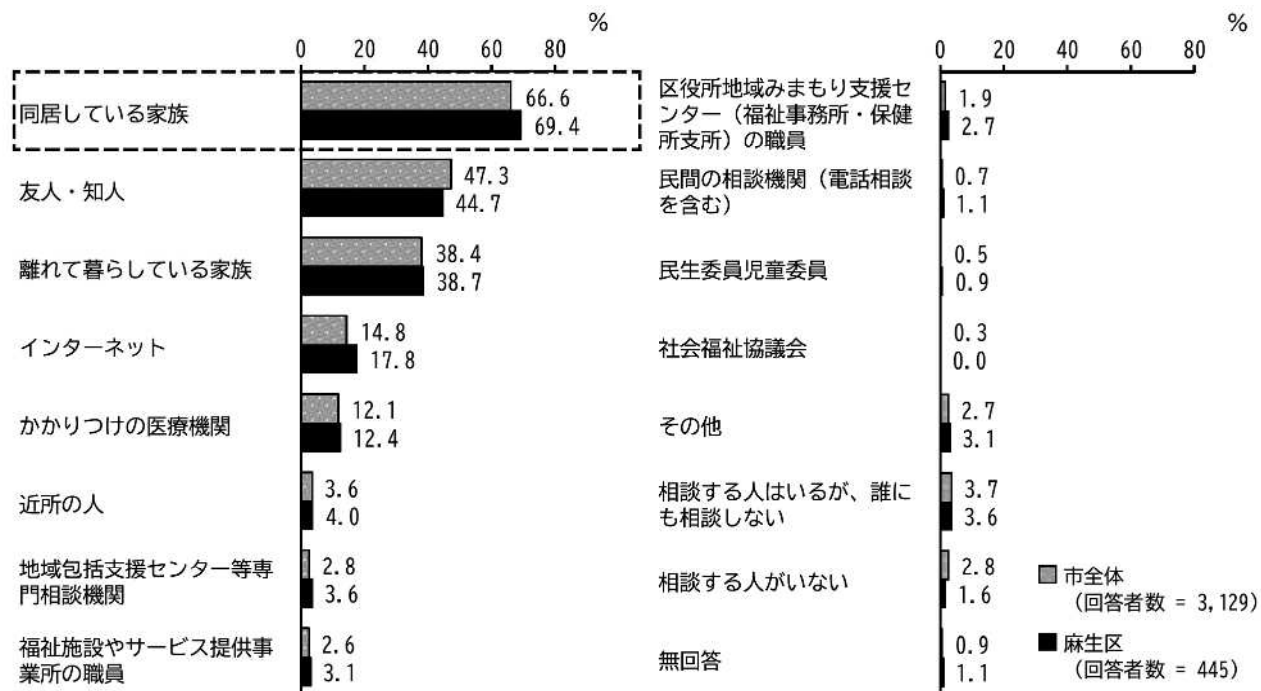


緊急時にすぐに手助けをしてくれる人が身近にいること



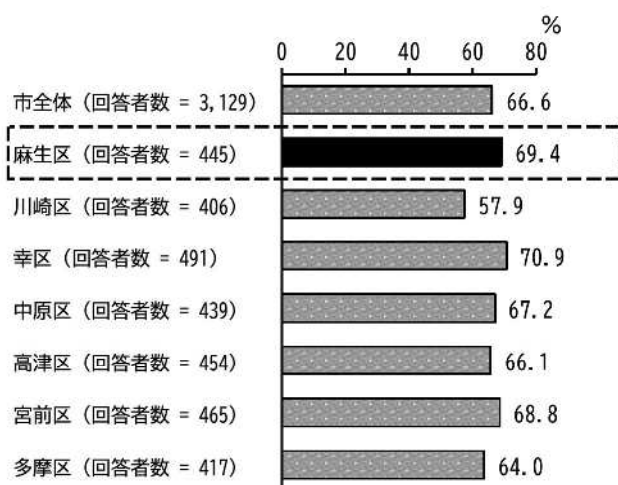
問 19 あなたは、日常生活で心配ごとや悩みごとがあるとき、誰に相談していますか。
(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「同居している家族」の割合が 69.4%と最も高くなっています。



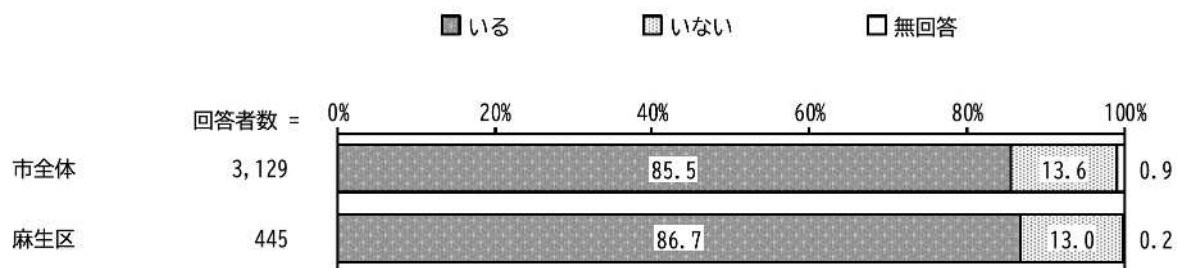
【参考】

同居している家族



問 20 あなたには、友人と呼べる人がいますか。(○は1つだけ)

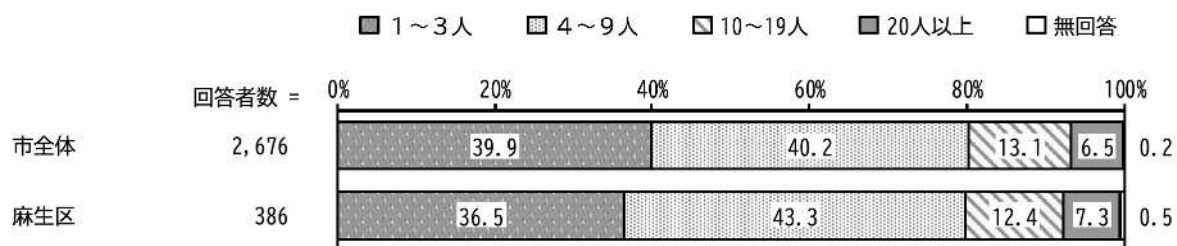
麻生区では「いる」の割合が86.7%、「いない」の割合が13.0%となっています。



《友人と呼べる人が「いる」と回答した人が対象》

問 20-1 何人くらいいますか。(○は1つだけ)

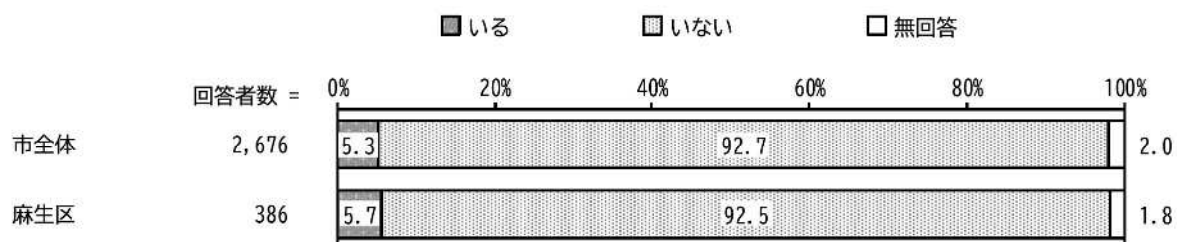
麻生区では「4～9人」の割合が43.3%と最も高くなっています。また、「1～3人」の割合が市全体を3.4ポイント下回っています。



《友人と呼べる人が「いる」と回答した人が対象》

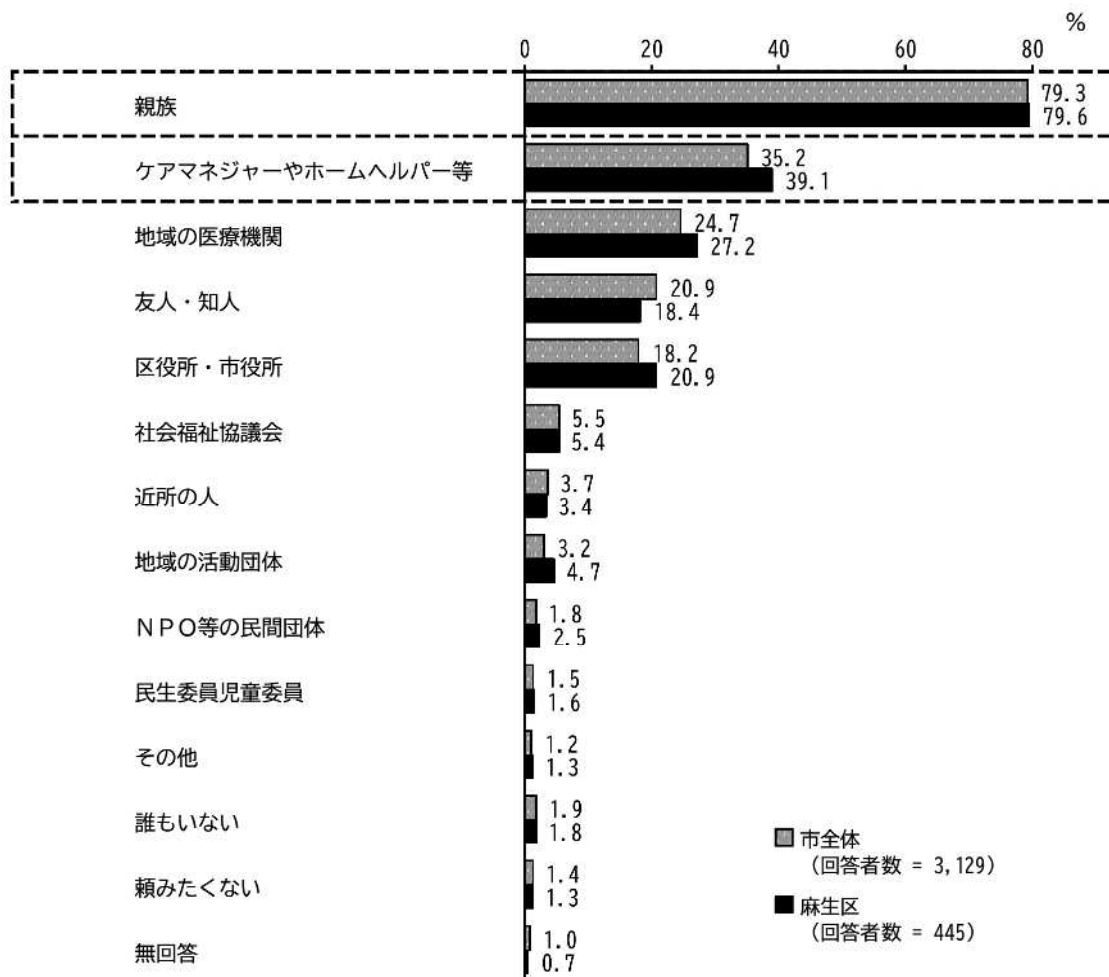
問 20-2 その中で、実際に会ったことのないインターネット上の友人はいますか。(○は1つだけ)

麻生区では「いる」の割合が5.7%、「いない」の割合が92.5%となっています。

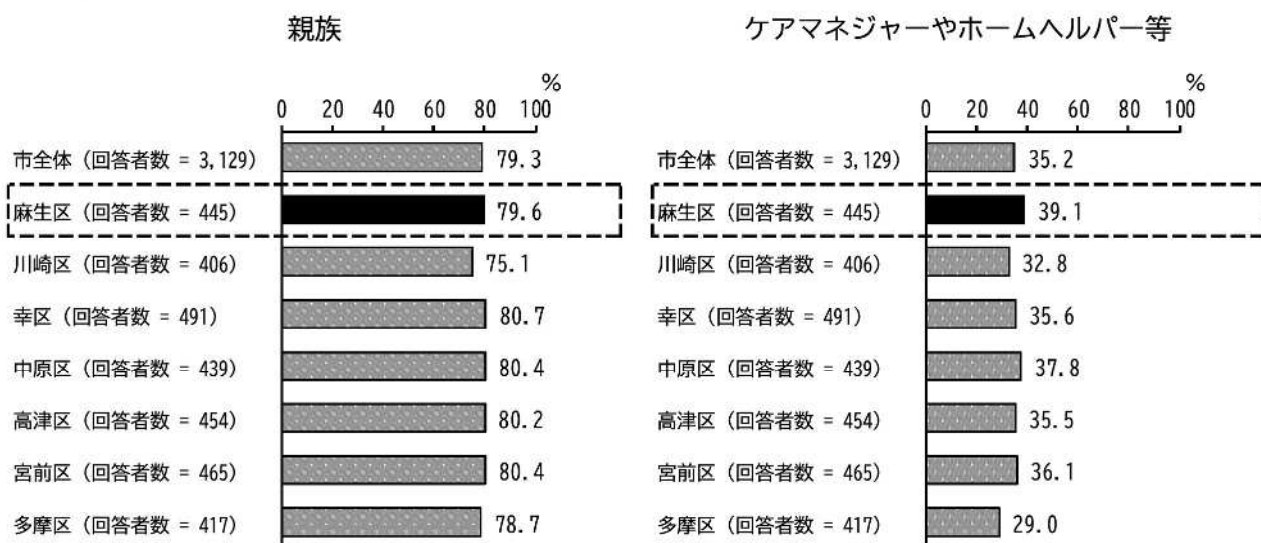


問 21 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になり、助けを必要とするとき、誰に手助けを頼みたいですか。(〇は3つまで)

麻生区では「親族」の割合が79.6%と最も高くなっています。また、「ケアマネジャーやホームヘルパー等」の割合が市全体を3.9ポイント上回っています。

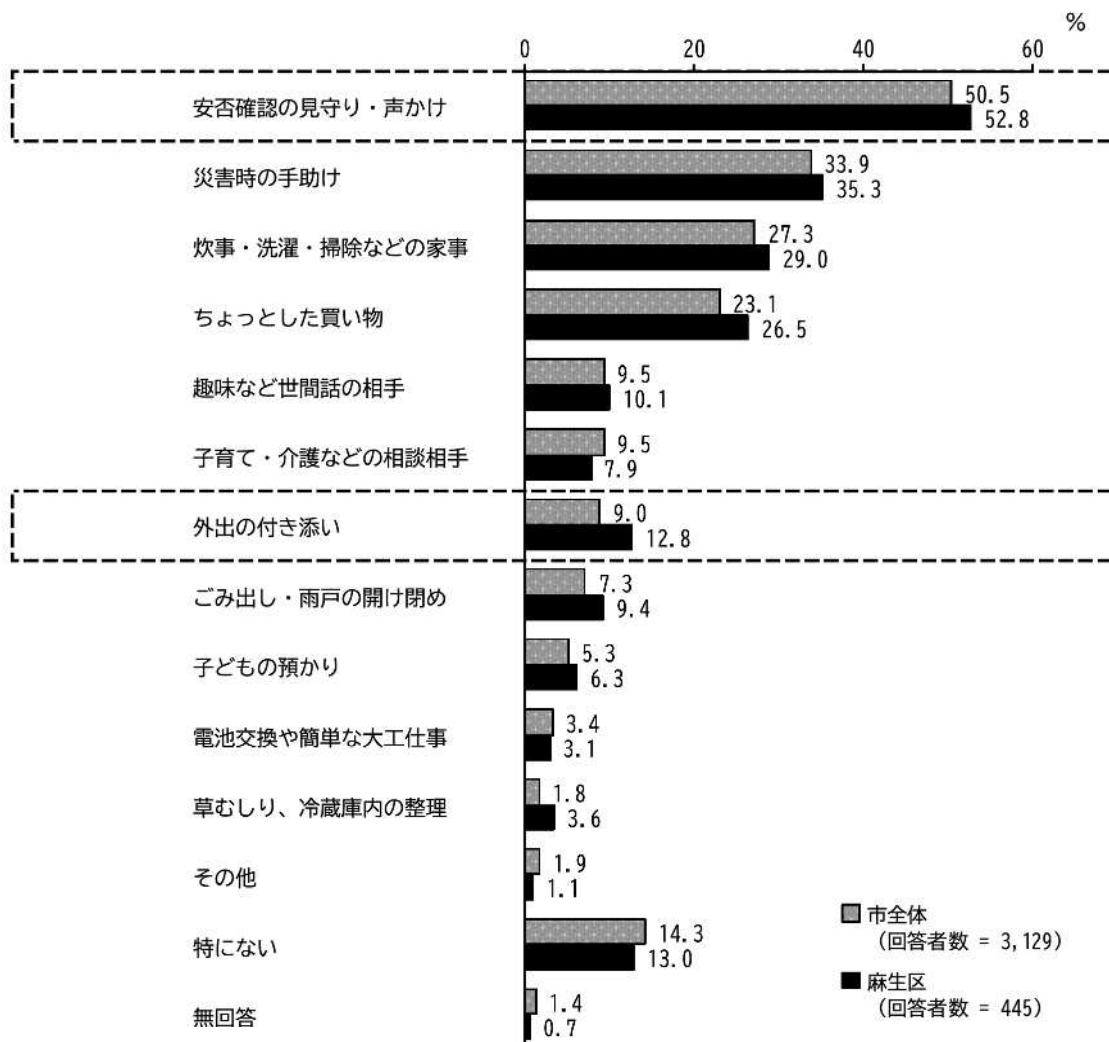


【参考】



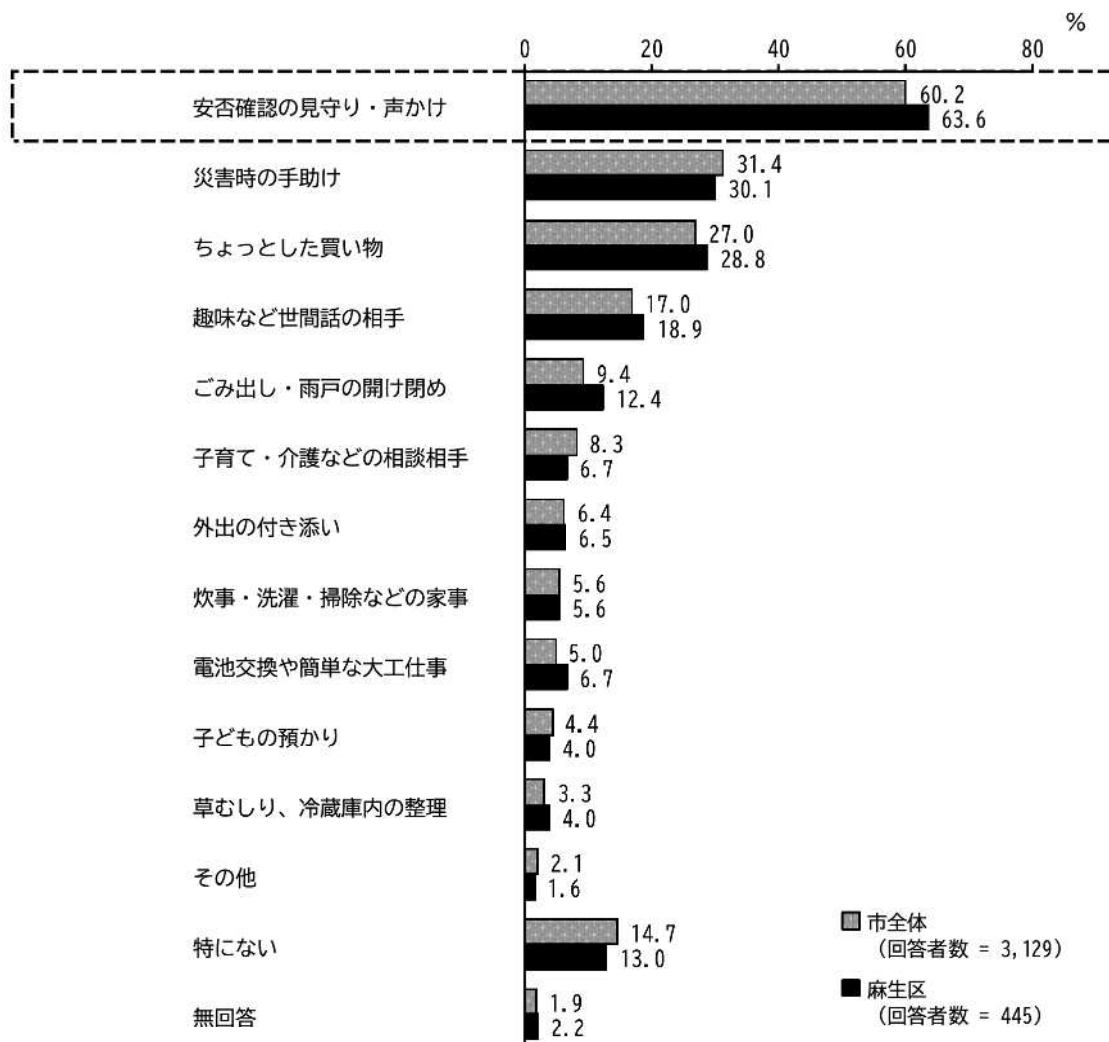
問 22 あなたが、もし高齢や病気、事故などで日常生活が不自由になったとき、地域の人たちにどんな手助けをしてほしいですか。(〇は3つまで)

麻生区では「安否確認の見守り・声かけ」の割合が52.8%と最も高くなっています。また、「外出の付き添い」の割合が市全体を3.8ポイント上回っています。



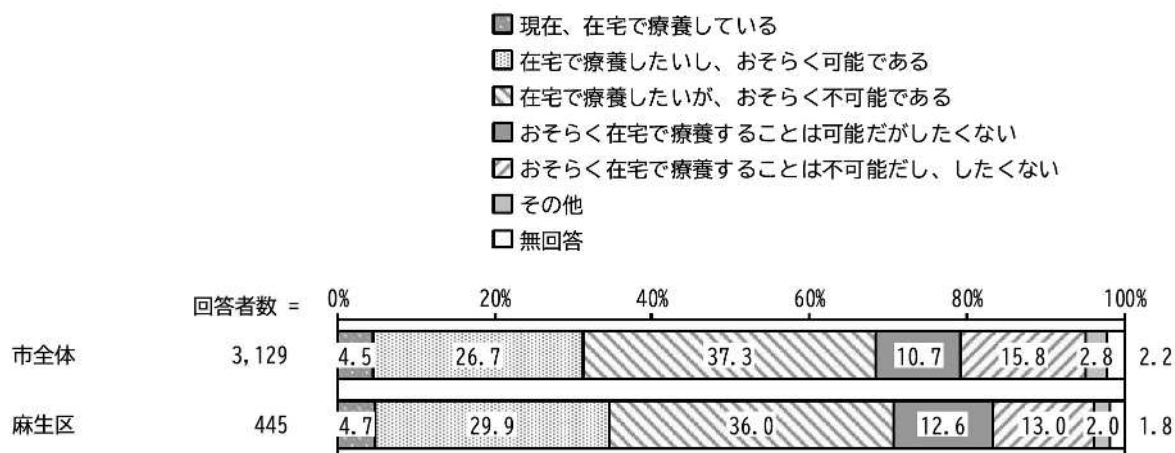
問 23 地域の高齢者や障害者、子育て家庭などが安心して暮らすことができるよう、地域の
支え合いとして、あなたご自身ができることは何ですか。(〇は3つまで)

麻生区では「安否確認の見守り・声かけ」の割合が 63.6%と最も高く、市全体を 3.4 ポイント上回っています。



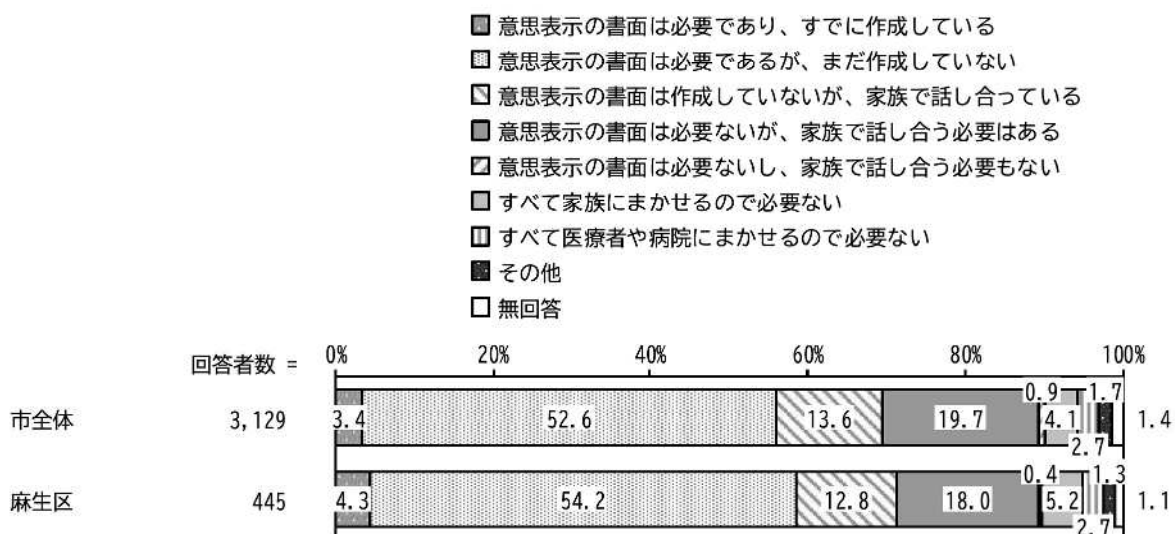
問 24 現在、あなたの生活状況・環境で、あなたやご家族が病気、けが、障害により、長期の医療や介護が必要になった場合に、病院や介護施設などに入院・入居せずに在宅で療養することは可能ですか。(○は1つだけ)

麻生区では「在宅で療養したいが、おそらく不可能である」の割合が 36.0%と最も高くなっています。また、「在宅で療養したいし、おそらく可能である」の割合が市全体を 3.2 ポイント上回っています。



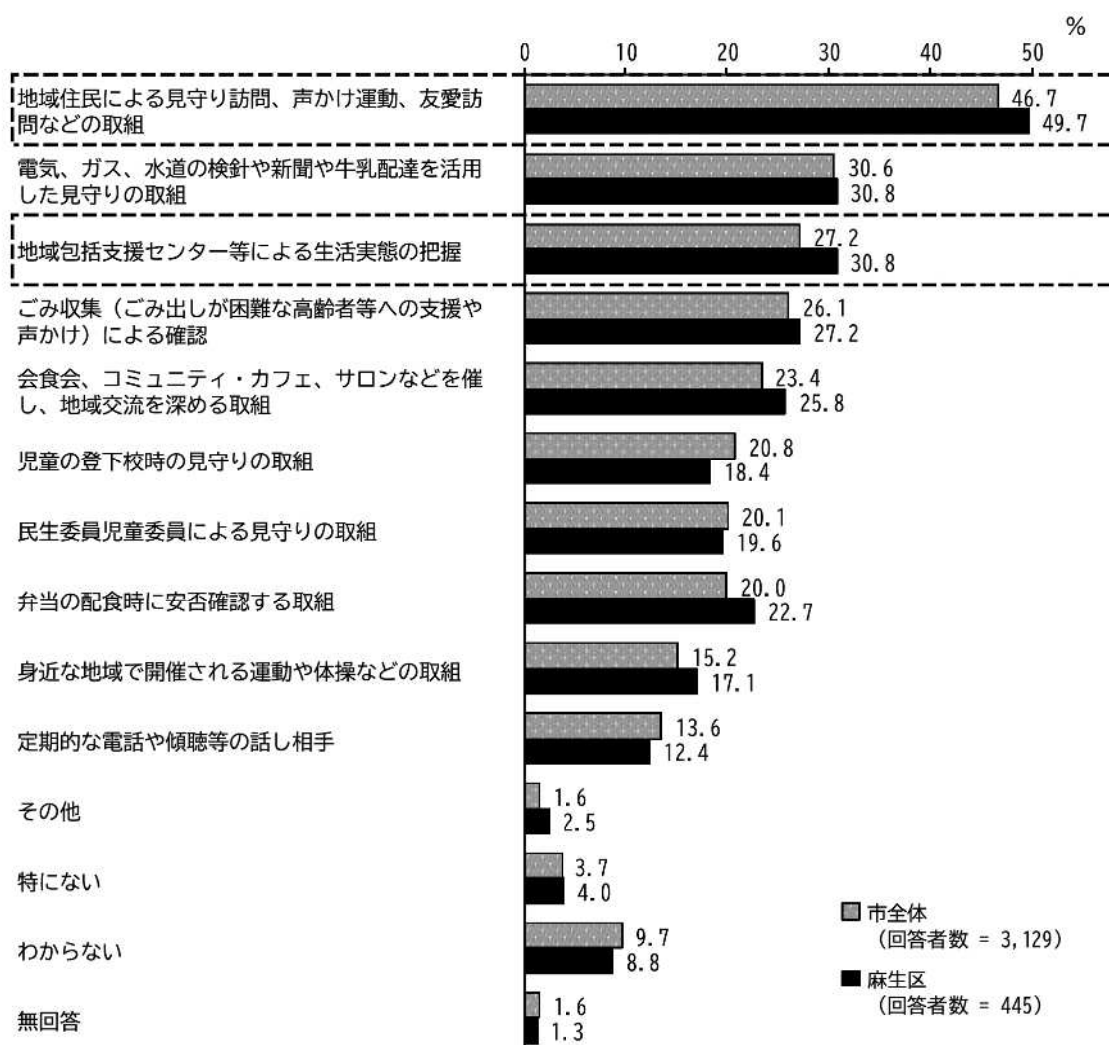
問 25 人生の最終段階における医療について、意思表示の書面や家族での話し合いが必要だと思いますか。(○は1つだけ)

麻生区では「意思表示の書面は必要であるが、まだ作成していない」の割合が 54.2%と最も高く、次いで「意思表示の書面は必要ないが、家族で話し合う必要はある」の割合が 18.0%、「意思表示の書面は作成していないが、家族で話し合っている」の割合が 12.8%となっています。



問 26 社会的不安や孤独・孤立の問題に対応していくために、地域での見守りの取組として、有効だと思う取組はありますか。(〇は5つまで)

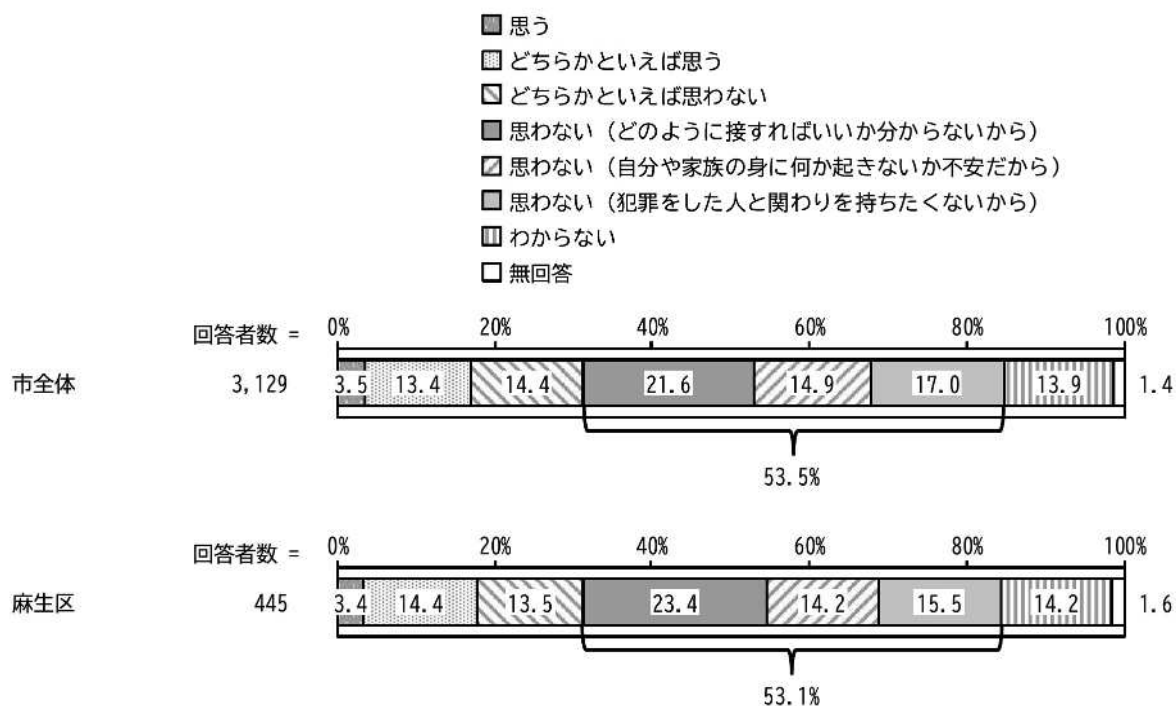
麻生区では「地域住民による見守り訪問、声かけ運動、友愛訪問などの取組」の割合が 49.7%と最も高くなっています。また、「地域包括支援センター等による生活実態の把握」の割合が市全体を 3.6 ポイント上回っています。



(4) 地域共生社会について

問 27 あなたは犯罪をした人の立ち直りに協力したいと思いますか。(○は1つだけ)

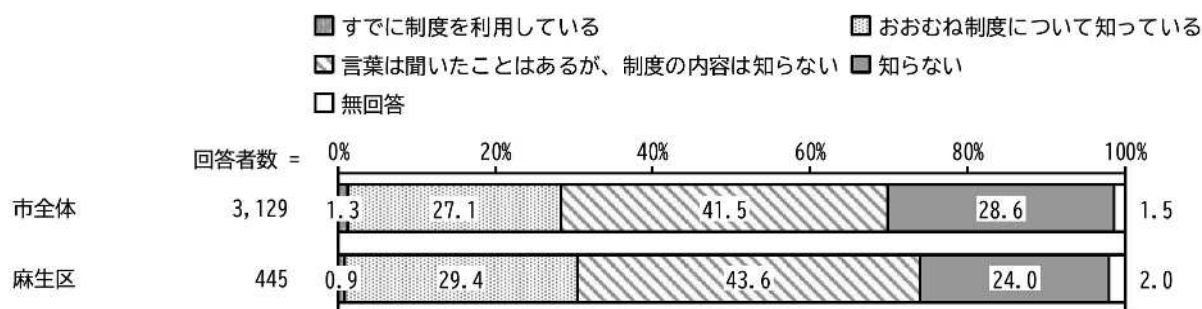
「思わない」と回答した人の合計割合は、市全体と同じく5割を超えています。



(5) 認知症について

問 28 あなたは、成年後見制度を知っていますか。(○は1つだけ)

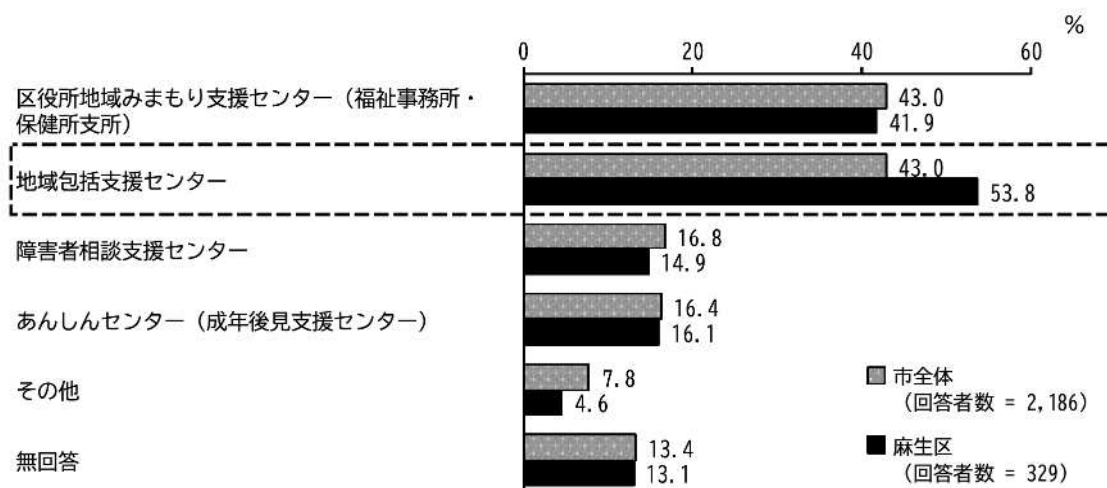
麻生区では「すでに制度を利用している」の割合が 0.9%、「おおむね制度について知っている」の割合が 29.4%、「言葉は聞いたことはあるが、制度の内容は知らない」の割合が 43.6%となっています。



《成年後見制度を利用及び認知している人が対象》

問 28-1 制度の相談窓口となっている機関で知っているものはどれですか。 (あてはまるものすべてに○)

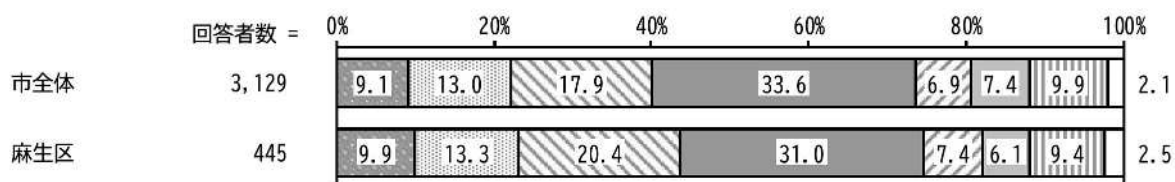
麻生区では「地域包括支援センター」の割合が 53.8%と最も高く、市全体を 10.8 ポイント上回っています。



問 29 あなたは認知症に対してどのようなイメージを持っていますか。(○は1つだけ)

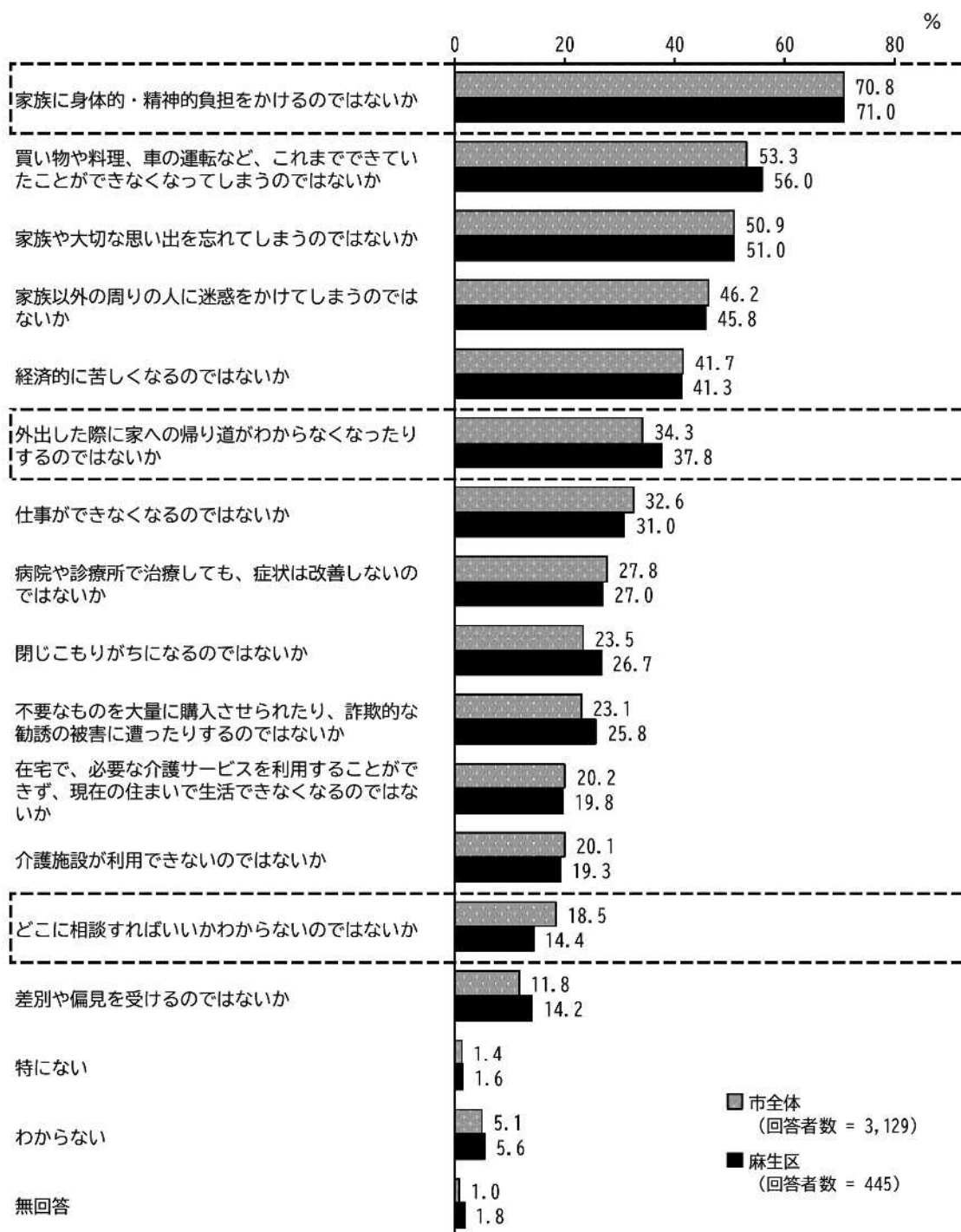
麻生区では「認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる」というイメージの割合が31.0%と最も高くなっています。

- ☐ 認知症になっても、できないことを自ら工夫して補いながら、今まで暮らしてきた地域で、今までどおり自立的に生活でき家族や医療・介護などのサポートを利用すれば、自立した生活を送ることができる
- ☐ 認知症になっても、自分だけでは十分できないことは周りの人のサポートを受けながら、今まで暮らしてきた地域で、できるだけ自立した生活ができる
- ☐ 認知症になっても、医療・介護などのサポートを利用しながら、今まで暮らしてきた地域で生活していける
- ☐ 認知症になると、身の回りのことができなくなり、介護施設に入ってサポートを利用することが必要になる
- ☒ 認知症になると、暴言、暴力など周りの人に迷惑をかけてしまうので、今まで暮らしてきた地域で生活することが難しくなる
- ☐ 認知症になると、症状が進行していき、何もできなくなってしまう
- ☐ わからない
- ☐ 無回答



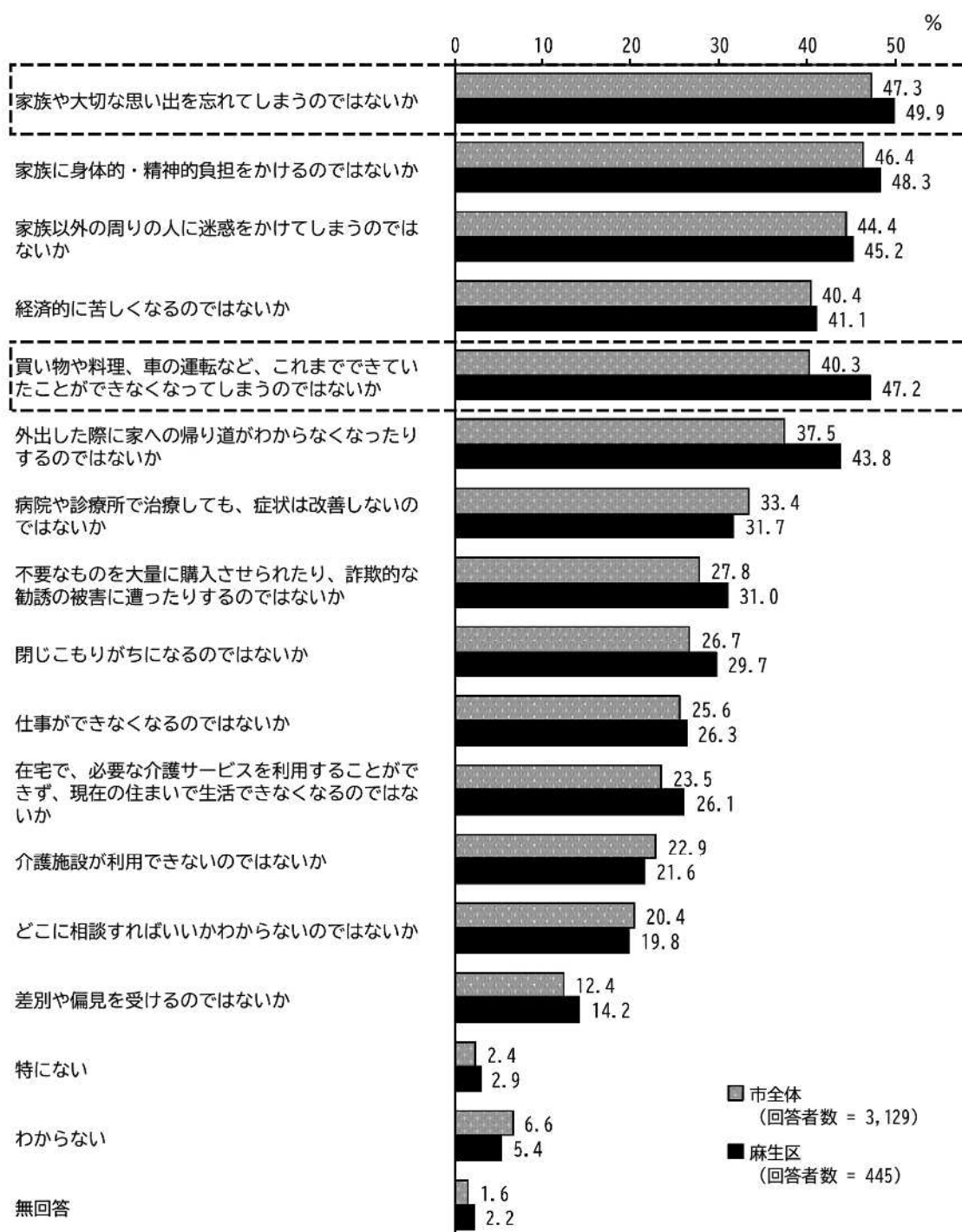
問 30 もし、あなたご自身が認知症になったら、どのようなことに不安を感じると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「家族に身体的・精神的負担をかけるのではないか」の割合が 71.0%と最も高くなっています。また、「どこに相談すればいいかわからないのではないか」が市全体を 4.1 ポイント下回っており、「外出した際に家への帰り道がわからなくなったりするのではないか」の割合が市全体を 3.5 ポイント上回っています。



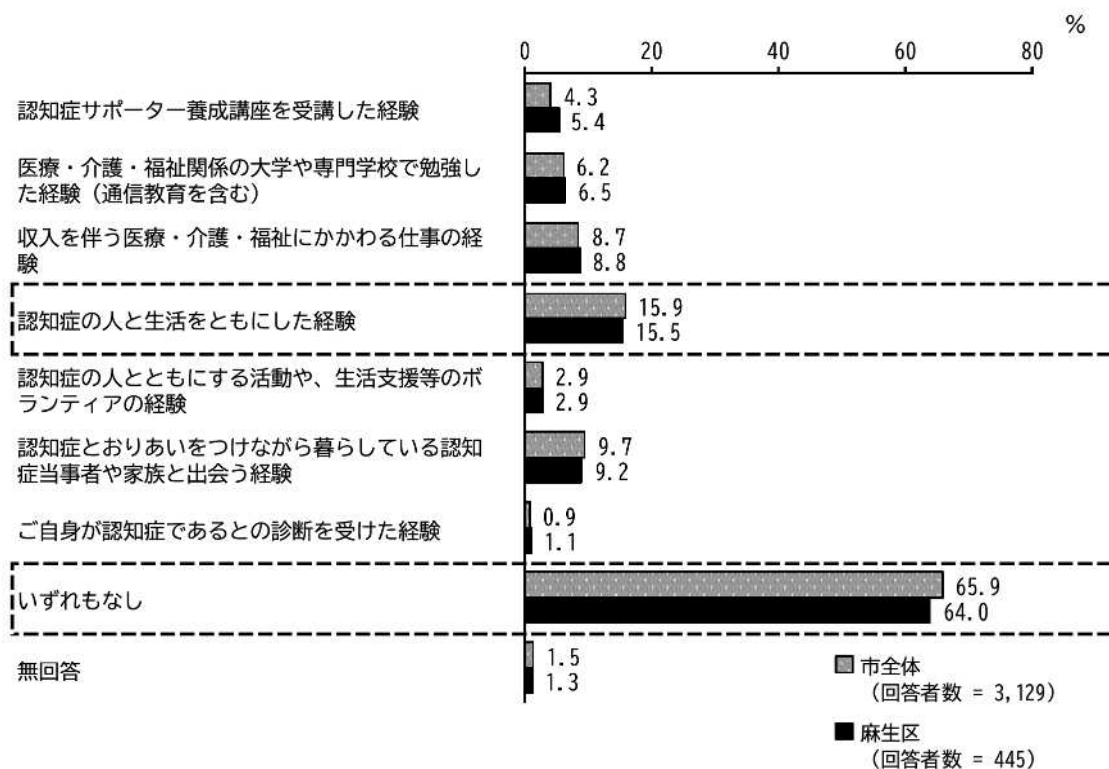
問 31 もし、あなたの家族が認知症になったら、どのようなことに不安を感じると思いますか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「家族や大切な思い出を忘れてしまうのではないか」の割合が 49.9%と最も高くなっています。また、「買い物や料理、車の運転など、これまでできていたことができなくなってしまうのではないか」の割合が市全体を 6.9 ポイント上回っています。



問 32 認知症に関する学びの経験として、「あなたご自身」の経験としてあてはまるものを全て選択してください。あてはまるものがない場合は「いずれもなし」を選択してください。（あてはまるものすべてに○）

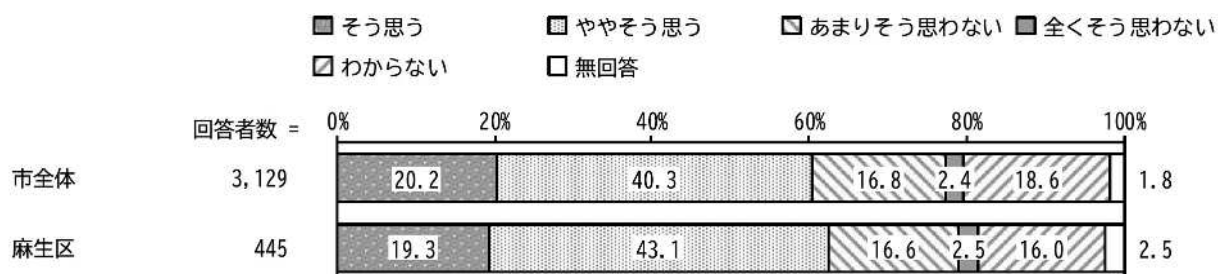
麻生区では「いずれもなし」の割合が 64.0%と最も高くなっています。一方で認知症に関する学びの経験がある回答者の中では、「認知症の人と生活をともにした経験」と回答した人の割合が最も高く、15.5%となっています。



問 33 認知症に関するあなたの考え方について、下記の項目で最も近いものを選択してください。(〇はそれぞれ1つだけ)

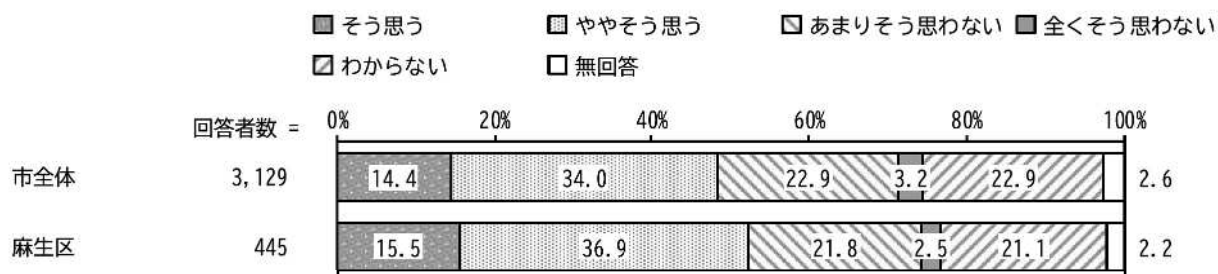
1. 認知症の人が困っていたら、迷わず手を貸せる

麻生区では「そう思う」「ややそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が 62.4%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が 19.1%となっています。



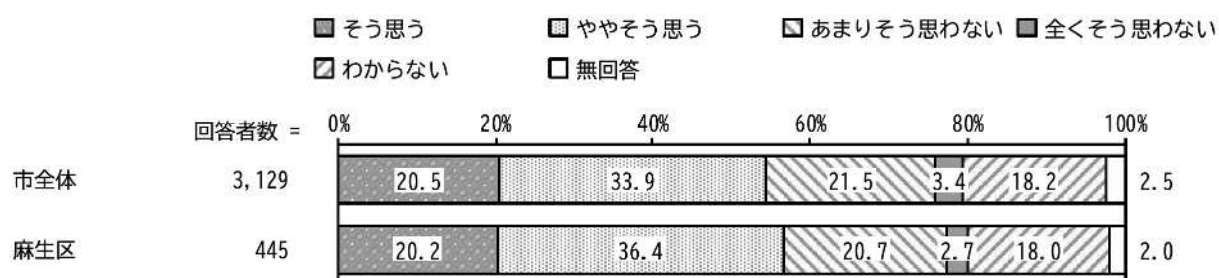
2. 認知症の人と喜びや楽しみを分かち合える

麻生区では「そう思う」「ややそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が 52.4%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が 24.3%となっています。また、“そう思う”の割合が市全体を 4.0 ポイント上回っています。



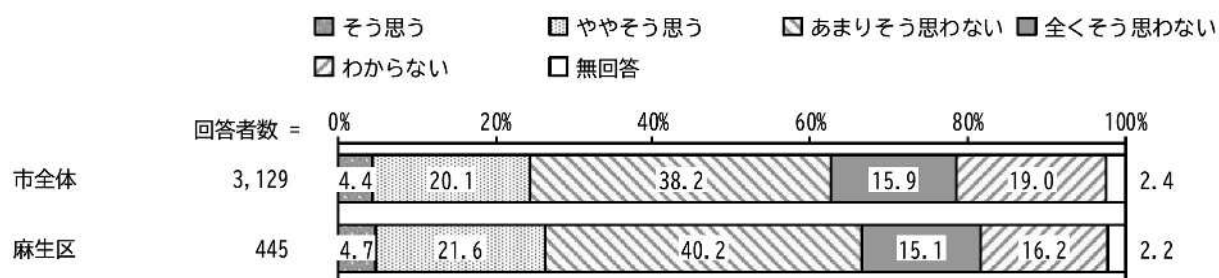
3. 認知症の人と躊躇なく話せる

麻生区では「そう思う」「ややそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が 56.6%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が 23.4%となっています。



4. 認知症の人とはできる限り関わりたくない

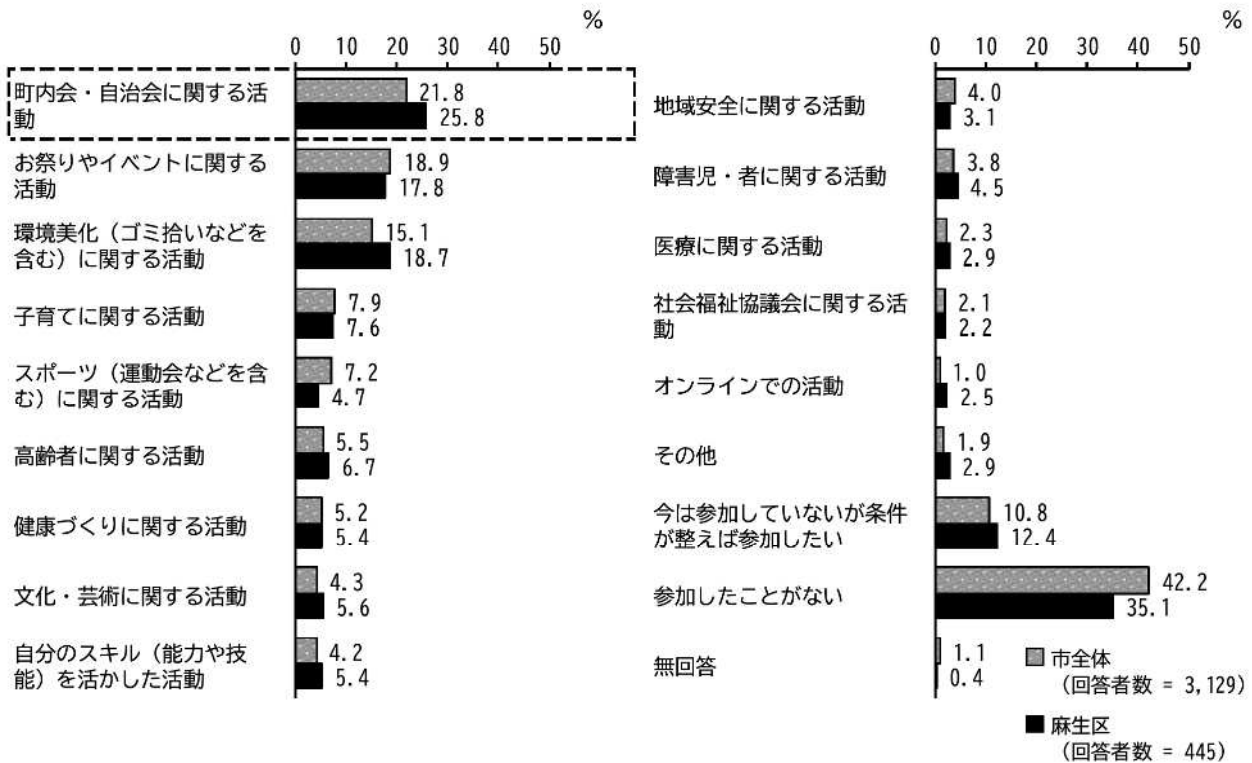
麻生区では「そう思う」「ややそう思う」を合わせた“そう思う”の割合が 26.3%、「あまりそう思わない」「全くそう思わない」を合わせた“そう思わない”の割合が 55.3%となっています。



(6) 地域活動やボランティア活動について

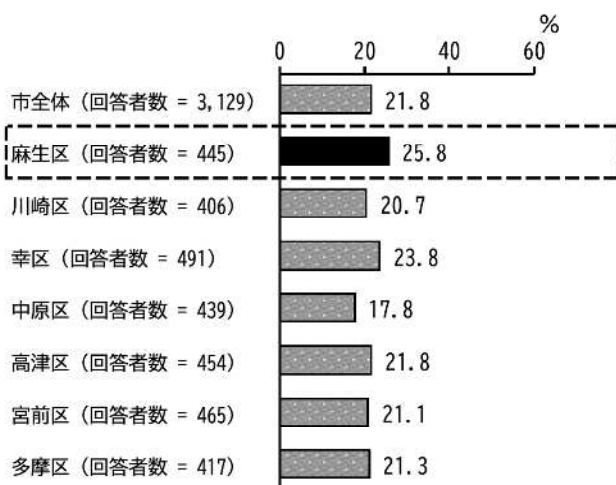
問 34 あなたは、次のような地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。現在参加しているものも含めてお答えください。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「参加したことがない」の割合が最も高くなっています。一方で、参加したことがある回答者の中では、「町内会・自治会に関する活動」の割合が25.8%と最も高く、市全体を4.0ポイント上回っています。

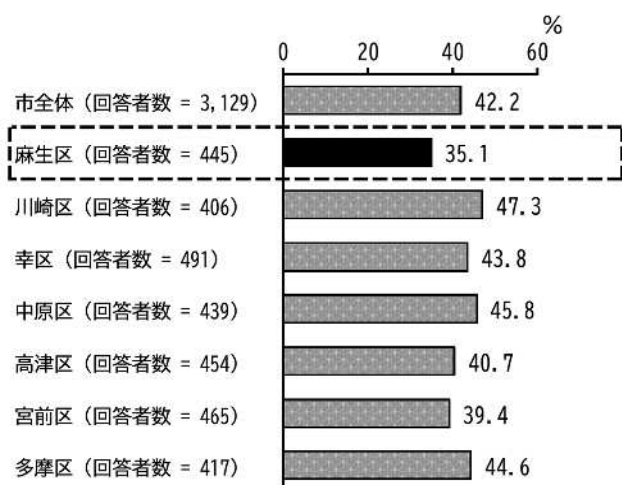


【参考】

町内会・自治会に関する活動



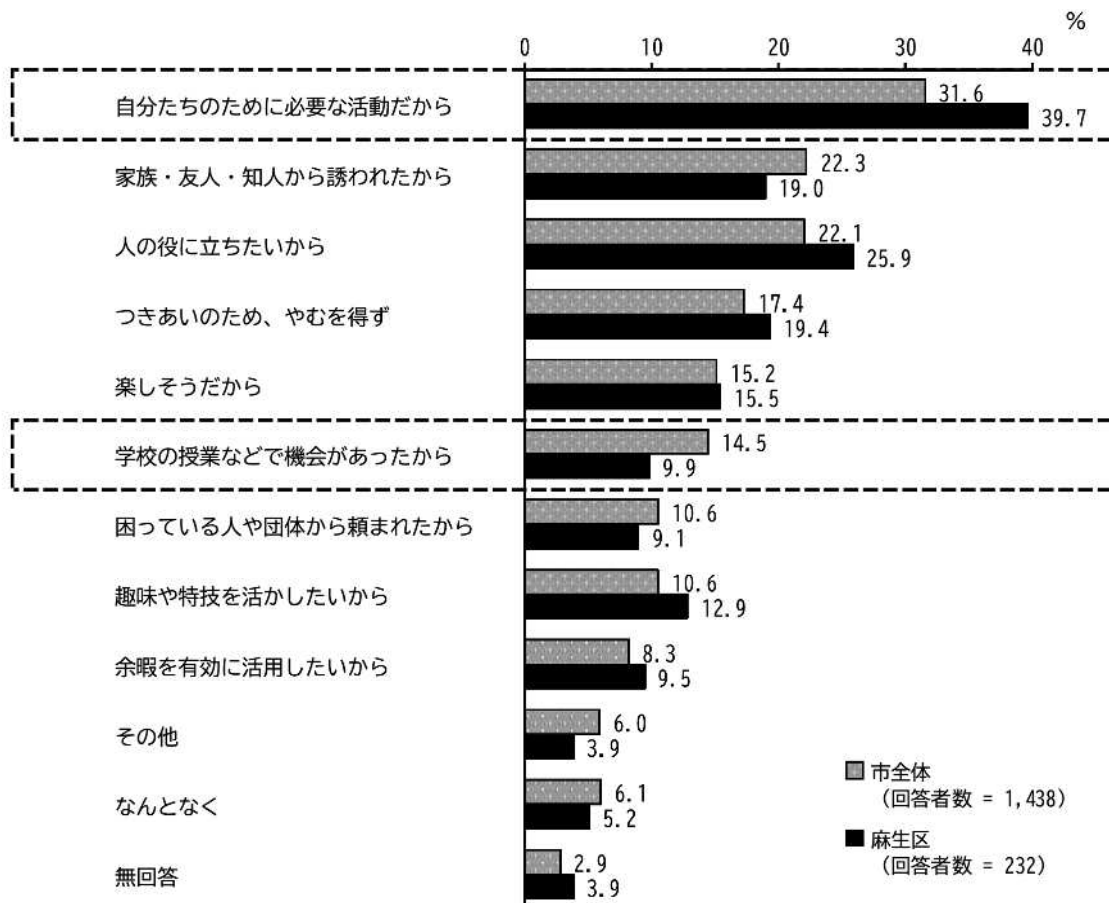
参加したことがない



«「地域活動やボランティア活動に参加したことがある」人が対象»

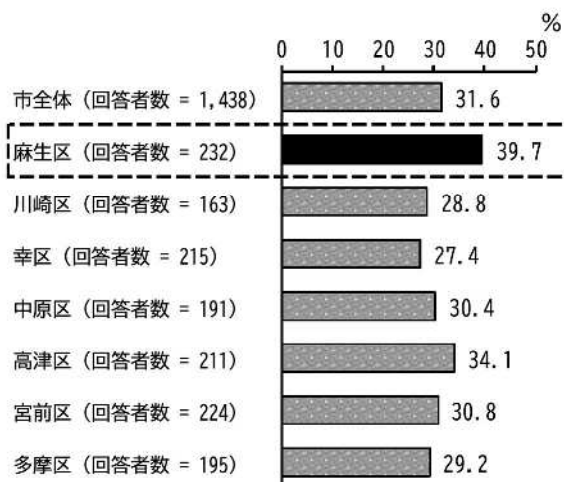
問 34－１ 活動に参加した動機やきっかけは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「自分たちのために必要な活動だから」の割合が 39.7%と最も高くなっており、市全体を 8.1 ポイント上回っています。また、「学校の授業などで機会があったから」が市全体を 4.6 ポイント下回っています。

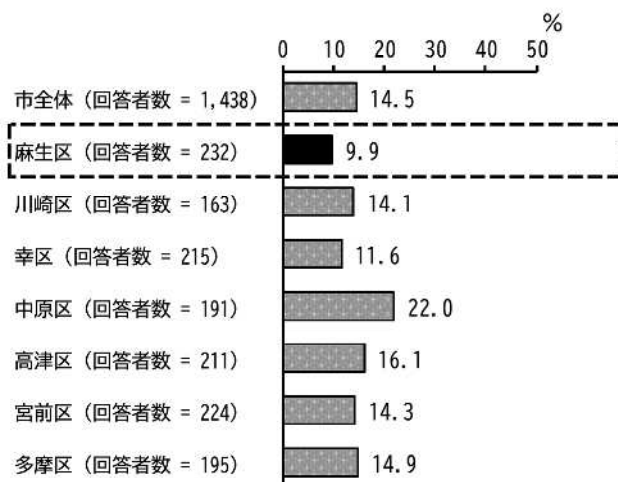


【参考】

自分たちのために必要な活動だから



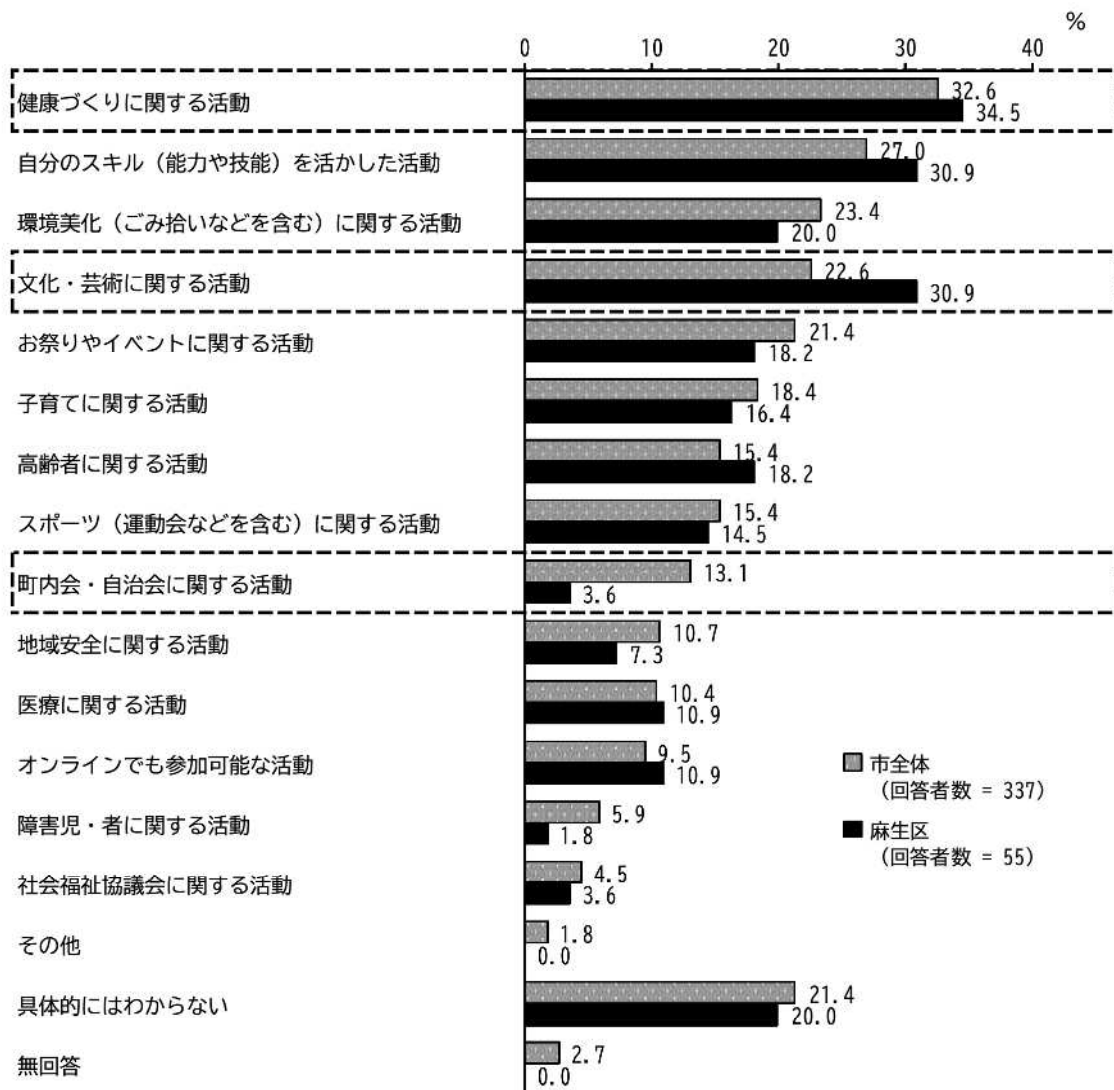
学校の授業などで機会があったから



《地域活動やボランティア活動に「今は参加していないが条件が整えば参加したい」と回答した人が対象》

問 34－2 あなたは、今後どのような活動なら参加したいと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

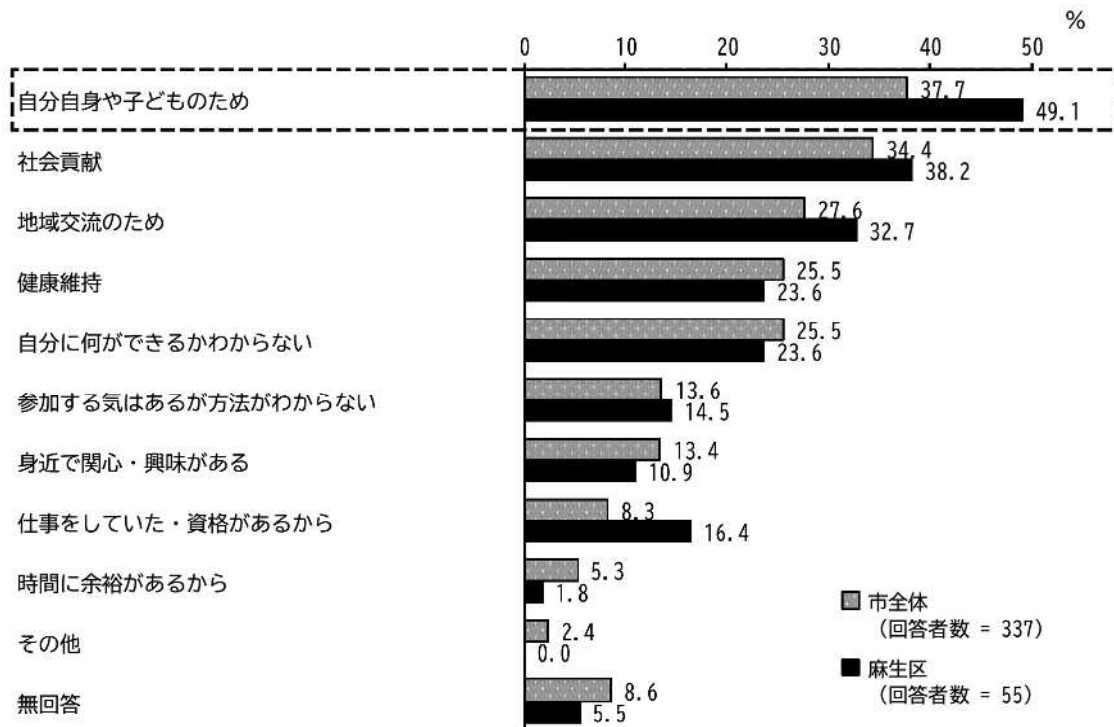
麻生区では「健康づくりに関する活動」の割合が34.5%と最も高くなっています。また、「町内会・自治会に関する活動」の割合が市全体を9.5ポイント下回っており、「文化・芸術に関する活動」の割合が市全体を8.3ポイント上回っています。



「地域活動やボランティア活動に「今は参加していないが条件が整えば参加したい」と回答した人が対象」

問 34-3 その理由は何ですか。具体的にお書きください。
(あてはまるものすべてに○)

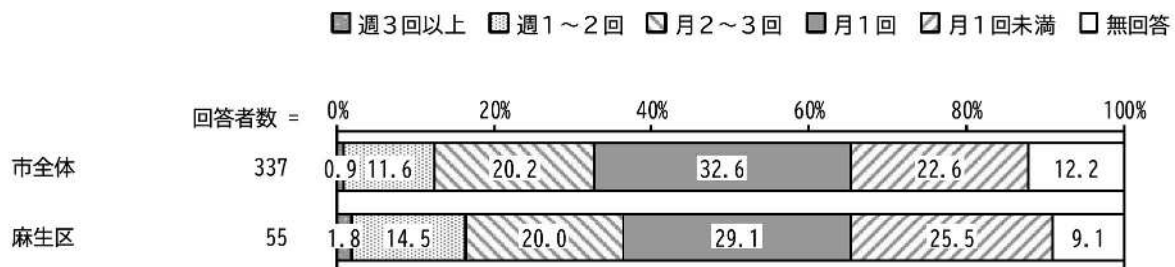
麻生区では「自分自身や子どものため」の割合が49.1%と最も高く、市全体を11.4ポイント上回っています。



「地域活動やボランティア活動に「今は参加していないが条件が整えば参加したい」と回答した人が対象」

問 34-4 参加される場合、活動可能な日数はどのくらいですか。(○は1つだけ)

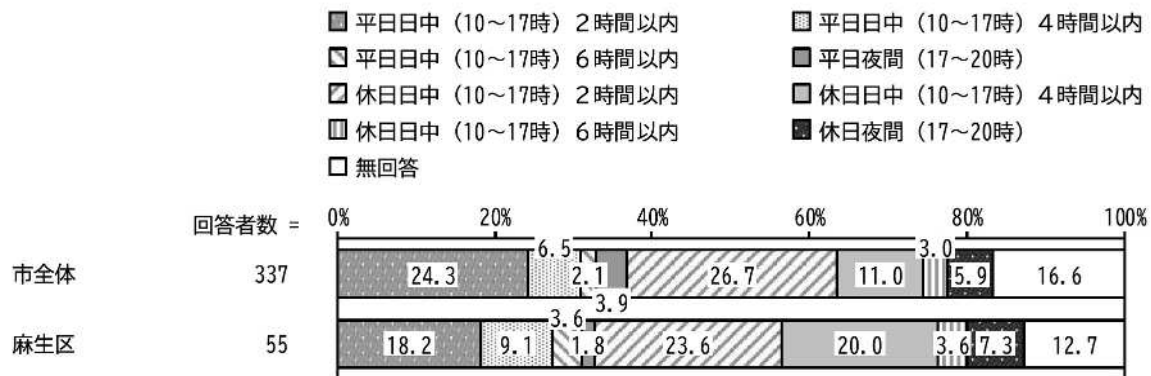
麻生区では「月1回」の割合が29.1%と最も高く、次いで「月1回未満」の割合が25.5%、「月2～3回」の割合が20.0%となっています。



「地域活動やボランティア活動に「今は参加していないが条件が整えば参加したい」と回答した人が対象」

問 34－5 オンラインでの活動も含めて、参加される場合、活動可能な時間はどのくらいですか。（○は1つだけ）

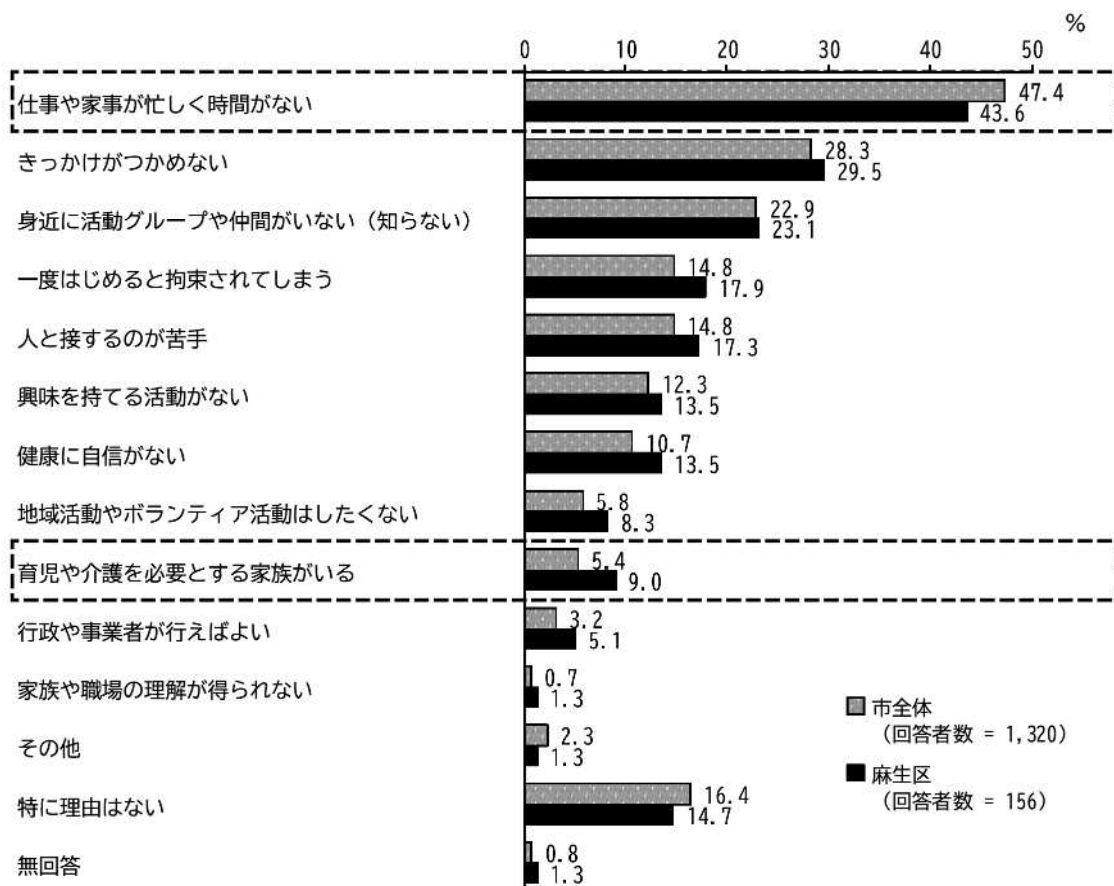
麻生区では「休日日中（10～17 時）2 時間以内」の割合が 23.6%と最も高くなっています。また、「休日日中（10～17 時）4 時間以内」の割合が市全体を 9.0 ポイント上回っています。



「地域活動やボランティア活動に「参加したことがない」と回答した人が対象」

問 34－6 あなたが、地域活動やボランティア活動に参加したことがない理由は、どのような理由からですか。（あてはまるものすべてに○）

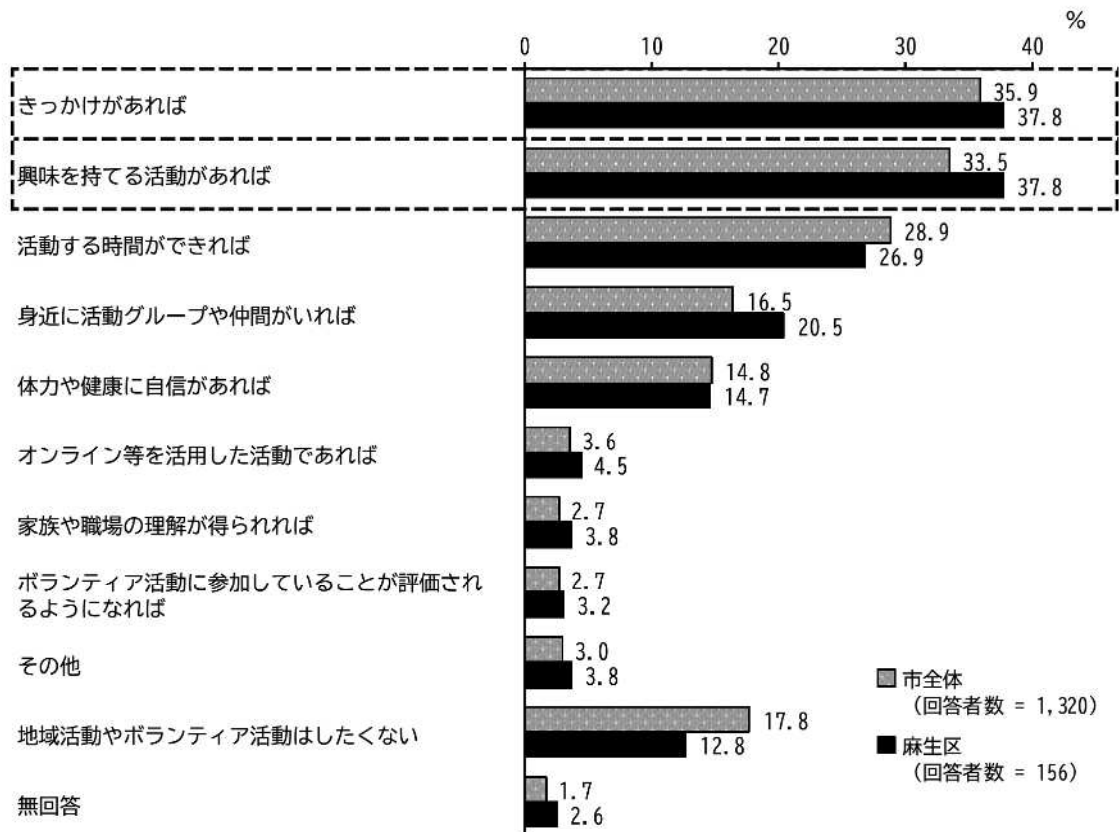
麻生区では「仕事や家事が忙しく時間がない」の割合が 43.6%と最も高くなっています。また、「育児や介護を必要とする家族がいる」の割合が市全体を 3.6 ポイント上回っています。



《地域活動やボランティア活動に「参加したことがない」と回答した人が対象》

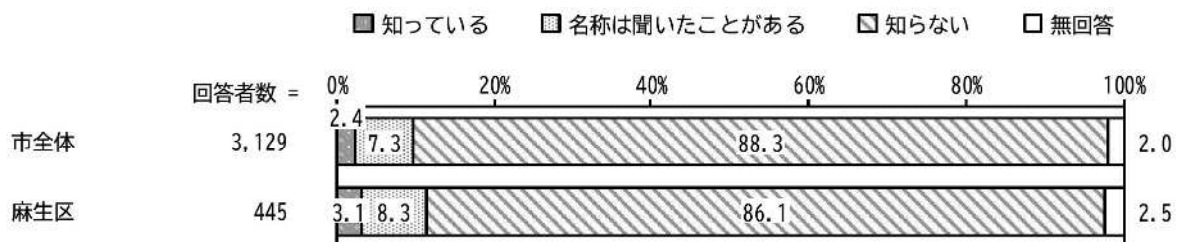
問 34-7 あなたは、どのような状況になれば、地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「きっかけがあれば」、「興味を持てる活動があれば」の割合が 37.8%と最も高くなっています。また、「興味を持てる活動があれば」の割合が市全体を 4.3 ポイント上回っています。



問 35 身近な地域で様々な人や活動同士のつながりが生まれるように、相談やコーディネート、場づくり支援などを通じて、地域課題の解決につながるような多様な主体のネットワークを目指して取り組む、各区にある「ソーシャルデザインセンター」の名称や活動について、あてはまるものをお答えください。(○は1つだけ)

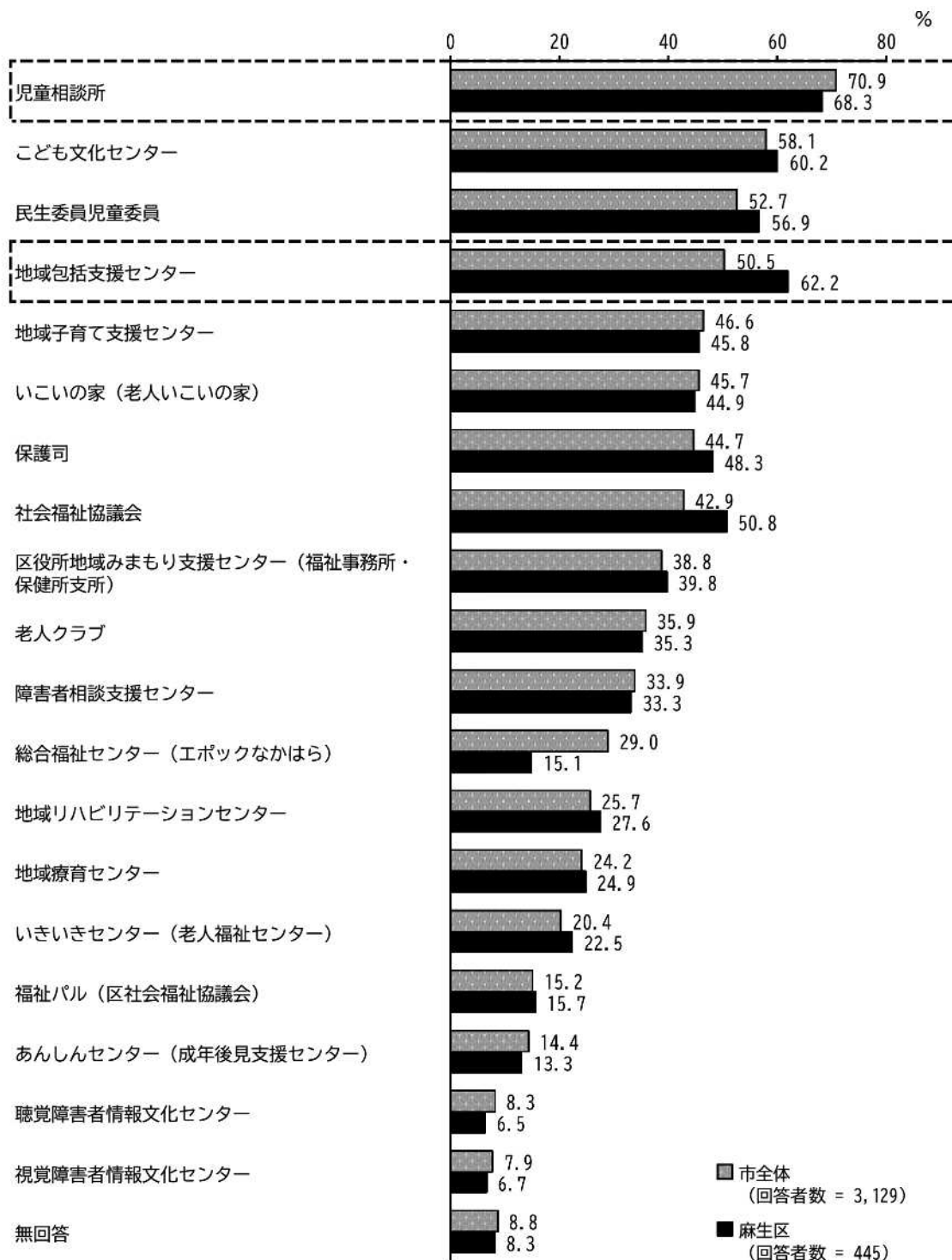
麻生区では「知っている」の割合が 3.1%、「名称は聞いたことがある」の割合が 8.3%、「知らない」の割合が 86.1%となっています。



(7) 保健・福祉に関することについて

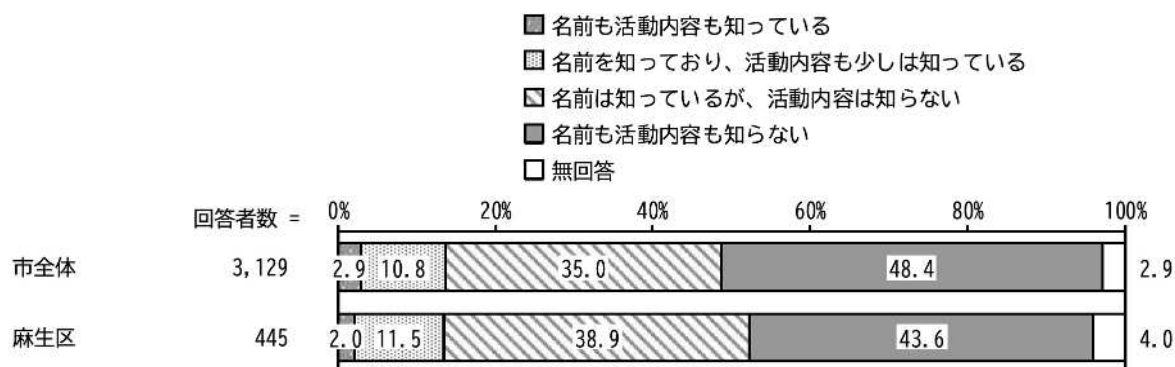
問 36 あなたは、次の保健や福祉の団体・施設等を知っていますか。
(○はそれぞれ1つだけ)

麻生区では「児童相談所」の割合が 68.3%と最も高くなっています。また、「地域包括支援センター」の割合が市全体を 11.7 ポイント上回っています。



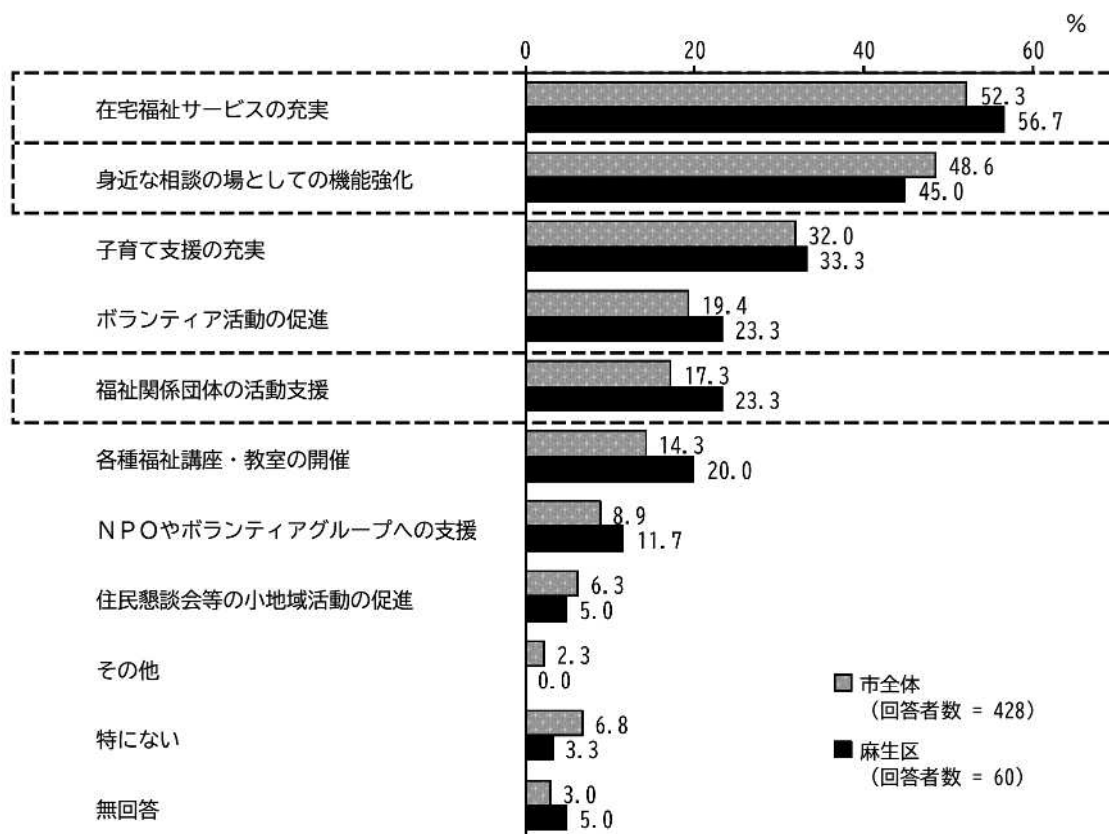
問 37 あなたは、地区・区社会福祉協議会についてどの程度知っていますか。
(○は1つだけ)

麻生区では「名前も活動内容も知らない」の割合が43.6%と最も高くなっています。また、「名前も活動内容も知らない」が市全体を4.8ポイント下回っており、「名前は知っているが、活動内容は知らない」の割合が市全体を3.9ポイント上回っています。



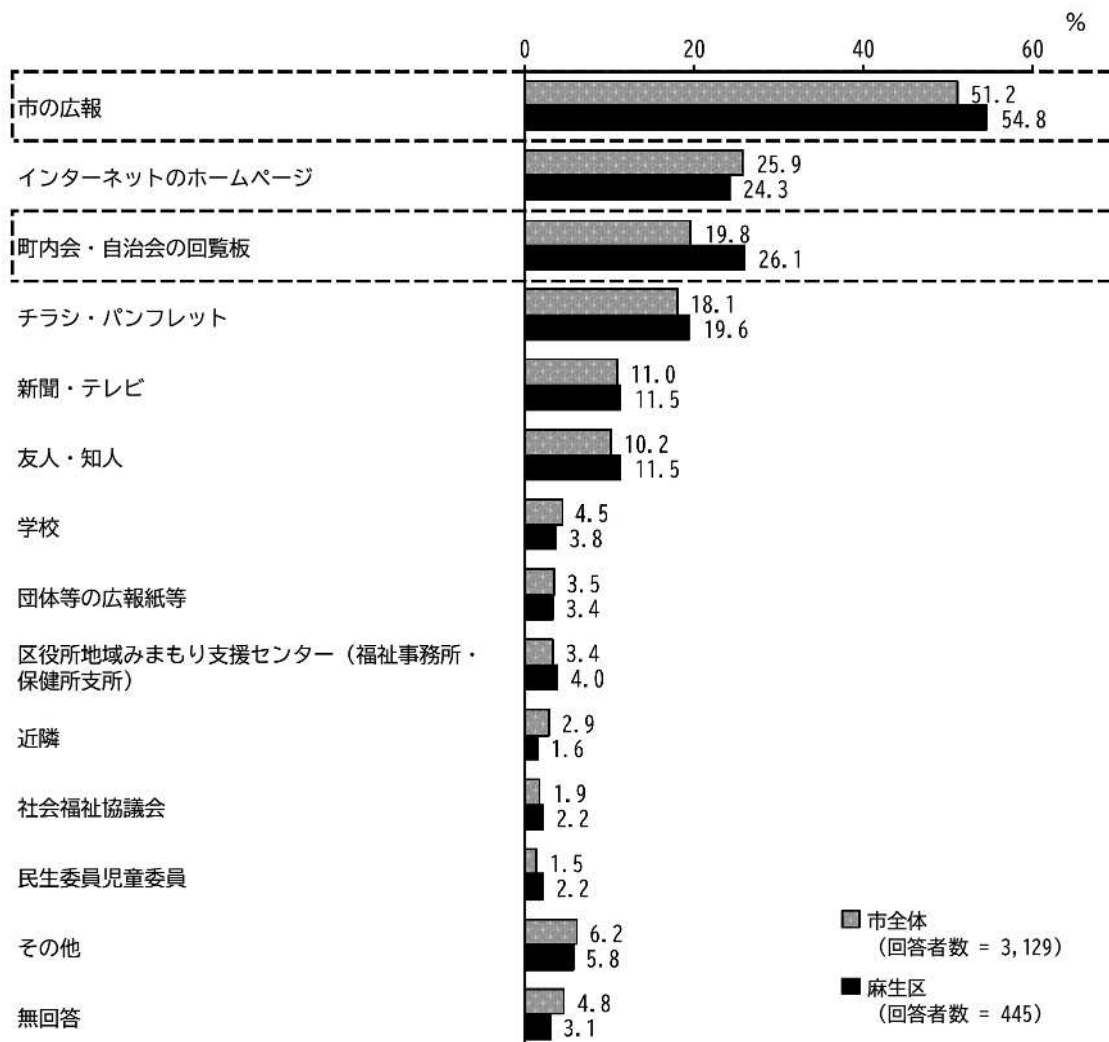
問 37-1 あなたは、地区・区社会福祉協議会の活動として、今後どのようなことを期待していますか。(○は3つまで)

麻生区では「在宅福祉サービスの充実」の割合が56.7%と最も高くなっています。また、「身近な相談の場としての機能強化」が市全体を3.6ポイント下回っており、「福祉関係団体の活動支援」の割合が市全体を6.0ポイント上回っています。



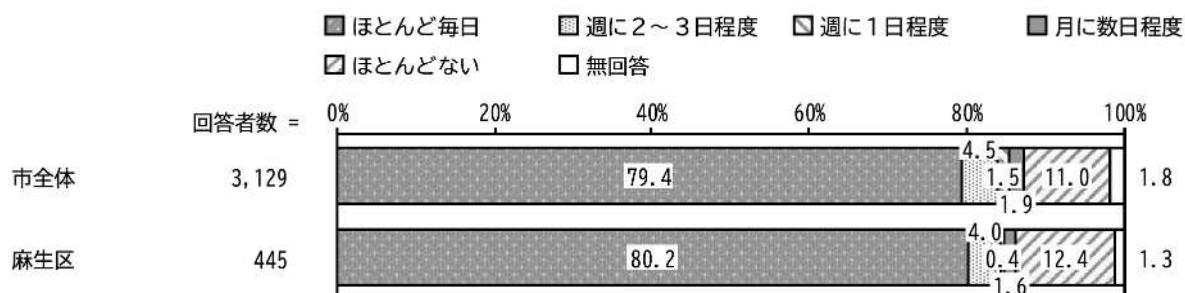
問 38 あなたは、保健や福祉の情報をどこから入手していますか。
(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「市の広報」の割合が 54.8%と最も高くなっています。また、「町内会・自治会の回覧板」の割合が市全体を 6.3 ポイント上回っています。



問 39 あなたは、ふだんパソコンや携帯電話でインターネットにアクセスしたり、メールのやりとりをどのくらいしていますか。(○は1つだけ)

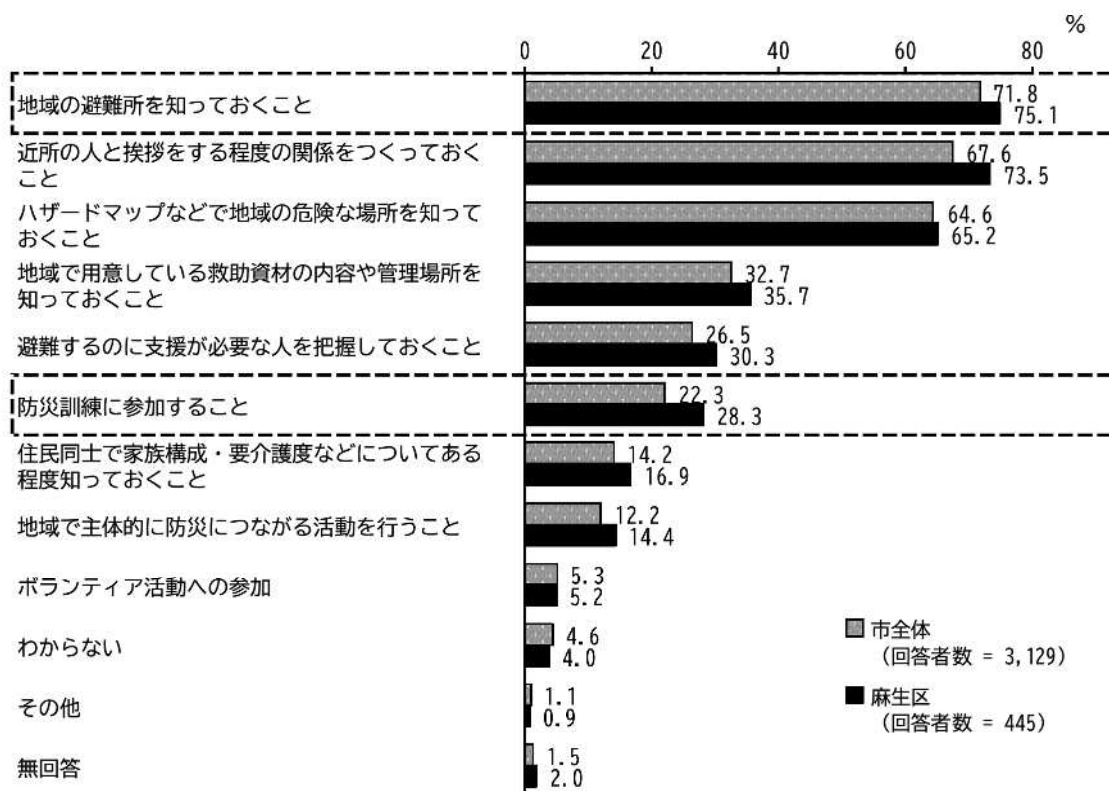
麻生区では「ほとんど毎日」の割合が 80.2%と最も高く、次いで「ほとんどない」の割合が 12.4%となっています。



(8) 防災に対する意識と備えについて

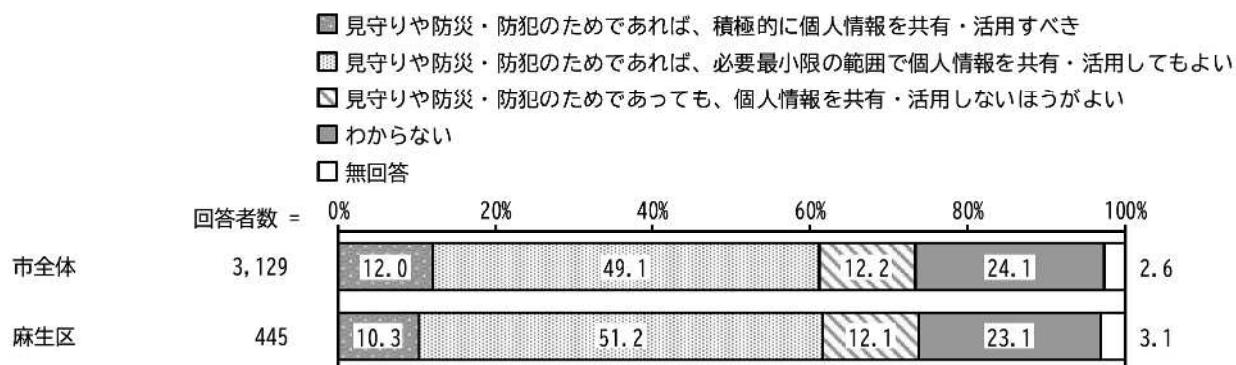
問 40 大規模な災害が発生すると、地域住民同士で助け合いが重要ですが、普段からどのような活動をする必要があると考えますか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「地域の避難所を知っておくこと」の割合が75.1%と最も高くなっています。また、「防災訓練に参加すること」の割合が市全体を6.0ポイント上回っています。



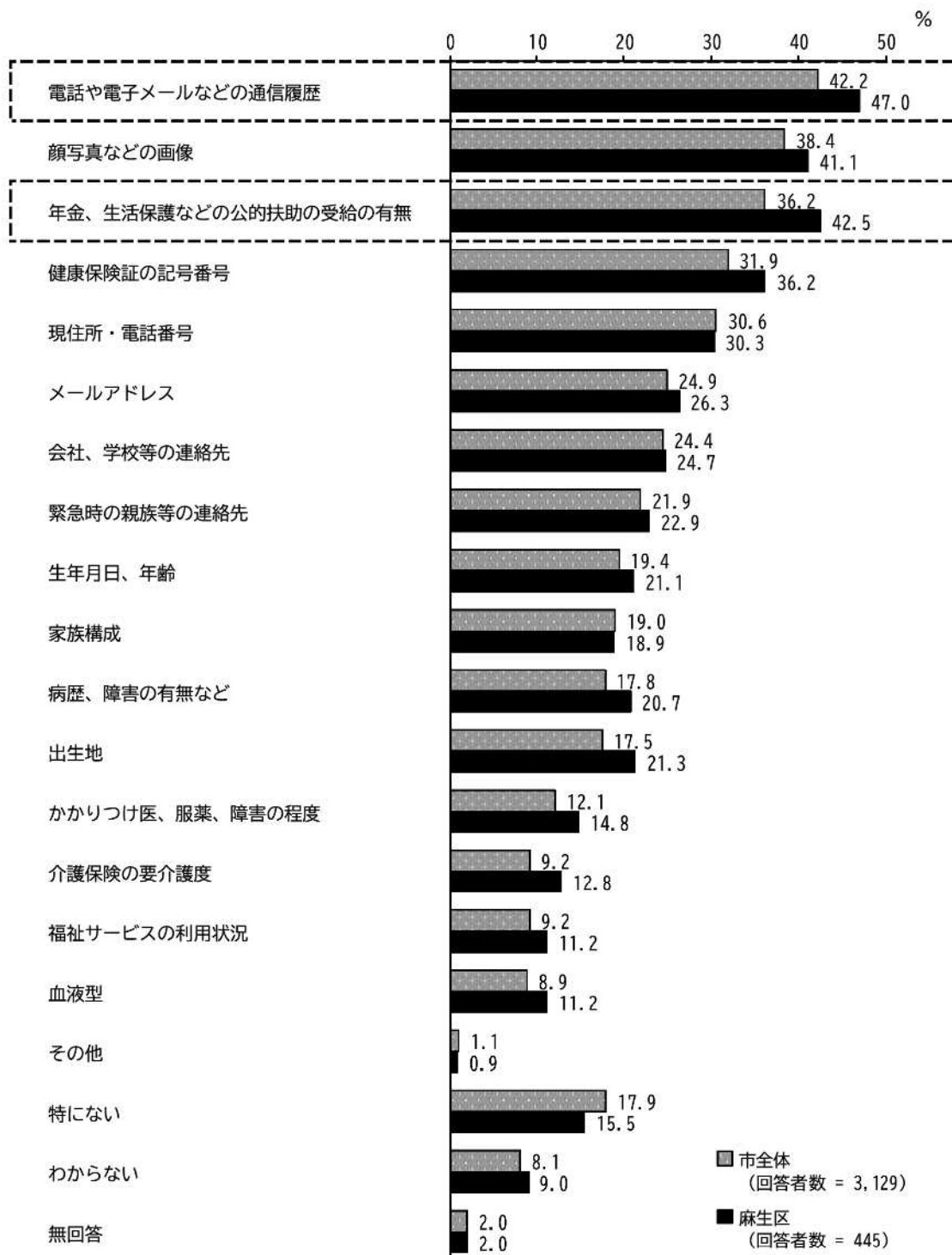
問 41 あなたは、市・区が保有する高齢者や障害者の情報を、見守りや防災・防犯のために、他の部局や自主防災・防犯組織といった関係団体と共有することを、どのようにお考えですか。(○は1つだけ)

麻生区では「見守りや防災・防犯のためであれば、必要最小限の範囲で個人情報を共有・活用してもよい」の割合が51.2%と最も高くなっています。



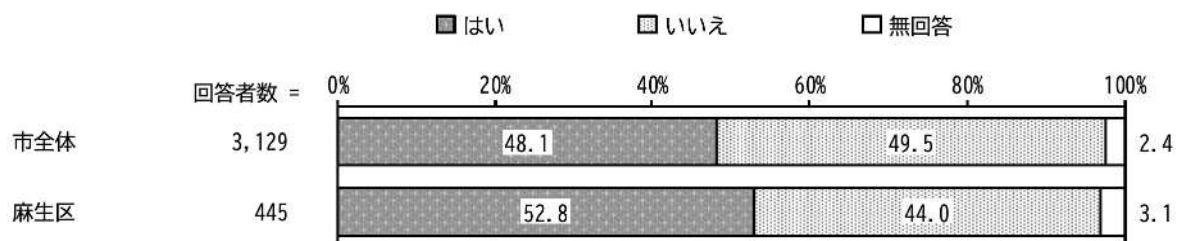
問 42 あなたは次の情報のうち、『防災・防犯などの緊急時に備える』ためであっても、他人に知られたくないものがありますか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「電話や電子メールなどの通信履歴」の割合が 47.0%と最も高くなっています。また、「年金、生活保護などの公的扶助の受給の有無」の割合が市全体を 6.3 ポイント上回っています。



問 43 あなたは地震などの大きな災害が発生したときの対策として、家具転倒防止対策を行っていますか（○は1つだけ）

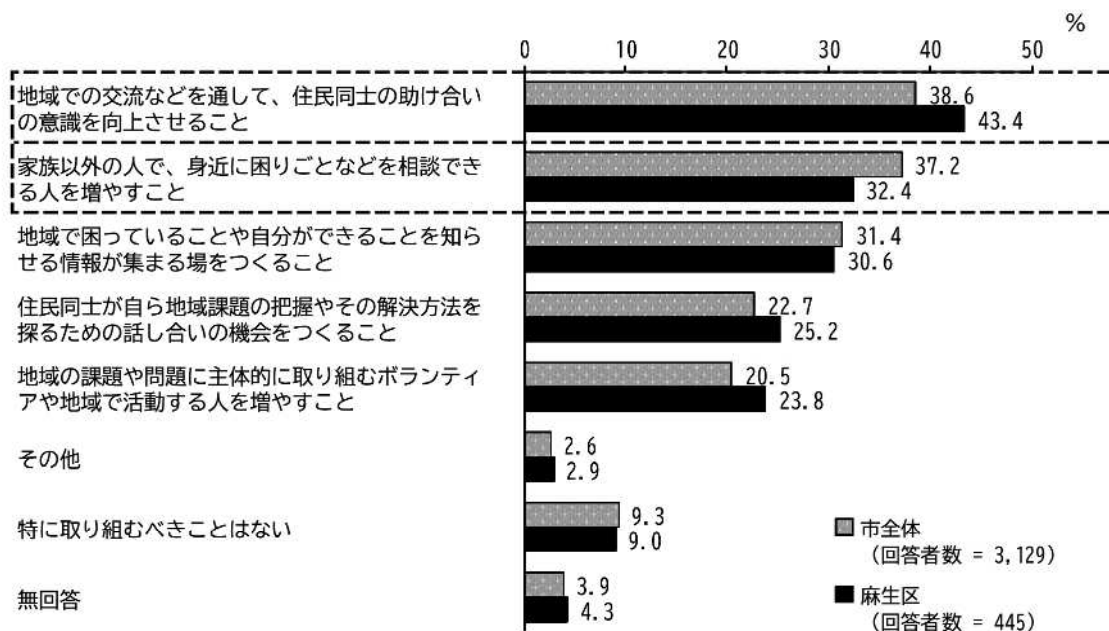
麻生区では「はい」の割合が 52.8%、「いいえ」の割合が 44.0%となっています。また、「いいえ」が市全体を 5.5 ポイント下回っています。



(9) 今後の地域福祉の推進について

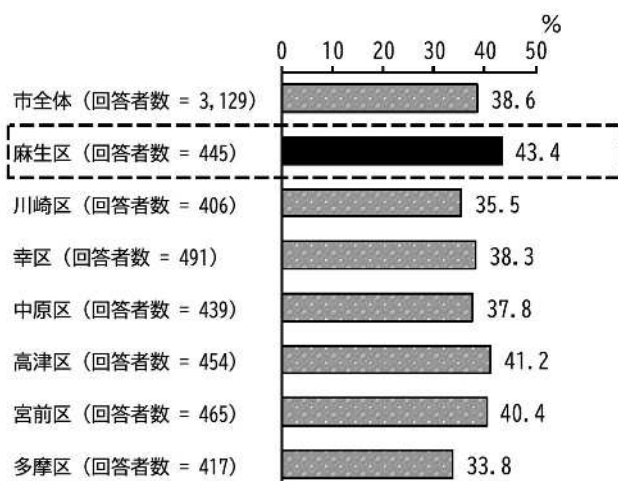
問 44 今後、地域福祉を推進するために、市民が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」の割合が43.4%と最も高くなっており、市全体を4.8ポイント上回っています。また、「家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと」が市全体を4.8ポイント下回っています。

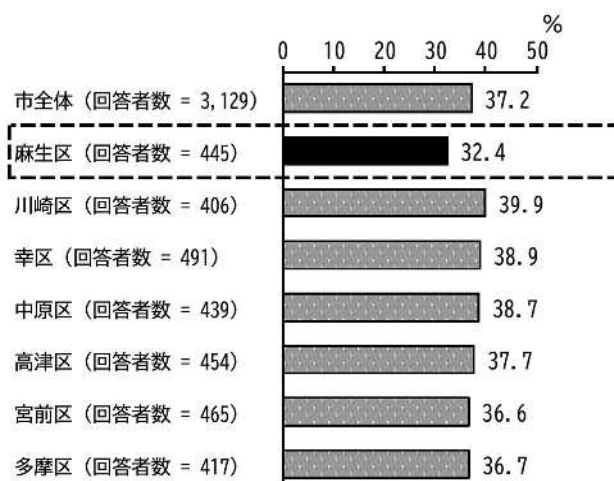


【参考】

地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること

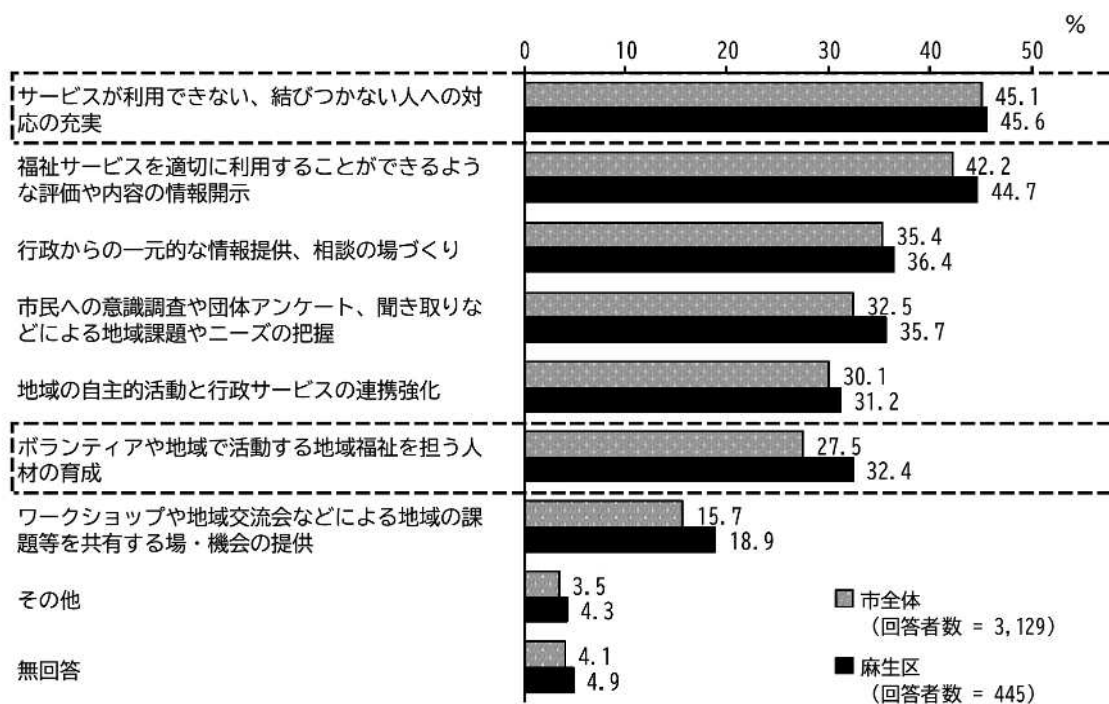


家族以外の人で、身近に困りごとなどを相談できる人を増やすこと



問 45 今後、地域福祉を推進するために、行政が取り組むべきこととして、あなたはどのようなことが重要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

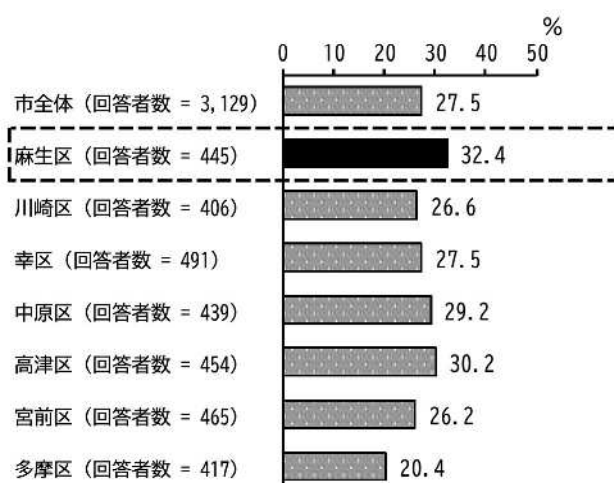
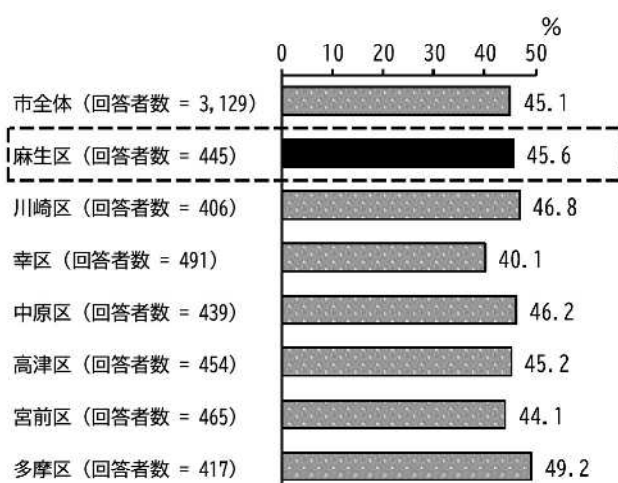
麻生区では「サービスが利用できない、結びつかない人への対応の充実」の割合が 45.6%と最も高くなっています。また、「ボランティアや地域で活動する地域福祉を担う人材の育成」の割合が市全体を 4.9 ポイント上回っています。



【参考】

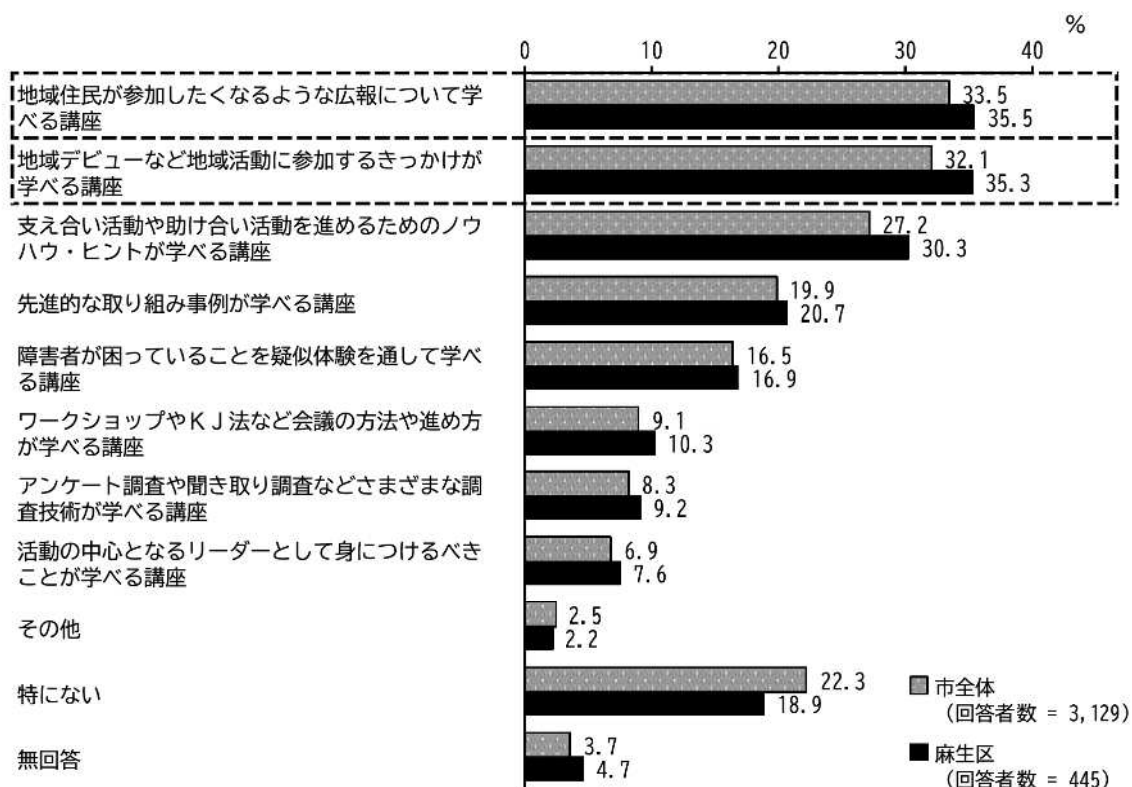
サービスが利用できない、
結びつかない人への対応の充実

ボランティアや地域で活動する
地域福祉を担う人材の育成



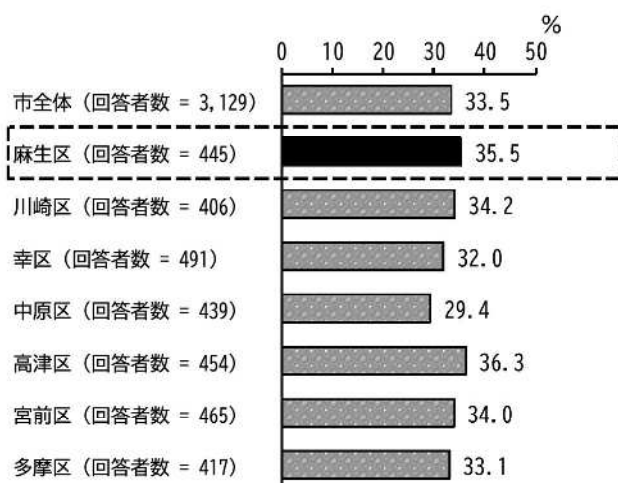
問 46 今後、地域福祉を推進するために、行政が開催する講座としてどのような内容の講座が必要とお考えですか。(あてはまるものすべてに○)

麻生区では「地域住民が参加したくなるような広報について学べる講座」の割合が 35.5%と最も高くなっています。また、「地域デビューなど地域活動に参加するきっかけが学べる講座」の割合が市全体を 3.2 ポイント上回っています。

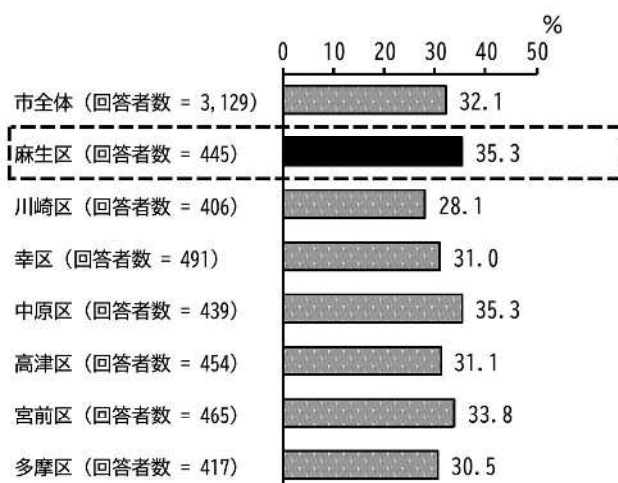


【参考】

地域住民が参加したくなるような
広報について学べる講座



地域デビューなど地域活動に
参加するきっかけが学べる講座



第7回川崎市地域福祉実態調査 報告書（麻生区版）

発行年月：令和8年3月

発 行：川崎市

編 集：川崎市健康福祉局地域包括ケア推進室
〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地

電 話：044-200-2626

FAX：044-200-3926

E-mail：40keasui@city.kawasaki.jp

麻生区における地域福祉に関する課題

○ 高齢化への対策

麻生区の老年人口割合（65 歳以上）が 24.7%と、市内 7 区で最も高くなっています。また、実態調査では「65 歳以上の人がいる」割合が 32.6%と市全体（27.6%）を 5.0 ポイント上回っています。高齢者の増加に対する支援策が求められています。

※ 引用元：川崎市の現況（P2） / 【各区版】麻生区_報告書（P5）

○ 日常生活を支える「買い物・移動」への高い不安

実態調査では、地域生活の問題点について「地域での活動・資源に関する問題（買い物、移動、食事など）」が 11.9%と市全体（7.2%）を上回り、市内 7 区で最も高くなっています。日常生活をおくる上で必要な買い物や移動についての支援や仕組みづくりが課題となっています。

※ 引用元：【各区版】麻生区_報告書（P14）

○ 健康上の問題による日常生活への影響

実態調査では、健康上の問題で日常生活に何らかの影響が「ある」割合は 14.8%と、高津区と並んで市内 7 区で最も高くなっています。健康上の問題は高齢者の増加にも関連していると考えられ、日常生活をおくる上での支援策が求められています。

※ 引用元：【各区版】麻生区_報告書（P8）

○ 住民同士の助け合いの意識向上

実態調査では、地域福祉を推進するために住民が取り組むべきことについて「地域での交流などを通して、住民同士の助け合いの意識を向上させること」が 43.4%と市全体（38.6%）を上回り、市内 7 区で最も高くなっています。公的な支援だけではなく、住民同士による共助も地域生活で必要とされていることがうかがえます。

※ 引用元：【各区版】麻生区_報告書（P44）

○ 地区・区社会福祉協議会に対する期待

実態調査では、地区・区社会福祉協議会に期待する活動として「在宅福祉サービスの充実」が 56.7%と市全体（52.3%）を上回り、「福祉関係団体の活動支援」が 23.3%と市全体（17.3%）を 6.0 ポイント上回っています。

※ 引用元：【各区版】麻生区_報告書（P39）

○ 情報に関する多様な手段の確保

実態調査では、保健や福祉の情報先について「市の広報」（54.8%）や「町内会・自治会の回覧板」が市全体を上回っています。パソコンや携帯電話の利用について「ほとんど毎日」が 80.2%と市全体（79.4%）を上回っているものの、高齢化が進みデジタル機器を使用できない住民が多くなることを想定して、多様な情報伝達手段の確保が求められます。

※ 引用元：【各区版】麻生区_報告書（P40）